

岩手県総合計画審議会

令和4年度第5回県民の幸福感に関する分析部会

日時：令和4年7月27日(水) 13:30～16:30

場所：エスポワールいわて 3階 特別ホール

次 第

1 開 会

2 議 題

- (1) 分野別実感の分析について
- (2) 令和4年「県民の幸福感に関する分析部会」年次レポート（素案）について
- (3) その他

3 閉 会

配付資料一覧

○資料1 幸福について考えるワークショップの意見等について

○資料2 令和4年度年次レポート素案及びその概要版

幸福について考えるワークショップの意見等について

1 目的

いわて県民計画（2019～2028）は、県民の幸福を守り育てることを基本目標としていることから、いわて県民計画の推進に向け、県民に「幸福」について考える機会を提供するとともに、ワークショップを通じて県民の幸福感に関する意識を把握し、政策評価等に活用することを目的とする。

2 対象とした分野別実感

- ① 地域社会とのつながり
- ② 必要な収入や所得

3 ワークショップの開催状況

現在までのワークショップ開催状況は以下のとおりであり、第6回までの結果については別紙のとおり取りまとめた。

○ワークショップの開催状況

	開催日	開催地域	参集者数
第1回	6月7日	県南（遠野市）	19名（男性10名、女性9名）
第2回	6月28日	県北（軽米町）	12名（男性7名、女性5名）
第3回	6月29日	県央（雫石町）	7名（男性3名、女性4名）
第4回	7月6日	沿岸（釜石市）	6名（男性4名、女性2名）
第5回	7月8日	沿岸（大船渡市）	10名（男性9名、女性1名）
第6回	7月12日	沿岸（宮古市）	10名（男性0名、女性10名）

○今後の予定

	開催日	開催地域
第7回	7月23日	県央（滝沢市）
第8回	7月23日	沿岸（陸前高田市）

※申し込み状況により開催回数が増える可能性もある

○ワークショップにおいて出された意見等

①地域社会とのつながり		
	低下したと考えられる具体的なイメージ（基準年（H31）との比較）	考えられる解決策・自分ができること
第1回目 (遠野市)	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントもあり、母数（地域の住民数）を考慮すると少なくなったとは感じていない。(60代:男性) ・調査の「地域」の捉え方（範囲）が違うのではないか。大きな地域ではなく身近な自治会等のつながりはある。(60代:女性) ・親世代はあった熱い（厚い）付き合いを若い世代で継続するのは難しい。生活様式の変化や働き方などの影響があると思う。(50代:女性) ・スマホ・オンラインの利活用が進んだと感じている。学校関係はLINEなど使っているので繋がり方とコミュニティの変化があるのではないか。(30代:女性) ・もともと若い世代の参加が減っている中で、<u>新型コロナ感染防止を理由にできる気安さがあるのではないか？</u> (70代:男性) ・スマホ等の使い方がわからなく、できない人が取り残される。(60代:男性) ・会わなくてもよくなった。（「会う」機会と「会う」方法の選別が進んだ。）(40代:男性) ・行政主催の行事等は感染防止のための中止が相次いだが、地域主体の行事は外での活動を中心に実施しているので、行事自体がスリム化したためか、参加する人が増えている。(70代:男性) ・葬儀の規模が小さくなった。無駄というのはないが、必要以上のしがらみが減るので、今後もこのまま小規模のまま変わらないのではないか。正直、楽ではある。(60代:女性) ・移動困難の高齢者が増えている。自分の免許返納後の未来が不安。買い物難民になってしまうことを心配している。(70代:女性) ・隣近所とのつながりはできていると思うが・・・。仕事の都合上、地域活動への参加が難しいところもあって、親世代のような関わりはできない。(40代:男性) 	<ul style="list-style-type: none"> ・地道な声かけは大事。(50代・女性) ・社会の変化に合わせてこちらも工夫していかなければ行けない。どうしたものか・・・(60代:男性) ・SNSなど使い方を学ぶ機会をもつ。(60代:女性) ・移動販売などの仕掛けや移動支援について地域で考えていく。(50代:男性) ・車や自動運転の技術開発が望まれる。(70代:女性) ・地域資源を改めて見直すことから始めよう。(70代:男性)

	低下したと考えられる具体的なイメージ（基準年（H31）との比較）	考えられる解決策・自分ができること
第2回目（軽米町）	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減による担い手不足に加えて地域の仕事が複雑化して、積極的に参加する気になれない。不要だと思ふことも多い。(40代:男性) ・子育て重視で生活している。学校行事や習い事などに対応していると、地域コミュニティと関わるのが難しい。(30代:女性) ・若者が消防団に加入してすぐに辞めていく。原因は、多様な生活か？組織の体質か？(50代:男性) ・<u>コロナ拡大とかで集まる機会が減ったが、それに慣れてきている。(40代:女性)</u> ・<u>コロナ拡大後に戻ってきたばかりでよくわからない。これからつながっていく。(20代:男性)</u> ・特に減った感じはしない。小さな集落なので、気に掛け合いながら生活している。(60代:女性) ・地域の同世代と出会う場、つながる機会が少ない。(40代:男性) ・地域活動などは親が参加しているので、自分はいいかなって思っている。(30代:女性) ・誰かの負担の上で成り立っている地域活動。若者がいないのではなく、若者の生活スタイルなどの変化に対応できていないのではないか。(50代:男性) ・地域というか中学校の同級生と一緒に進学したくなる学校がいいなって思う。(10代:男性) ・行政区が広い。高齢者が増えて、自然と交流する機会が減っている。(50代:男性) ・全体的には減っているかもしれないが、必要などころとはつながっている。(30代:女性) ・義務感があると参加がためらわれる。(40代:女性) 	<ul style="list-style-type: none"> ・交流の場など継続的に取り組める場をつくっていくことが大事。(40代・男性) ・昔ながらのやり方を見直していく。(40代:女性) ・地域の資源・宝をもっと活用する。そのためにはやっぱり話す場づくりか？(40代:男性)

	低下したと考えられる具体的なイメージ（基準年（H31）との比較）	考えられる解決策・自分ができること
第3回目（栗石町）	<ul style="list-style-type: none"> ・となり近所と付き合いはない。距離感を選択しているもの。(60代：女性) ・かわる機会はあるが、それぞれが「幸せ」を感じるのであれば、(かわらなくても) それでいいのではないか。(30代：女性) ・紫波町は住みやすいし面白いと感じている。(20代：女性) ・町内に話す人（相手）がいなかったが、「きっかけ」があり変わった。(60代：女性) ・震災後、(活動のすばらしさを見て) 遠野に移住を考えた。(60代：女性) ・地域に期待度が高過ぎたかもしれない。(30代：女性) ・つながりたいと思ってくれる人とつながりたい。(30代：女性) ・地域を知らない、地域でしていることを地域で共有できていない。(20代：女性) ・「つながる」必要がなくなった。ネットで対応可能である。(40代：男性) ・最低限、維持はできている。(40代：男性) ・回覧板など必要最低限のことは継続されている。(40代：男性) ・もともとこの地域の人でなくても、仲良くしていなくても、役割は果たすべきである。(30代：男性) ・つて、世話をしてくれる人がいる。(40代：男性) ・まちの規模が大き過ぎるとどういう人がいるのかもわからず、関わることに不安を感じる。(40代：男性) ・かわることに苦心しなくていい。(40代：男性) ・「つながり」が美德というイメージは「昭和」的。(40代：男性) ・背景、風土、ことばの違う人は地域に溶け込むのが大変である。(30代：男性) 	<ul style="list-style-type: none"> ・これからは近すぎない距離感をもちたい(30代・女性) ・ゴミ捨て場のルールや清掃、町内会の班長などはしなければならぬものと思っている。(40代：男性)

	低下したと考えられる具体的なイメージ（基準年（H31）との比較）	考えられる解決策・自分ができること
第4回目（釜石市）	<ul style="list-style-type: none"> ・同年代では集まっているが、固定化している。（20代：女性） ・地域社会とつながるきっかけがない。（20代：女性） ・新しいつながりを持つ必要はないと考えている人もいる。（30代：女性） ・地域に関わってきた家庭で育ってきたので、地域に関わるのは当たり前なので関わっている。そういう環境がなかった人は、特に関わりたいと思っていないのではないかと。（30代：男性） ・<u>住んでいる地域の町内会活動は機能していると思う。そんな中、コロナ禍の影響か、見知った高齢者の顔が見えない（バス停にいないとか）と心配になる。</u>（30代：女性） ・転勤族なので、ほどほどに付き合っていく。（50代：男性） ・仕事柄関わらなければいけないが、それが休日までになると大変。バランスが難しい。（30代：男性） ・知り合う、地域の人々の顔を知ることが安心につながる。（30代：女性） ・年配の方は地域との関わりを重視している。でも今の若い世代にとってはわずらわしさや面倒臭さがあるのではないかと。（30代：男性） ・<u>感染症拡大防止をきっかけに、付き合い方が変わってきた。現状で満足している。</u>（50代：男性） ・関わると仲間ができる。仲間を集めるための声かけのタイミングなどはかっている（30代：男性） ・地縁にこだわらない生き方をしている人と従来の生き方をしている人の接点がないかもしれない（50代：男性） 	<ul style="list-style-type: none"> ・何かしら繋がりが必要と思う。（30代：男性） ・子ども達が、地域のことを学ぶ機会は大事。イベントなど企画していきたい。（30代：女性） ・自分の得意（演劇）を生かして、自己表現力を身につける機会を提供したい。（30代：女性） ・家庭内のことを整理していく必要がある。（30代：男性）

	低下したと考えられる具体的なイメージ（基準年（H31）との比較）	考えられる解決策・自分ができること
第5回目（大船渡市）	<ul style="list-style-type: none"> ・友達やネットを通じた繋がりががあるので特に困っていない。(20代：女性) ・4月に移住してきたが、ご近所付き合いが煩わしいと感じる。詮索されるのが嫌。(20代：女性) ・仕事柄、地域の活動などには時間が合わない。(20代：男性) ・高齢者が多い地域。自分から会いに行くようにして、繋がりを持つようにしている。(20代：男性) ・地域コミュニティでのつながり方は時代に合わないのではないかと。若い人が関わらない理由の1つだと思う。(20代：男性) ・祭りなど大きな行事には顔を出すようにしている。今は、地域の集まりも少ない。(20代：男性) ・地域とつながってなくても幸せそうな人が増えた気がする。(30代：男性) ・なんとなく、個性の尊重が少ない気がしている。(30代：男性) ・積極的に繋がりたい人が減っているのではないかと。(20代：男性) ・町中に住んでいる。つながってなくても幸せそうに見える。(20代：男性) ・生活スタイルを選択できる。しかし、地域の歴史とかそういうことを知る機会が少ないのできっかけがないのかもしれない。(20代：男性) ・地域社会ってなんだろう？ 子育てなど考えても社会環境の不安がある。だから、どうしても仲間とつながってほしいかなって思う。(20代：女性) 	<ul style="list-style-type: none"> ・実は避難場所を知らない。避難訓練などがきっかけになるのではないかと。(20代：男性) ・協力隊として選んでの地。受け入れてもらえるように積極的に参加する。(20代：男性) ・自分の生き方があって働き方が変わる。しっかり考える。(20代：男性) ・少しでも周りの人の事を想像して、企画を仕掛けられるようにアンテナを高くする。(20代：女性) ・もっと地域を知る。そのために出かける。(30代：男性) ・回覧板等をIT化のお手伝いができる。(20代：男性)

	低下したと考えられる具体的なイメージ（基準年（H31）との比較）	考えられる解決策・自分ができること
第6回目（宮古市）	<ul style="list-style-type: none"> ・災害公営住宅入居後、なかなか地域に馴染めず。その後、町内会が解散し、更に交流する機会がなくなった。（70代：女性） ・集合住宅が多い地域に住んでおり、普段から繋がりが希薄と感じる。回覧板も年1回しか回らず、地域の情報を得る機会がない。（40代：女性2名から） ・子育て中だが、実家に世話になっていて、「〇〇さん家のお孫さん」と地域で見守られる感じが嬉しいし、助かっている。（40代：女性） ・<u>職場のある地域は、仕事柄繋がりを持てているが、住んでいる地域は活動がほとんどなくなった。震災後に住民が転居し減少したこと、その後台風被害が合ったことに加えてコロナの影響だと思う。</u>（60代：女性） ・子供会が合併して巨大化し、自治会等と連携した行事運営が難しい面もある。（40代：女性） ・最近、Uターンで地元就職したばかりで、関わる機会がない。特に困ることもない。（20代：女性） ・（年数は経っても）被災者とそうでない人の壁があると感じている。（70代：女性） ・商店街は、空き店舗の増加や組合員を辞めるなど賑わいが不足している。（60代：女性） ・買い物する場所が減っているので出かけることが減っているかもしれない。（40代：女性） ・<u>やはりコロナ不安がある。企画しにくい雰囲気がある。</u>（40代：女性） 	<ul style="list-style-type: none"> ・前にでて、自分から何かをすることは難しい。（70代：女性） ・ボランティア活動を通じて、もっと話を聞く機会を増やしていきたい。（60代：女性） ・賑わいが出るような、お楽しみ企画を考えていく。（60代：女性） ・自治会との話し合いをしながら、以前のようなイベントを復活させる。（40代：女性）

②必要な収入や所得

	低下したと考えられる具体的なイメージ（基準年（H31）との比較）	考えられる解決策・自分ができること
<p>第1回目（遠野市）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な食品が値上がりする中で、米価は値下がりしている。設備投資もしたので、支払いが大変。(60代及び70代:男性・・・複数から同様の意見) ・旅行者の減に加えて、仕入れ価格の上昇で厳しい状況である。宿泊料金など価格設定が難しい。(60代:男性) ・産直の会員も減少して品揃えも大変。店当番も年々負担になっている。野菜づくりなど、働く意欲も下がっているこの頃。(70代:女性) ・息子家族は大変そうだ。嫁もパートの時間が減らされたと言っていた。(70代:男性) ・<u>コロナ禍、学校の閉鎖により親が休業しなければならず収入の減少を感じた。(放課後子ども教室、児童館等が学校閉鎖とともに利用できなくなったため。)</u>(30代及び40代:女性) ・たとえ収入が減らなくても、支出が増えているので家計は厳しくなっている。(40代:女性) ・自然農法に特化して就農し、販売ルートも独自でもっているの で、特に経済的な影響はない。むしろ、それを目的にした顧客開拓 につながっている。(40代:男性) ・自営業で従業員がいない(少ない)ため、たとえ収入源でも気が 楽である。(60代:女性) ・年金が減ってもそれなりに生きていく。野菜や花、畑仕事があっ て良かった。(70代女性) 	<ul style="list-style-type: none"> ・今の幸せを維持、向上させるためにももっと働く。(50代:男性) ・農村の知恵を活かして、生活する。(50代:女性) ・若い世代に住んでもらうためには仕事場、雇用が必要である。(40代:女性) ・(若い人に) 起業する人を増やすためにも、職場体験など(社会)教育が必要である。(40代:男性)

	低下したと考えられる具体的なイメージ（基準年（H31）との比較）	考えられる解決策・自分ができること
<p>第2回目（軽米町）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・色々値上がりする中で米だけが下がっている。農家さんの大変さを目の当たりにしている。(40代:男性) ・(経営者として) 今、福祉関連の補助などはあるが、賃金を上げるのに躊躇う。高齢者が減るであろう未来を考えると、今給料を上げてから下げるとするのは怖い。(50代:男性) ・20年前から時給は上がっていない。この年代になると家庭菜園などで楽しみながらの生活になる。お金ではない、やりがいを見つけていく。(60代:女性) ・まさに子育て真っ最中。収入は変わらないのに支出が増えているので、今は苦しい。(40代:女性) ・多少収入は減っている。高齢化、コロナ等理由は様々だと思うが、お馴染みさんが来てくれているので嬉しいし、悲観していない。(60代:女性) ・檀家減少もあって、寺院運営（修繕）が厳しい。影響が出ている。(40代:男性) ・転職や実家へ戻ることを選んでの今なので、収入減は必然。(40代:男性) ・介護関係は、就労、特に若者の就労が少ない。低賃金と言われているので避けられている？ 志をもって就職しても定着しない。(50代:男性) ・職業柄、特に影響はない。木材物価が上昇しても、給料に反映されない。逆も同じ。(50代:男性) ・会社が価格転嫁することに消極的だし、働いている人も安定志向で転職等が少ない。(40代:男性) ・年金も下がる。それなりにと考えていくしかない。(60代:女性) 	<ul style="list-style-type: none"> ・お金にとらわれないように考えている。(50代:男性) ・提携している農家への支援の仕組みを行政等と一緒に考えていく。(40代:男性) ・魅力ある仕事場づくり、雇用が必要である。(50代:男性) ・町内だけではなく、近隣市町への通勤が多いので、広域的に仕事の種類を考えていく必要がある。(40代:男性)

	低下したと考えられる具体的なイメージ（基準年（H31）との比較）	考えられる解決策・自分ができること
第3回目（栗石町）	<ul style="list-style-type: none"> ・下がっているのではなく、ない。(60代：女性) ・収入がないのに支出が多い。(60代：女性) ・実務とストレスがある。(30代：女性) ・選択して仕事を減らしているが、戻すのは難しい。(30代：女性) ・視点を変えれば幸福に気付く。(20代：女性) ・大赤字だが、挽回を目指している。(60代：女性) ・自己投資をしている。好きな仕事ができるよう、自分をコントロールしたい。(20代：女性) ・フリーランスで、(コロナ禍) バランスが崩れる。(30代：女性) ・経済状況が悪いと(周りから)言われると不安を感じる。(30代：女性) ・自分で考え、自分で解決する力が必要である。(30代：女性他1名) ・人によって給料を違うものを感じると思う。(20代：女性) ・家族で暮らしていても孤独感を感じる人もいる。(30代：女性) ・広い選択肢が必要である。(20代：女性) ・残業が当たり前。自分が好きなことの価値が大事である。(20代：女性) ・自分で組み立てる、教育が必要である。(30代：女性) ・教育・社会を見直す。子ども、高齢者のことを考える。今の日本を作ってきた高齢者が軽視されている。(60代：女性) ・島国がグローバル化を急いでいて心配である。(60代：女性) ・収入は全盛期の半分になったが、支出は多くなった。(40代：男性) ・リーマンショック・震災・コロナと(外的要因で)落とされている。(40代：男性) ・日本で1番寂しいことは、世界を知らないこと。日本の初任給は上がっていない。閉じこもっている。(30代：男性) ・仕事の認知度が低い。(評価が低い。)(40代：男性) ・収入は減になるが、選択したもの。週2日は農業をすることにした。(30代：男性) ・「選択」に共感する。勤め人にならないという選択、フリーランス。(40代：男性) ・(働くこと、生きていくことなど)泳ぎながら、泳ぎ方を学んでいる。(40代：男性) ・その人、幸福を感じる能力のある人であれば。(40代：男性) ・選択して生きてきた気はしていないのだが、選択してきたのかもしれない。(30代：男性) ・資本主義のルールに乗れない、乗らない自分がいる。(40代：男性) ・戦争、ガソリンの高騰・物価の上昇など、個人の力ではどうしようもできない状況もある。(30代：男性) 	<ul style="list-style-type: none"> ・職業の認知度向上のため情報発信していく。(40代：男性) ・移住を考えている人に地域の情報をしっかり伝えていきたい。(40代：男性) ・今は先行投資の時期と思って地道に活動していく。(60代：女性) ・ToDo リストをやめる。(20代：女性)

	低下したと考えられる具体的なイメージ（基準年（H31）との比較）	考えられる解決策・自分ができること
第4回目（釜石市）	<ul style="list-style-type: none"> ・あればそれに越したことはないが、十分だと思う。(20代：女性) ・子どもが大きくなり、パートからフルタイムになって収入は上がった。(30代：女性) ・現状満足しているが、使い方が悪いかもしれない。(30代：男性) ・税金が安くなるという。税金が何に使われているのか不安。(30代：男性) ・民間から転職しての公務員。安定はある。(30代：男性) ・飲食店の求人はよく見かけるが、就職しても定着しない様子。仕事内容も含めて厳しいのかな。(30代：女性) ・震災後は、いろいろと仕事に活気はあった。今は落ち着いて全体的に静か。(30代：男性) ・子育て時期、特に女性にとっての就活は大変。求人情報と現実が違う。(30代：女性) ・(自分は構わないが) 地元には買い物したくなる店が少ない。経済が回らないと自分たちにも回ってこない。(30代：男性) ・多くを求めない性格。責任をもって働くが、業務内容を選べるのではない(50代：男性) ・以前はいた強烈なリーダーが、今はいない。地域の勢いがいない感じ。(30代：男性) ・収入は得られているが、今の仕事は選択したものではない。現状の中で自分ができることをしていかなければいけないと思う。(30代：男性) ・何事もバランス。収入とやりがいのバランスは難しい(30代：男性) ・以前の仕事は自分がやりたいことだった。地元に戻るには、職業の選択が少ない。(20代：女性) ・選択したわけではなく、家業を継いだだけなので考えたことがなかった。(30代：男性) 	<ul style="list-style-type: none"> ・与えられたポジションで精一杯仕事する。(50代：男性) ・起業も含めたキャリア教育の仕組み、機会を考えていく。(30代：男性) ・雇用する側の意識改革も大事。(30代：女性)

	低下したと考えられる具体的なイメージ（基準年（H31）との比較）	考えられる解決策・自分ができること
第5回目（大船渡市）	<ul style="list-style-type: none"> ・本業以外に副業を2つしているの、同年代の中では多いかもしれない。(20代：女性) ・今のところ、稼ぐ術が他にあるので安心している。(20代：男性) ・業界でかなり違う。第一次産業など搾取されやすいのではないかと。(20代：男性) ・社会情勢が影響している。給料が上がらないのに電気やガスなどが値上がりしている。(20代：男性) ・収入が安くなることを理解しての地方移住。家賃など東京と比較すると安いので実感が無い。(20代：男性) ・いろいろな選択肢（職業や稼ぎ方等）があるのに、その情報にアクセスしにくい環境にあるのではないかと。(20代：男性) ・将来を考えると安心できない。働きながらの子育てとかを想像すると働く場として、選択肢が多く、生活しやすい都会を選ぶかもしれない。(20代：女性) ・ITネイティブなので、あまり深刻に思っていないが、その環境に慣れていない人や知らない人は不利益で損している。(30代：男性) ・産業上の構造で若者の給料が上がらない仕組みだと思う。(20代：男性) ・工場のパート勤務の人は、勤務時間短縮されていた。生きるための副業と自分のスキルを活かしたい副業では違う。(20代：男性) ・やりたい仕事を選んでの今は若いからできるのかも。家族をもち、子育てや介護などの年代になったときには今のような形態でいいのかわり不安はある。(20代：男性) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のスキルアップと副業をすすめていく。(20代：男性) ・秋に転職する予定。(20代：男性) ・起業やスキルアップ、人とつながるための場づくりや情報アクセス環境の提供をしていく。(20代：女性)

	低下したと考えられる具体的なイメージ（基準年（H31）との比較）	考えられる解決策・自分ができること
第6回目（宮古市）	<ul style="list-style-type: none"> ・臨時職員から会計年度職員となり、若干上昇したと思う。(40代：女性) ・年金生活者なので、下がっている。でも、物価は上がるし、本当に厳しい。(70代：女性) ・商店街の組合員減少で組合員負担金も減少。伴って給料の予算が減る。時間調整して働くようになっているが、ここまでは仕事、ここからはボランティアという感じで割り切っている。実家も商売をしていたので、商店街の活動は大事だと思っている。(60代：女性) ・震災や台風などいつ災害が起きるか不安なので、お金を使うことが怖い。(60代：女性) ・フリーランスでお稽古ごと教室を運営している知人は、コロナの外出控え（伴う収入不足による遊興費支出控えも？）もあって、受講者減による収入減があると言っている。(40代：女性) ・今は特に困っていないが、これから子育てや介護などダブルケアになった時に現状で大丈夫なのか不安を感じる。(40代：女性) ・将来に備え、夫婦で定年後も働いているのだが貯金できていない。(60代：女性) ・近所の方から、「生活保護費も下がった。毎日、夕方にお弁当を買って、ご飯を半分翌日に残しておかゆにして食べている。ガス代など考えて料理することをやめた」という話を聞いた。支出を抑えることでしのいでいる感じがする。(60代：女性) ・宮古は、賃金ベースの割に不動産（賃貸など）が高い。(60代：女性 他1名) ・成人した子どもたちは、それぞれの生活があり、世話を頼むのは難しい。(60代：女性) 	<ul style="list-style-type: none"> ・集まってくる困り事の声を市や議員等に伝えること、意見交換する場が必要だと思う。(60代：女性) ・年金生活者、どう頑張っても収入が上がる見込みはない。節約していくしかない。(70代：女性)

【感想】

<p>第1回 (遠野市)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カルテのうち、設問1から10個選ぶのが大変であった。(70代:男性) ・耕作放棄地対策、空き家対策について検討していかなければ。(60代:男性) ・新型コロナウイルス感染症の流行はあくまできっかけである。これまで感じていた『担い手不足』『関係性の希薄化』『高齢者の生活支援』の課題が見えてきた。(60代:女性) ・いろいろあるが、移住してくる若者もいるので嬉しい。(70代:女性)
<p>第2回 (軽米町)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の多くはネガティブ。たとえ若者が新しいことを提案しても「無理だ」「できない」って発言に意欲をそがれる。(40代:男性) ・役場の駐車場など空間を有効活用できればよい。(40代:男性) ・高校生など若者の考え、気持ちを聞きたい。(50代:男性) ・今までの関係性をしっかりつなぎたい。(60代:女性)
<p>第3回 (雫石町)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会変化とともに変わっていくことに対応できるようになりたい。(40代:男性) ・地域の中での役割は必要。(30代:男性) ・改めて幸福ってなんだろうと考えられて良かった。(20代:女性) ・県が県民(地域?)のことを考えているってわかったのは良かった。(60代:女性)
<p>第4回 (釜石市)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育って大切だと思う。職業や地元企業のことを学ぶ機会は必要だと思う。(30代:男性ほか1名) ・なんとなく関わってきた地域の中で、自分が取り組んでいる活動を見直すことができた。(30代:男性) ・選択できること、選択することって大事。(30代:女性) ・誰かの幸せを考える時、自分自身のことをきちんと考えていきたい。(20代:女性) ・安心して暮らせる地域がいい。とりあえず、道路などインフラ整備。(30代:男性) ・楽しいワークだった。子ども達と一緒に考えてみたい。(30代:女性)
<p>第5回 (大船渡市)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カルテの最初の設問の項目の変更はできないのかな?(20代:男性) ・地域コミュニティという概念がなかったと気が付いた。また、子育て世代等と設定がなく、自分のテリトリー以外のことを知らない自分がいた。目を向けられるようになりたい。(20代:女性) ・ハーバード大学の追跡調査でもあったが、人間の幸福には「いい人間関係」が大事。(20代:男性) ・せっかく住んでいるのだから、適度に良い距離感で繋がりたい。(20代:男性)
<p>第6回 (宮古市)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・立派な災害公営住宅。でも住んでいる高齢者の生活は、本当に大変である。(70代:女性) ・今は生活することに困っていないが、年を重ねて動けなくなった時の不安がある。宮古市内は介護施設も少ないので、金銭的に裕福でない自宅介護という話になるのではないか。(60代:女性) ・生きるためにはお金がかかる。(70代:女性)

岩手県総合計画審議会

「県民の幸福感に関する分析部会」

令和 4 年度年次レポート（素案）

令和 4 年〇月

目次

第1章	本報告書の内容	1
第2章	令和4年度の分析事項	2
第3章	調査結果	
3.1	「県の施策に関する県民意識調査」の結果	4
3.1.1	調査目的及び対象等	
3.1.2	調査結果の概要	
3.2	「県の施策に関する県民意識調査（補足調査）」の結果	9
3.2.1	調査目的及び対象等	
3.2.2	調査結果の概要	
第4章	分析結果	
4.1	分析方針等について	12
4.2	主観的幸福感について	17
4.3	分野別実感について	20
4.3.1	実感が上昇した分野	
4.3.2	実感が低下した分野	
4.3.3	実感が横ばいの分野	
第5章	まとめ	
5.1	主観的幸福感について	38
5.2	分野別実感について	38
	【追加分析1】	
	新型コロナウイルス感染症の各分野への影響と分野別実感の関連性の分析	43
	【追加分析2】	
	県民の幸福感の推移について	59
	<参考>	
参考1	県民の幸福感に関する分析部会運営要領	77
参考2	県民の幸福感に関する分析部会委員等名簿	78
参考3	令和4年度における部会開催状況等	78
参考4	部会審議における主な発言（提言等）【調整中】	79

別冊【資料編】

- 参考資料 1 「令和4年県の施策に関する県民意識調査」調査票
- 参考資料 2 「令和4年県の施策に関する県民意識調査」結果
- 参考資料 3 「令和4年県の施策に関する県民意識調査（補足調査）」調査票
- 参考資料 4 「令和4年県の施策に関する県民意識調査（補足調査）」結果
- 参考資料 5 「令和4年県の施策に関する県民意識調査」属性別平均点
- 参考資料 6 「令和4年県の施策に関する県民意識調査」属性別分析結果
- 参考資料 7 「令和4年県の施策に関する県民意識調査（補足調査）」回答意見とりまとめ結果
- 参考資料 8 「令和4年度幸福について考えるワークショップ」の開催結果

第1章 本報告書の内容

【趣旨】

県は、総合計画である「いわて県民計画(2019～2028)」(以下「県民計画」という。)において、県民の幸福を守り育てることを基本目標に掲げ、県民の幸福に関連する10の政策分野を設定するとともに、各分野にいわて幸福関連指標を設定して取組を展開しています。

計画の推進に当たっては、政策評価に基づく「政策推進プラン(2019年度～2022年度)」の進捗管理を行うこととしており、いわて幸福関連指標を始めとする客観的指標の達成状況に加え、県民がどの程度幸福を実感しているかといった県民意識や、社会経済情勢も踏まえた総合評価を行い、政策立案に反映させていくことが必要です。

そこで、岩手県総合計画審議会において、令和元年6月に「県民の幸福感に関する分析部会」(以下「分析部会」という。)を設置し、平成12年から実施している「県の施策に関する県民意識調査」(以下「県民意識調査」という。)において、平成28年から幸福に関する設問を設け、県民の幸福に関する様々な実感を把握し、県民計画が始まる直前の平成31年(基準年)の実感と比較して変動を確認し、その要因について分析を行うこととしています。

この報告書は、令和4年度における分析部会の分析結果をとりまとめたものです。

【概要】

令和4年県民意識調査結果において、「幸福だと感じている」から「幸福だと感じていない」の5段階の選択肢に応じて5点から1点を配点したところ、県全体の平均値は3.51点(基準年調査:3.43点)となり、基準年より0.08点上昇しています。

県民計画の開始前である平成31年を基準とした場合、t検定により時系列変化の有無を検証した結果、基準年調査と比べて有意に上昇しているため、主観的幸福感については上昇していると考えられます。(P17参照)

同様に、令和4年県民意識調査結果から得られた分野別実感の平均値を見ると、基準年調査に比べて、下記のとおり4分野で上昇、3分野で横ばい、5分野で低下、となっていることから、本書において、その変動要因の分析を行いました。(P20以降参照)

上 昇 (4分野) : 心身の健康、家族関係、子育て、子どもの教育

横ばい (3分野) : 住まいの快適さ、歴史・文化への誇り、自然のゆたかさ

低 下 (5分野) : 余暇の充実、地域社会とのつながり、地域の安全、仕事のやりがい、必要な収入や所得

また、本調査においては、平成28年から幸福に関する設問を設けており、幸福に関する調査を開始して以降、一貫して高値又は低値で推移している属性についても、その要因の分析を行いました。

なお、令和4年県民意識調査において新型コロナウイルス感染症の各分野への影響に係る設問を新たに設け、その調査結果を用いて、新型コロナウイルス感染症の各分野への影響と分野別実感の関連性について、追加分析を行いました。(P43参照)

さらに、いわて県民計画(2019～2028)の第一期アクションプラン(政策推進プラン)の最終年度であることから、次期プランの策定の参考とするため、政策推進プランの期間前と期間中の幸福実感の推移についても分析を行いました。(P57参照)

第2章 令和4年度の分析事項

県では、県民の主観的幸福感や幸福に関する分野別実感について、毎年、無作為抽出により5,000人の対象者を選定して行う県民意識調査により把握しています。

しかし、当該調査のみでは、分野別実感の変動要因を推測することは困難であることから、調査対象者を固定した継続調査を行うこととし、令和元年度の分析部会において、県民意識調査を補足する「県の施策に関する県民意識調査（補足調査）」（以下「補足調査」という。）の設計を行いました。補足調査は、県民計画の開始直前に当たる平成31年県民意識調査の回答者のうち、補足調査にご協力いただける者から600人を調査対象者として固定し、令和2年1月より県民意識調査と同時期に実施しています。

表1 県民意識調査と補足調査

	県民意識調査	補足調査
目的	県民計画に基づいて実施する県の施策について、県民がどの程度重要性を感じ、現在の状況にどの程度満足しているか、また、どの程度幸福度を感じているか等を把握し、今後、県が重点的に取り組むべき施策の方向性等を明らかにすること	県民意識調査で把握した分野別実感の変動要因を把握し、政策評価に反映していくこと (対象者を固定することで、対象者の実感が前回調査から変動した項目を把握し、県民意識調査の分野別実感が変動した要因を推測する)
対象	県内に居住する18歳以上の男女	県内に居住する18歳以上の男女
調査人数	5,000人	600人（各広域振興圏150人）※
抽出方法	選挙人名簿からの層化二段無作為抽出（回答者は毎年変更）	基準年である平成31年県民意識調査回答者のうち補足調査にご協力いただける者から選定し、毎年固定
調査時期	毎年1月～2月	毎年1月～2月

※R4年補足調査は、県内在住で調査に御協力いただける591人を対象として実施

今年度の分析部会では、県民意識調査で得られた主観的幸福感と分野別実感について、以下の方法により分析を行いました。

- 主観的幸福感、分野別実感の概況の把握（令和4年県民意識調査結果の属性分析）
県民意識の属性別での特徴を把握するため、令和4年県民意識調査結果を対象に、主観的幸福感と分野別実感の属性差の有無を分析
- 分野別実感の変動要因の推測（基準年との2時点比較）
 - ・ 県民意識の変化の状況を把握するため、平成31年（基準年）と令和4年の県民意識調査結果から、2時点間で有意に変化した分野別実感や属性の有無を分析
 - ・ 2時点間で実感が上昇・低下した分野について、補足調査において当該分野別実感が上昇・低下した人の回答項目等から、実感が上昇・低下した要因を推測
- 分野別実感が一貫して高値又は低値で推移している属性の把握とその要因の推測
平成28年から令和4年までの県民意識調査結果から、分野別実感の平均値が一貫して高値（4点以上）又は低値（3点未満）で推移している属性について、補足調査において当該属性に該当する人で、高値にあつては「感じる・やや感じる」、低値にあつては、「感じない・あまり感じない」と回答した項目等から要因を推測

表2 分析等に係るスケジュール

年度	調査		分析
平成27年度 (H28.1)～	幸福実感に係る調査を開始 県民意識調査		—
令和元年度		補足調査	<ul style="list-style-type: none"> ・補足調査の設計 ・過去の県民意識調査の分析
令和2年度			<ul style="list-style-type: none"> ・県民意識調査に係る分野別実感の変動要因の分析
令和3年度			<ul style="list-style-type: none"> ・県民意識調査に係る分野別実感の変動要因の分析
令和4年度			<ul style="list-style-type: none"> ・県民意識調査に係る分野別実感の変動要因の分析 ・県民の幸福実感の推移の分析
令和5年度以降	<ul style="list-style-type: none"> ・県民意識調査に係る分野別実感の変動要因の分析 		

第3章 調査結果

3.1 「県の施策に関する県民意識調査」の結果

3.1.1 調査目的及び対象等

- ① 調査目的 県民計画に基づいて実施する県の施策について、県民がどの程度重要性を感じ、現在の状況にどの程度満足しているか、また、どの程度幸福度を感じているか等を把握し、今後、県が重点的に取り組むべき施策の方向性等を明らかにすること
- ② 調査対象 県内に居住する18歳以上の男女
- ③ 対象者数 5,000人
- ④ 抽出方法 選挙人名簿からの層化二段無作為抽出
- ⑤ 調査方法 設問票によるアンケート調査（郵送法）
- ⑥ 調査時期 令和4年1～2月（毎年調査）
- ⑦ 回収者数 3,324人
- ⑧ 有効回収率 66.5%
- ⑨ 回答者の属性

【性別】	回答者数	割合
男性	1,439	(43.3)
女性	1,868	(56.2)
その他	3	(0.1)
不明	14	(0.4)

【年齢別】	回答者数	割合
18～19歳	52	(1.6)
20～29歳	192	(5.8)
30～39歳	293	(8.8)
40～49歳	457	(13.7)
50～59歳	525	(15.8)
60～69歳	705	(21.2)
70歳以上	1,005	(30.2)
不明	95	(2.9)

【居住地別】	回答者数	割合
県央広域振興圏	962	(28.9)
県南広域振興圏	1,002	(30.1)
沿岸広域振興圏	801	(24.1)
県北広域振興圏	559	(16.8)

【居住年数別】	回答者数	割合
10年未満	87	(2.6)
10～20年未満	166	(5.0)
20年以上	2,958	(89.0)
不明	113	(3.4)

【職業別】	回答者数	割合
自営業主	298	(9.0)
家族従業者	86	(2.6)
会社役員・団体役員	222	(6.7)
常用雇用者	890	(26.8)
臨時雇用者	430	(12.9)
学生	81	(2.4)
専業主婦(主夫)	327	(9.8)
無職	751	(22.6)
その他	100	(3.0)
不明	139	(4.2)

【子どもの数別】	回答者数	割合
1人	450	(13.5)
2人	1,171	(35.2)
3人	631	(19.0)
4人以上	132	(4.0)
子どもはいない	735	(22.1)
不明	205	(6.2)

【世帯構成別】	回答者数	割合
ひとり暮らし	372	(11.2)
夫婦のみ	686	(20.6)
2世代世帯	1,396	(42.0)
3世代世帯	474	(14.3)
その他	175	(5.3)
不明	221	(6.6)

() 内は%

(注) 小数点第1位未満四捨五入の関係から、割合の計が100%にならない場合があります。

3.1.2 調査結果の概要

① 主観的幸福感（設問3-2：あなたは現在、どの程度幸福だと感じていますか。）

主観的幸福感について、「幸福だと感じている」から「幸福だと感じていない」までの5段階の選択肢に応じて5点から1点を配点したところ、県全体の平均値は、5点満点中3.51点（基準年調査：3.43点）となりました。

なお、県全体の主観的幸福感については、幸福と感じる（「幸福だと感じている」又は「やや幸福だと感じている」）と回答した人が56.6%（基準年調査：52.3%）、幸福と感じない（「幸福だと感じていない」又は「あまり幸福だと感じていない」）と回答した人が17.8%（基準年調査：19.3%）となりました。

図1 【県民意識調査】主観的幸福感の平均値（県計）の推移〔点数〕

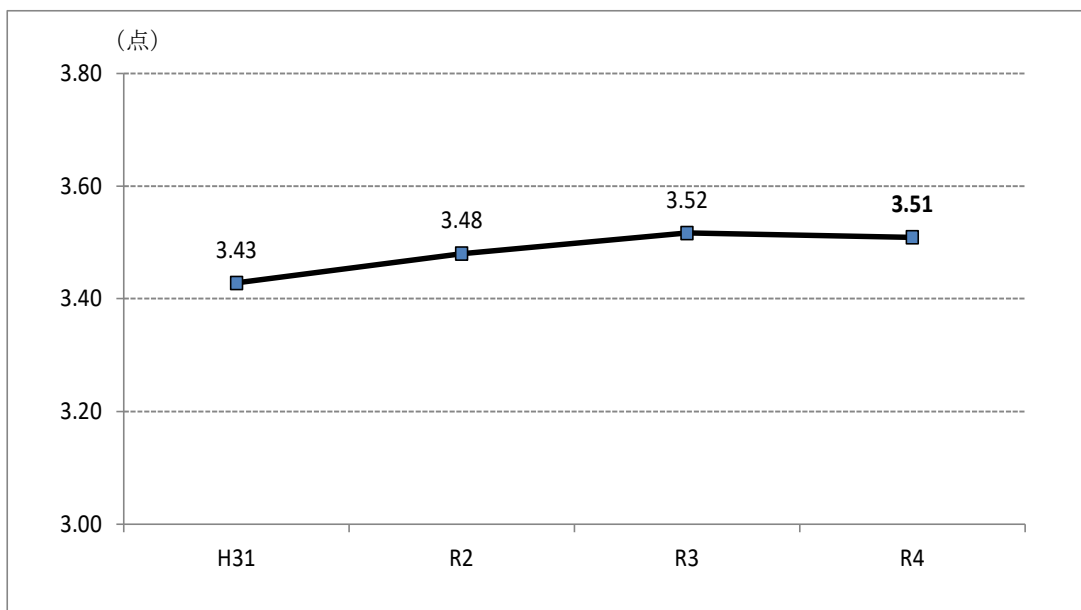
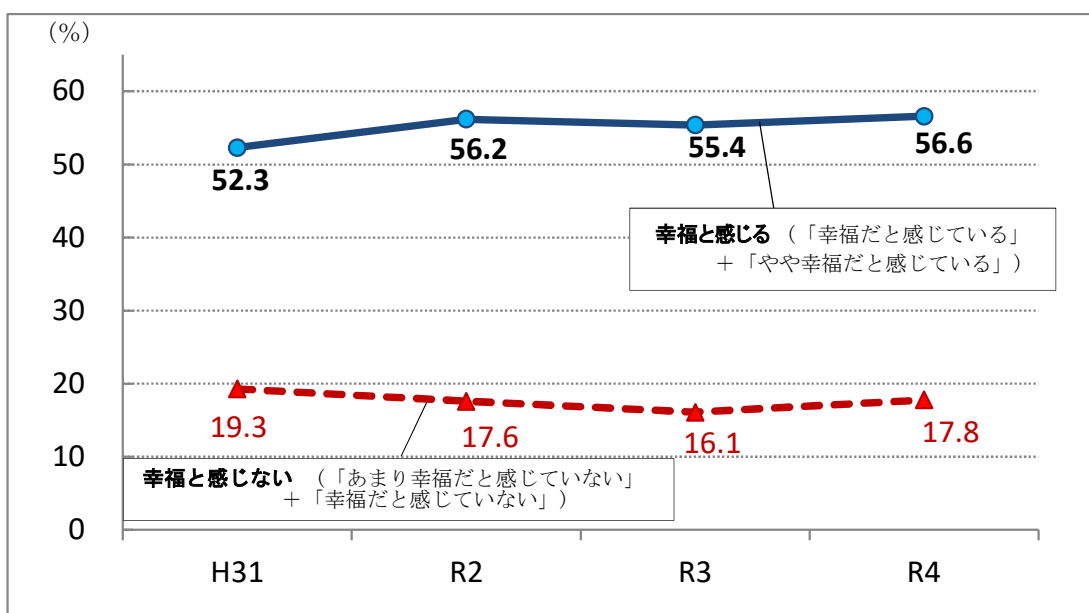


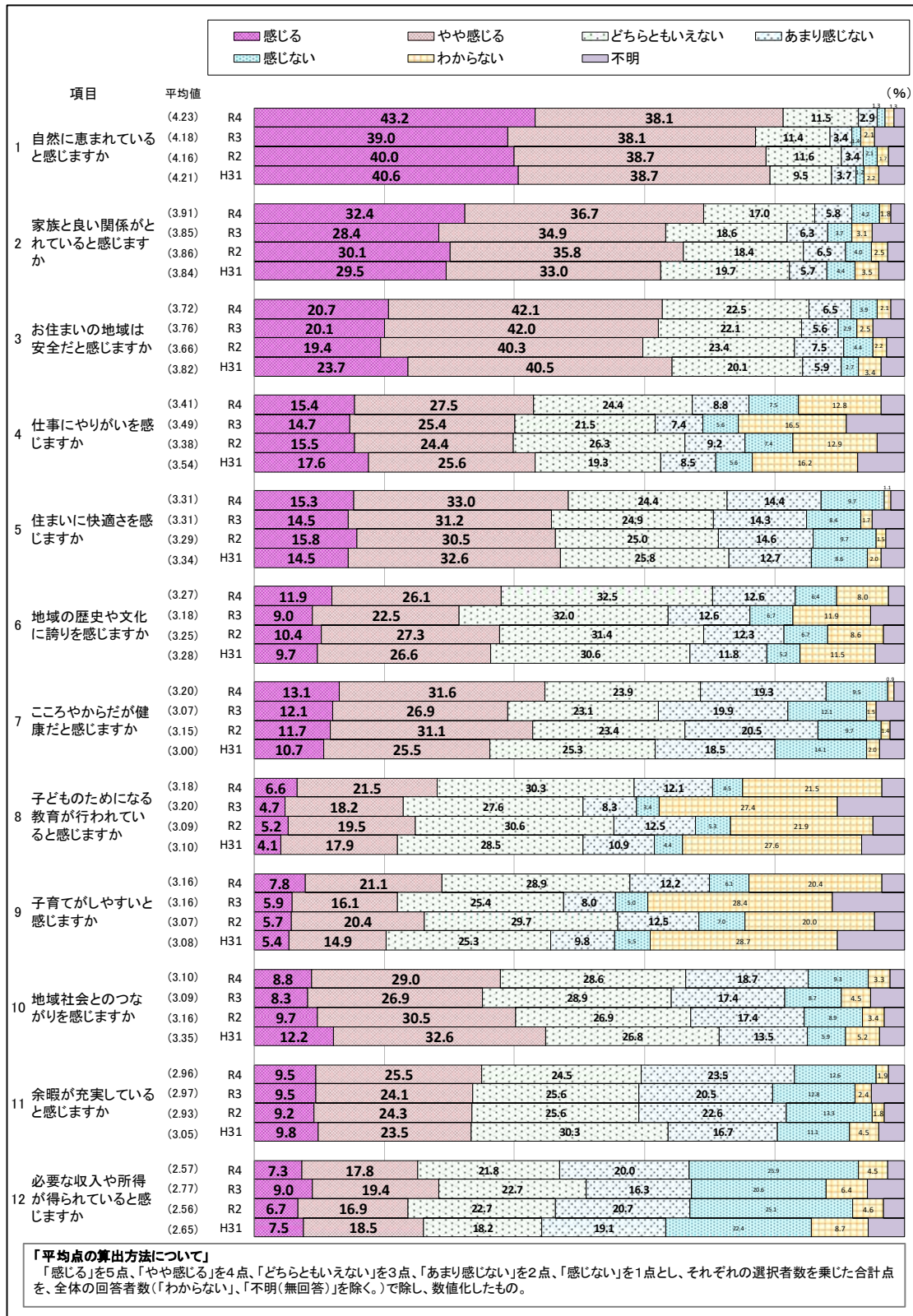
図2 【県民意識調査】主観的幸福感（県計）の推移〔割合〕



② 分野別実感（設問3-1：現在のあなたご自身のことについて、おたずねします。）

12分野について実感を聞いた結果、「自然のゆたかさ」の実感が4点を超えているほか、「家族関係」や「地域の安全」の実感も基準年と同様に高くなっている一方で、「必要な収入・所得」の実感は引き続き低くなっています。（下図は、令和4年調査の分野別実感の平均値が高い順に整理しています。）

図3 【県民意識調査】分野別実感の回答状況

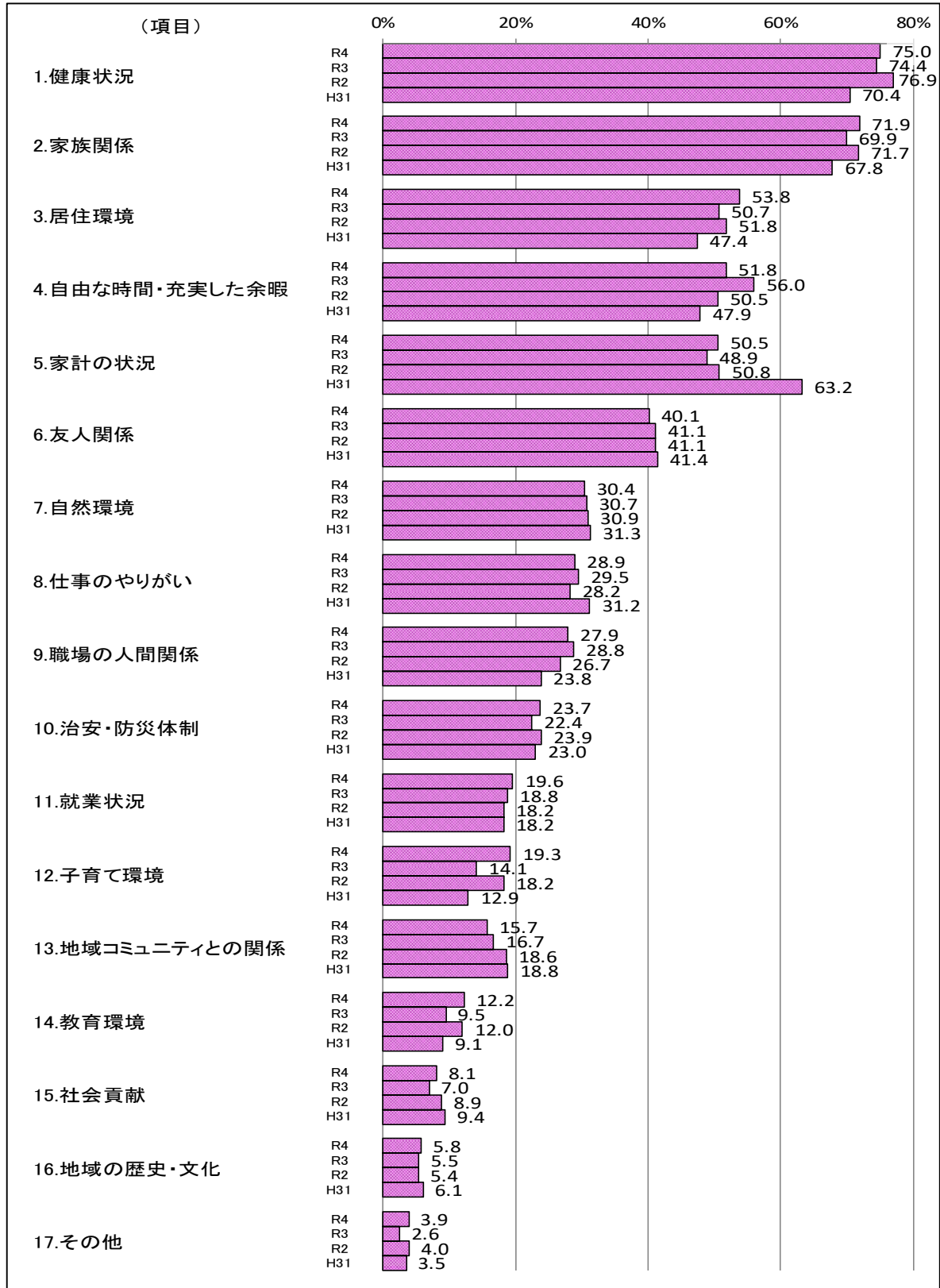


③ 幸福を判断する際に重視する事項

(設問3-3：あなたが幸福かどうか判断する際に重視した事項は何ですか。)

幸福かどうか判断する際に重視すると回答した項目は、前年までの調査結果と同様に、「健康状況」や「家族関係」が特に高い結果となっています。

図4 【県民意識調査】幸福を判断する際に重視する事項の回答状況



④ 新型コロナウイルス感染症の影響について

(設問5：問3-1で回答した実感に係る新型コロナウイルス感染症のあなたへの影響について最も近いものを一つ選んでください。)

新型コロナウイルス感染症の影響についての分野別の回答結果は、図5のとおりであり、特に「こころの健康」や「余暇の充実」において、「あまりよくない影響を感じる」又は「よくない影響を感じる」と回答した人が多くなっています。

図5 【県民意識調査】新型コロナウイルス感染症の影響に係る項目の回答状況

(項目)		<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>■ よい影響を感じる</p> <p>■ どちらともいえない</p> <p>■ よくない影響を感じる</p> <p>■ 不明</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>□ ややよい影響を感じる</p> <p>■ あまりよくない影響を感じる</p> <p>□ 影響を感じない</p> </div> </div>						良い影響 (%)	良くない影響 (%)	
		① 心身の健康	R4	4%	10%	27%	19%			18%
	R3									
①-1 からだの健康	R4	3%	12%	30%	18%	16%	14%	7%	15	34
	R3	3%	7%	18%	17%	39%	11%	5%	10	56
①-2 こころの健康	R4	3%	10%	26%	22%	20%	12%	7%	13	42
	R3	2%	6%	17%	21%	41%	7%	5%	8	62
2 余暇の充実	R4	3%	11%	26%	19%	23%	10%	7%	14	42
	R3	2%	6%	19%	19%	41%	7%	6%	8	60
3 家族関係	R4	8%	16%	32%	12%	9%	17%	6%	24	21
	R3	5%	8%	25%	16%	27%	13%	5%	13	43
4 子育て	R4	3%	8%	25%	11%	12%	31%	10%	11	23
	R3	2%	8%	17%	13%	28%	26%	10%	5	41
5 子どもの教育	R4	2%	7%	25%	12%	14%	30%	10%	9	26
	R3	1%	6%	16%	15%	30%	24%	11%	4	45
6 住まいの快適さ	R4	5%	15%	33%	12%	8%	20%	6%	20	20
	R3	3%	7%	28%	16%	23%	17%	6%	10	39
7 地域社会とのつながり	R4	2%	11%	32%	17%	16%	15%	6%	13	33
	R3	1%	5%	24%	20%	32%	12%	7%	6	52
8 お住まいの地域の安全	R4	4%	15%	35%	11%	9%	19%	6%	19	20
	R3	2%	6%	28%	18%	26%	14%	6%	8	44
9 仕事のやりがい	R4	3%	9%	30%	13%	13%	24%	8%	12	26
	R3	2%	5%	23%	15%	26%	20%	8%	7	41
10 必要な収入や所得	R4	2%	6%	27%	18%	19%	22%	7%	8	37
	R3	2%	4%	21%	15%	33%	19%	7%	6	48
11 歴史や文化への誇り	R4	2%	7%	37%	8%	6%	33%	7%	9	14
	R3	1%	2%	24%	17%	31%	19%	7%	3	48
12 自然のゆたかさ	R4	9%	16%	29%	4%	3%	32%	6%	25	7
	R3	2%	6%	27%	15%	23%	20%	6%	8	38

注1) R3 調査では、設問を「あなたは新型コロナウイルス感染症の影響についてどのように感じていますか。」とし、項目1「心身の健康」は調査せず、項目11は「歴史や文化に触れる機会や場所への影響」、項目12は「自然の恵みを感じる機会への影響」として調査しました。

注2) 別途公表している県民意識調査結果は、回答者数の地域差を考慮し、居住人口に応じた係数を乗じて集計(母集団拡大集計)を行っていますが、当分析部会の分析データは単純集計結果を用いているため、分析結果は、既に公表されている県民意識調査結果と数値が異なる場合があります。

3.2 「県の施策に関する県民意識調査（補足調査）」の結果

3.2.1 調査目的及び対象等

- ① 調査目的 県民計画を着実に推進していくため、県民意識調査で把握した分野別実感の変動要因を把握し、政策評価に反映していくこと
- ② 調査対象 岩手県内に居住する18歳以上の男女
- ③ 対象者数 591人（各広域振興圏約150人）
- ④ 抽出方法 県民計画の開始直前に当たる平成31年県民意識調査の回答者のうち、補足調査にご協力いただける者から抽出（毎年固定）
（各広域振興圏150人、概ね各年代100人）
- ⑤ 調査方法 設問票によるアンケート調査（郵送法）
- ⑥ 調査時期 令和4年1～2月（県民意識調査の実施と同時期）
- ⑦ 回収者数 549人
- ⑧ 有効回収率 92.8%
- ⑨ 回答者の属性

【男女別】	回答者数	割合
男性	280	(51.0)
女性	265	(48.3)
不明	4	(0.7)

【年齢別】	回答者数	割合
18～19歳	0	(0.0)
20～29歳	37	(6.7)
30～39歳	73	(13.3)
40～49歳	102	(18.6)
50～59歳	108	(19.7)
60～69歳	103	(18.8)
70歳以上	122	(22.2)
不明	4	(0.7)

【所得別】	回答者数	割合
100万円未満	112	(20.4)
100万円～300万円未満	276	(50.3)
300万円～500万円未満	88	(16.0)
500万円～700万円未満	41	(7.5)
700万円～1000万円未満	13	(2.4)
1000万円～1500万円未満	3	(0.5)
1500万円以上	4	(0.7)
不明	12	(2.2)

【居住形態別】	回答者数	割合
持家（一戸建て）	435	(79.2)
持家（集合住宅）	15	(2.7)
借家（一戸建て）	18	(3.3)
借家（集合住宅）	63	(11.5)
その他	7	(1.3)
不明	11	(2.0)

【居住地別】	回答者数	割合
県央広域振興圏	145	(26.4)
県南広域振興圏	136	(24.8)
沿岸広域振興圏	133	(24.2)
県北広域振興圏	135	(24.6)

【職業別】	回答者数	割合
自営業主	51	(9.3)
家族従業者	10	(1.8)
会社役員・団体役員	31	(5.6)
常用雇用者	197	(35.9)
臨時雇用者	74	(13.5)
学生	8	(1.5)
専業主婦（主夫）	47	(8.6)
無職	94	(17.1)
その他	26	(4.7)
不明	11	(2.0)

【子どもの数別】	回答者数	割合
1人	69	(12.6)
2人	206	(37.5)
3人	108	(19.7)
4人	17	(3.1)
5人以上	4	(0.7)
子どもはいない	133	(24.2)
不明	12	(2.2)

【世帯構成別】	回答者数	割合
ひとり暮らし	61	(11.1)
夫婦のみ	98	(17.9)
2世代世帯	230	(41.9)
3世代世帯	97	(17.7)
その他	21	(3.8)
不明	42	(7.7)

【居住年数】	回答者数	割合
1年未満	0	(0.0)
1～5年未満	3	(0.5)
5～10年未満	10	(1.8)
10～20年未満	21	(3.8)
20年以上	503	(91.6)
不明	12	(2.2)

（注） 小数点第1位未満四捨五入の関係から、割合の計が100%にならない場合があります。

3.2.2 調査結果の概要

補足調査で得られた分野別実感に対する回答を「感じる・やや感じる」、「どちらともいえない」、「あまり感じない・感じない」の3つに区分し、「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」として選択された項目を回答の多い順に整理した結果、表3のとおりとなりました。

表3 【補足調査】分野別実感の回答理由と関連が強い要因として選択された主な項目〔実感別〕

分野	感じる・やや感じる	どちらともいえない	あまり感じない・感じない
(1)-1 からだの健康	ア 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分(ワークライフバランス) イ 健康診断の結果 ウ こころの健康状態	ア 持病の有無 イ 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分(ワークライフバランス) ウ 健康診断の結果	ア 持病の有無 イ 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分(ワークライフバランス) ウ 健康診断の結果 エ こころの健康状態
(1)-2 こころの健康	ア 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分(ワークライフバランス) イ からだの健康状態 ウ 仕事・学業以外の私生活におけるストレスの有無	ア 仕事・学業におけるストレスの有無 イ 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分(ワークライフバランス) ウ 仕事・学業以外の私生活におけるストレスの有無	ア 仕事・学業におけるストレスの有無 イ 仕事・学業以外の私生活におけるストレスの有無 ウ 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分(ワークライフバランス)
(2) 余暇の充実	ア 自由な時間の確保 イ 家族との交流 ウ 趣味・娯楽活動の場所・機会 エ 知人・友人との交流	ア 自由な時間の確保 イ 知人・友人との交流 ウ 趣味・娯楽活動の場所・機会	ア 自由な時間の確保 イ 知人・友人との交流 ウ 趣味・娯楽活動の場所・機会
(3) 家族関係	ア 会話の頻度(多い・少ない) イ 同居の有無 ウ 困った時に助け合えるかどうか	ア 会話の頻度(多い・少ない) イ 家族が自分にもたらす精神的影響(貢献・負担) ウ 自分が家族にもたらす精神的影響(貢献・負担)	ア 同居の有無 イ 家族が自分にもたらす精神的影響(貢献・負担) ウ 会話の頻度(多い・少ない)
(4) 子育て	ア 子どもを預けられる場所の有無(保育所など) イ 子どもを預けられる人の有無(親、親戚など) ウ 配偶者の家事への参加	ア 子どもの教育にかかる費用 イ 子育てにかかる費用 ウ わからない(身近に子どもがいない、子育てに関わっていないなど)	ア 子どもの教育にかかる費用 イ 子育てにかかる費用 ウ 子どもの遊び場(公園など)の充実
(5) 子どもの教育	ア 学力を育む教育内容 イ 人間性、社会性を育むための教育内容 ウ 健やかな体を育む教育内容(体育、部活動の内容など)	ア 人間性、社会性を育むための教育内容 イ わからない(身近に子どもがいない、子育てに関わっていないなど) ウ 学校の選択の幅(高校、大学など)	ア 人間性、社会性を育むための教育内容 イ 学力を育む教育内容 ウ 不登校やいじめなどへの対応 エ 学校の選択の幅(高校、大学など)
(6) 住まいの快適さ	ア 居住形態(持ち家が借家か) イ 住宅の延床面積(広さ・狭さ) ウ 立地の利便性(スーパー、コンビニ、公共施設、医療機関などとの距離など)	ア 立地の利便性(スーパー、コンビニ、公共施設、医療機関などとの距離など) イ 公共交通機関の利便性 ウ 住宅の機能性(バリアフリー、室内の温熱環境など)	ア 公共交通機関の利便性 イ 立地の利便性(スーパー、コンビニ、公共施設、医療機関などとの距離など) ウ 住宅の機能性(バリアフリー、室内の温熱環境など)
(7) 地域社会とのつながり	ア 隣近所との面識・交流 イ その地域で過ごした年数 ウ 自治会・町内会活動への参加(環境美化、防犯・防災活動など)	ア その地域で過ごした年数 イ 隣近所との面識・交流 ウ 自治会・町内会活動への参加(環境美化、防犯・防災活動など)	ア 隣近所との面識・交流 イ 自治会・町内会活動への参加(環境美化、防犯・防災活動など) ウ 地域の行事への参加(お祭り、スポーツ大会など)
(8) 地域の安全	ア 犯罪の発生状況 イ 交通事故の発生状況 ウ 自然災害の発生状況	ア 自然災害の発生状況 イ 地域の防犯体制(防犯パトロール、街頭防犯カメラなど) ウ 交通事故の防止(歩道の整備など)	ア 自然災害の発生状況 イ 社会インフラの老朽化(橋、下水道など) ウ 自然災害に対する予防(堤防の建設、避難経路の確保など)
(9) 仕事のやりがい	ア 現在の職種・業務の内容 イ 職場の人間関係 ウ 現在の収入・給料の額	ア 現在の収入・給料の額 イ 現在の職種・業務の内容 ウ 将来の収入・給料の額の見込み	ア 現在の収入・給料の額 イ 現在の職種・業務の内容 ウ 将来の収入・給料の額の見込み
(10) 必要な収入や所得	ア 自分の収入・所得額(年金を含む) イ 家族の収入・所得額(年金を含む) ウ 生活の程度	ア 自分の収入・所得額(年金を含む) イ 家族の収入・所得額(年金を含む) ウ 自分の支出額	ア 自分の収入・所得額(年金を含む) イ 家族の収入・所得額(年金を含む) ウ 自分の金融資産の額
(11) 歴史・文化への誇り	ア 地域のお祭り・伝統芸能 イ その地域で過ごした年数 ウ 地域の食文化	ア その地域で過ごした年数 イ 地域のお祭り・伝統芸能 ウ 誇りを感じる歴史や文化が見当たらない	ア 誇りを感じる歴史や文化が見当たらない イ 地域の歴史や文化に関心がない ウ その地域で過ごした年数
(12) 自然のゆたかさ	ア 緑の量(豊か・少ない) イ 空気の状態(綺麗・汚い) ウ 水(河川、池、地下水など)の状態(綺麗・汚い)	ア 空気の状態(綺麗・汚い) イ 緑の量(豊か・少ない) ウ 水(河川、池、地下水など)の状態(綺麗・汚い)	ア 自然に関心がない イ 緑の量(豊か・少ない) ウ 水(河川、池、地下水など)の状態(綺麗・汚い) エ 公園・緑地、水辺などの周辺環境

平成31年県民意識調査回答時と令和4年補足調査回答時において、実感に変動があった人の回答を「実感が上昇した人の回答」、「実感が横ばいの人の回答」、「実感が低下した人の回答」の3つに区分し、「分野別実感に対する回答理由と関連が強い要因」として選択された項目を回答が多い順に整理した結果、表4のとおりとなりました。

表4 【補足調査】分野別実感の回答理由と関連が強い要因として選択された主な項目〔実感の変化別〕

分野	実感が上昇した人の回答	実感が横ばいの人の回答	実感が低下した人の回答
(1)-1 からだの健康	ア 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分(ワークライフバランス) イ 健康診断の結果 ウ ころの健康状態	ア 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分(ワークライフバランス) イ 健康診断の結果 ウ 持病の有無	ア 持病の有無 イ 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分(ワークライフバランス) ウ ころの健康状態
(1)-2 ころの健康	ア 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分(ワークライフバランス) イ からだの健康状態 ウ 仕事・学業におけるストレスの有無 エ 仕事・学業以外の私生活におけるストレスの有無	ア 仕事・学業におけるストレスの有無 イ 仕事・学業以外の私生活におけるストレスの有無 ウ からだの健康状態	ア 仕事・学業におけるストレスの有無 イ 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分(ワークライフバランス) ウ からだの健康状態
(2) 余暇の充実	ア 自由な時間の確保 イ 家族との交流 ウ 趣味・娯楽活動の場所・機会	ア 自由な時間の確保 イ 知人・友人との交流 ウ 趣味・娯楽活動の場所・機会	ア 自由な時間の確保 イ 趣味・娯楽活動の場所・機会 ウ 知人・友人との交流
(3) 家族関係	ア 会話の頻度(多い・少ない) イ 同居の有無 ウ 困った時に助け合えるかどうか	ア 会話の頻度(多い・少ない) イ 困った時に助け合えるかどうか ウ 同居の有無	ア 家族が自分にもたらす精神的影響(貢献・負担) イ 会話の頻度(多い・少ない) ウ 同居の有無 エ 困った時に助け合えるかどうか
(4) 子育て	ア 子どもを預けられる人の有無(親、親戚など) イ 子どもを預けられる場所の有無(保育所など) ウ 配偶者の家事への参加	ア 子どもを預けられる場所の有無(保育所など) イ 子どもを預けられる人の有無(親、親戚など) ウ 自分の就業状況(労働時間、休業・休暇など)	ア 子どもの教育にかかる費用 イ わからない(身近に子どもがいない、子育てに関わっていないなど) ウ 子どもに関する医療機関(小児科など)の充実
(5) 子どもの教育	ア 人間性、社会性を育むための教育内容 イ 学力を育む教育内容 ウ 健やかな体を育む教育内容(体育、部活動の内容など)	ア 人間性、社会性を育むための教育内容 イ 学力を育む教育内容 ウ 健やかな体を育む教育内容(体育、部活動の内容など)	ア 人間性、社会性を育むための教育内容 イ 学力を育む教育内容 ウ わからない(身近に子どもがいない、子育てに関わっていないなど)
(6) 住まいの快適さ	ア 居住形態(持ち家か借家か) イ 住宅の延床面積(広さ・狭さ) ウ 立地の利便性(スーパー、コンビニ、公共施設、医療機関などとの距離など)	ア 居住形態(持ち家か借家か) イ 立地の利便性(スーパー、コンビニ、公共施設、医療機関などとの距離など) ウ 住宅の延床面積(広さ・狭さ)	ア 住宅の機能性(バリアフリー、室内の温熱環境など) イ 立地の利便性(スーパー、コンビニ、公共施設、医療機関などとの距離など) ウ 公共交通機関の利便性
(7) 地域社会とのつながり	ア その地域で過ごした年数 イ 隣近所との面識・交流 ウ 自治会・町内会活動への参加(環境美化、防犯・防災活動など)	ア 隣近所との面識・交流 イ 自治会・町内会活動への参加(環境美化、防犯・防災活動など) ウ その地域で過ごした年数	ア 隣近所との面識・交流 イ 自治会・町内会活動への参加(環境美化、防犯・防災活動など) ウ その地域で過ごした年数
(8) 地域の安全	ア 犯罪の発生状況 イ 交通事故の発生状況 ウ 自然災害の発生状況	ア 犯罪の発生状況 イ 交通事故の発生状況 ウ 自然災害の発生状況	ア 自然災害の発生状況 イ 自然災害に対する予防(堤防の建設、避難経路の確保など) ウ 犯罪の発生状況
(9) 仕事のやりがい	ア 現在の職種・業務の内容 イ 職場の人間関係 ウ 就業形態(正規・非正規など) エ 現在の収入・給料の額	ア 現在の職種・業務の内容 イ 就業形態(正規・非正規など) ウ 現在の収入・給料の額	ア 現在の収入・給料の額 イ 現在の職種・業務の内容 ウ 将来の収入・給料の額の見込み エ 職場の人間関係
(10) 必要な収入や所得	ア 自分の収入・所得額(年金を含む) イ 家族の収入・所得額(年金を含む) ウ 生活の程度	ア 自分の収入・所得額(年金を含む) イ 家族の収入・所得額(年金を含む) ウ 自分の支出額 エ 生活の程度	ア 自分の収入・所得額(年金を含む) イ 生活の程度 ウ 家族の収入・所得額(年金を含む)
(11) 歴史・文化への誇り	ア 地域のお祭り・伝統芸能 イ その地域で過ごした年数 ウ 郷土の歴史的偉人	ア 地域のお祭り・伝統芸能 イ その地域で過ごした年数 ウ 郷土の歴史的偉人	ア 誇りを感じる歴史や文化が見当たらない イ 地域のお祭り・伝統芸能 ウ その地域で過ごした年数
(12) 自然のゆたかさ	ア 緑の量(豊か・少ない) イ 空気の状態(綺麗・汚い) ウ 水(河川、池、地下水など)の状態(綺麗・汚い)	ア 緑の量(豊か・少ない) イ 空気の状態(綺麗・汚い) ウ 水(河川、池、地下水など)の状態(綺麗・汚い)	ア 緑の量(豊か・少ない) イ 空気の状態(綺麗・汚い) ウ 水(河川、池、地下水など)の状態(綺麗・汚い) エ 自然に関心がない

第4章 分析結果

4.1 分析方針等について

県民意識調査及び補足調査で得られた主観的幸福感と分野別実感について、以下の視点、方法で整理しました。

1 分析目的

(1) 主観的幸福感、分野別実感の概況の把握

県民意識の現状を把握するため、県民意識調査で得られた主観的幸福感や分野別実感の時系列変化と属性差を把握します。

(2) 分野別実感の変動要因の推測

県民意識の変化の状況を把握するため、平成31年県民意識調査と令和4年県民意識調査で有意な差が確認された分野別実感については、県民意識調査や補足調査を用いて、その要因を推測します。

(3) 分野別実感が一貫して高値又は低値で推移している属性の把握とその要因の推測

分野別実感が一貫して高い又は低い属性を把握するため、平成28年から令和4年までの県民意識調査で得られた分野別実感で一貫して高値（平均値が毎年4点以上）又は低値（平均値が毎年3点未満）で推移している属性を把握するとともに、補足調査を用いて、その要因を推測します。

2 分析対象

(1) 県民意識調査（詳細はP4参照）

県民意識の状況を把握するため、無作為に抽出した18歳以上の県民5,000人を対象に毎年実施し（調査対象は毎年異なる）、主観的幸福感や分野別実感などを調査しています。

(2) 県民意識調査（補足調査）（詳細はP9参照）

県民意識調査結果を補足するため、あらかじめ選定した600人を対象に実施し（調査対象は毎年同じ）、主観的幸福感、分野別実感に加え、分野別実感の回答項目に関連が強い要因として選択された項目などを調査しています。

3 分析方法

(1) 基準年に対して実感が低下・上昇した要因分析について

① 「時系列変化の有無」はt検定で検証

県民意識調査における時系列変化の有無は、2時点間（平成31年と令和4年）の差をt検定で検証し、5%水準で有意な差があると判定されたものを、期間で差があると判断しました。

② 「属性差の有無」は一元配置分散分析で検証

令和4年県民意識調査における男女差などの各属性（年齢階層別等）の区分（20歳代、30歳代、40歳代等）間の差の有無は一元配置分散分析で検証し、5%水準で有意な差があると判定された属性を区分間で差があると判断しました。

当年次レポートでは、その中で最も値が高い区分と低い区分を記載しています。

なお、「その他（性別）」、「18～19歳」、「60歳未満の無職」はサンプル数が小さいため、分析対象からは除外しています。

③ 「分野別実感の変動要因」は県民意識調査や補足調査から推測

以下の2つの分析結果をもとに、分野別実感の変動要因を検討しました。

・ 分野別実感の変動に影響を与えた属性の回答項目から変動要因を検証

県民意識調査をもとに、分野別実感の変動に影響を与えたと判断される属性を把握し、さらに補足調査で当該属性の分野別実感の回答項目に関連が強い要因として選択された項目を把握することで、分野別実感の変動要因を推測しました。

例えば、分野別実感が低下した要因を分析する場合、県民意識調査で当該分野別実感の低下が大きい属性を把握し、補足調査で当該属性の分野別実感の回答項目に関連が強い要因として選択された項目を把握することで、分野別実感の変動要因を検討しました。

・ 補足調査で得られた分野別実感の回答項目から変動要因を推測

補足調査で得られた分野別実感の回答項目を分野別実感の変化ごと（実感が上昇した人、実感が横ばいの人、実感が低下した人）の3区分に整理し、分野別実感の回答項目に関連が強い要因として選択された項目の内容や各区分間の比較から、分野別実感の変動要因を推測しました。

例えば、分野別実感が低下した要因を分析する場合、「実感が低下した人」の分野別実感の回答項目に関連が強い要因として選択された項目の内容を分析するとともに、「実感が横ばい、上昇した人」の回答項目との比較を通じて、分野別実感の変動要因を検討しました。

なお、より実感の変化を適切に把握するため、実感が低下した場合は「感じる」から「やや感じる」に低下したものを、実感が上昇した場合は「感じない」から「あまり感じない」に上昇したものを、それぞれ分析対象から除外しています。

(2) 「分野別実感が一貫して高値又は低値で推移している属性とその要因」は、県民意識調査から属性を把握し、補足調査から要因を推測

平成28年から令和4年までの県民意識調査で得られた分野別実感で、一貫して高値（4点以上）で推移している属性については、補足調査で当該属性の分野別実感が「感じる」「やや感じる」と回答した人の分野別実感の回答項目に関連が強い要因として選択された項目を把握することで、高値で推移している要因を推測しました。

また、一貫して低値（3点未満）で推移している属性については、補足調査で当該属性の分野別実感が「感じない」「あまり感じない」の分野別実感の回答項目に関連が強い要因として選択された項目を把握することで、低値で推移している要因を推測しました。

併せて、基準年である平成31年から令和4年までの県民意識調査で得られた分野別実感で、一貫して高値又は低値で推移している属性についても同様に分析を行いました。

○ 県民意識調査から得られた分野別実感の平均値の状況

県民意識調査結果から得られた分野別実感の平均値の状況について、基準年と令和4年を比較し、統計的に有意な差が確認された属性を表5に示しています。

表5 【県民意識調査】属性別平均点一覧表(平成31年調査と令和4年調査の差)

		主観的幸福感	心身の健康	余暇の充実	家族関係	子育て	
令和4年調査 平均値		3.51	3.20	2.96	3.91	3.16	
平成31年調査と令和4年調査の差	県計 (3,324)	0.08	0.20	▲ 0.09	0.07	0.08	
	性別	男性(1,439)	-	0.23	-	-	-
		女性(1,863)	0.08	0.17	▲ 0.12	0.10	-
		その他(参考)(3)	/	/	/	/	/
	年代	18～19歳(参考)(52)	-	-	-	-	-
		20～29歳(192)	-	-	-	-	0.32
		30～39歳(293)	-	0.36	-	-	-
		40～49歳(457)	-	0.24	-	0.18	-
		50～59歳(525)	0.14	0.20	-	-	-
		60～69歳(705)	-	0.16	-	-	-
		70歳以上(1,055)	-	0.16	▲ 0.26	-	-
	職業	自営業主(298)	0.22	-	-	-	-
		家族従業者(86)	-	-	-	-	-
		会社役員・団体役員(222)	-	0.26	-	0.28	0.33
		常用雇用者(890)	0.15	0.26	-	-	-
		臨時雇用者(430)	-	-	-	-	-
		学生+その他(181)	-	-	-	0.28	-
		専業主婦・主夫(327)	-	0.31	-	-	0.23
		60歳未満の無職(参考)(64)	-	-	-	-	-
		60歳以上の無職(684)	-	0.19	▲ 0.26	-	-
	世帯構成	ひとり暮らし(372)	-	-	-	-	0.21
		夫婦のみ(686)	-	0.21	▲ 0.17	-	-
		2世代世帯(1,396)	-	0.18	-	0.11	-
		3世代世帯(474)	-	0.30	-	-	-
		その他(175)	0.24	-	-	-	-
	子どもの数	1人(450)	-	0.19	-	-	0.16
2人(1,171)		-	0.13	-	-	-	
3人(631)		0.13	0.27	-	0.14	-	
4人以上(132)		-	0.43	-	-	-	
子どもはいない(735)		0.14	0.24	-	-	0.27	
居住年数	10年未満(87)	0.44	0.48	-	-	-	
	10～20年未満(166)	-	-	-	-	-	
	20年以上(2,958)	0.08	0.20	▲ 0.10	0.07	-	
広域振興圏	県央(962)	-	0.12	▲ 0.18	-	-	
	県南(1,002)	0.25	0.32	-	0.15	0.18	
	沿岸(801)	-	-	▲ 0.19	-	-	
	県北(559)	0.16	0.25	-	0.16	0.21	

() は、R4 調査のサンプル数

■ :上昇 □ :横ばい ■ :低下

子どもの教育	住まいの 快適さ	地域社会との つながり	地域の安全	仕事の やりがい	必要な収入 や所得	歴史・文化 への誇り	自然の ゆたかさ
3.18	3.31	3.10	3.72	3.41	2.57	3.27	4.23
0.08	-	▲ 0.25	▲ 0.10	▲ 0.12	▲ 0.07	-	-
0.09	-	▲ 0.31	▲ 0.09	▲ 0.11	▲ 0.12	-	-
-	-	▲ 0.20	▲ 0.11	▲ 0.13	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	0.93	-	-
0.27	0.27	-	-	▲ 0.32	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	0.16
-	-	▲ 0.26	-	-	-	-	-
-	-	▲ 0.32	-	-	-	-	-
0.14	-	▲ 0.28	▲ 0.10	-	-	-	-
-	-	▲ 0.26	▲ 0.17	▲ 0.28	▲ 0.14	▲ 0.17	-
-	-	-	-	-	▲ 0.23	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	▲ 0.32	-	-	-	-	-
-	-	▲ 0.27	-	-	-	0.11	-
-	-	▲ 0.33	-	▲ 0.22	▲ 0.18	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	▲ 0.33	▲ 0.21	▲ 0.23	-	-	-
-	-	▲ 0.31	-	▲ 0.31	-	-	-
-	-	▲ 0.30	▲ 0.17	-	-	-	-
-	-	▲ 0.23	-	-	-	-	-
-	-	▲ 0.28	▲ 0.17	▲ 0.16	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	▲ 0.22	▲ 0.15	-	-	-	-
0.10	-	▲ 0.26	▲ 0.12	-	▲ 0.12	-	-
-	-	▲ 0.21	-	▲ 0.20	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	▲ 0.26	-	-	-	-	0.13
0.48	-	▲ 0.38	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	0.45	-	-
0.06	-	▲ 0.26	▲ 0.11	▲ 0.13	▲ 0.11	-	-
-	-	▲ 0.20	▲ 0.11	-	-	-	-
-	-	▲ 0.28	-	-	-	-	-
-	-	▲ 0.31	▲ 0.15	▲ 0.22	▲ 0.18	-	-
0.20	-	▲ 0.20	-	-	-	-	-

次に、県民意識調査において分野別実感の調査を始めた平成28年から令和4年までにおいて、実感平均値が一貫して高値（4点以上）又は低値（3点未満）で推移している属性を表6に示しています。

表6【県民意識調査】属性別平均値一覧表（調査開始年から令和4年まで一貫して高値又は低値で推移している属性）

		: 低値、: 高値						
		余暇の充実	家族関係	子育て	子どもの教育	地域社会とのつながり	必要な収入や所得	自然のゆたかさ
県計(3,324)							2.44~2.77	4.16~4.27
性別	男性(1,439)						2.46~2.75	4.13~4.25
	女性(1,863)						2.43~2.79	4.18~4.29
	その他(参考)(3)							
年代	18~19歳(参考)(52)							
	20~29歳(192)					2.77~2.95	2.40~2.68	4.20~4.37
	30~39歳(293)	2.71~2.88					2.36~2.71	4.22~4.37
	40~49歳(457)	2.82~2.88					2.50~2.82	4.16~4.42
	50~59歳(525)	2.68~2.92					2.46~2.75	4.24~4.38
	60~69歳(705)						2.37~2.77	4.09~4.24
	70歳以上(1,055)						2.45~2.80	4.08~4.20
職業	自営業主(298)						2.53~2.86	4.19~4.32
	家族従業員(86)						2.42~2.91	4.12~4.50
	会社役員・団体役員(222)							4.20~4.32
	常用雇用者(890)	2.82~2.89					2.55~2.86	4.21~4.33
	臨時雇用者(430)						2.20~2.65	4.16~4.36
	学生+その他(181)						2.49~2.94	4.09~4.59
	専業主婦・主夫(327)						2.34~2.89	4.15~4.29
	60歳未満の無職(参考)(64)							
	60歳以上の無職(684)						2.25~2.46	4.02~4.09
世帯構成	ひとり暮らし(372)						2.49~2.75	4.07~4.22
	夫婦のみ(686)		4.00~4.05				2.43~2.92	4.10~4.22
	2世代世帯(1,396)	2.80~2.98					2.41~2.71	4.16~4.29
	3世代世帯(474)						2.49~2.82	4.29~4.44
	その他(175)							
子の数	1人(450)						2.41~2.78	4.16~4.28
	2人(1,171)						2.48~2.86	4.16~4.25
	3人(631)						2.48~2.83	4.16~4.30
	4人以上(132)						2.31~2.86	4.18~4.32
	子どもはいない(735)	2.84~2.97		2.60~2.87	2.80~2.98		2.37~2.59	4.14~4.30
居住年数	10年未満(87)						2.55~2.99	4.16~4.46
	10~20年未満(166)							4.21~4.35
	20年以上(2,958)						2.42~2.75	4.15~4.27
広域振興圏	県央(962)						2.47~2.87	4.16~4.28
	県南(1,002)	2.90~2.97					2.39~2.70	4.11~4.26
	沿岸(801)						2.51~2.76	4.13~4.26
	県北(559)	2.90~2.97					2.34~2.76	4.22~4.37

※1 () は、R4調査のサンプル数
 ※2 について、基準年（H31年）から一貫して低値で推移している属性

4.2 主観的幸福感について

① 主観的幸福感の推移（P 5 図 1 及び図 2 参照）

令和 4 年県民意識調査結果によると、「幸福だと感じている」から「幸福だと感じていない」の 5 段階の選択肢に応じて 5 点から 1 点を配点したところ、県全体の実感平均値は 3.51 点となり、基準年より 0.08 点上昇しています。

t 検定を行った結果、基準年調査に比べて有意に上昇していることから、**主観的幸福感**は上昇していると考えられます。

なお、「幸福だと感じている」又は「やや幸福だと感じている」と回答した人の割合は、県全体で 56.6% となり、基準年より 4.3 ポイント上昇し、「あまり幸福だと感じていない」又は「幸福だと感じていない」と回答した人の割合は、県全体で 17.8% となり、基準年より 1.5 ポイント低下しました。

② 属性別の状況

ア 令和 4 年県民意識調査の状況（P 18 図 6 参照）

- ・ 性別では、「男性」が低く、「女性」が高くなりました。
- ・ 職業別では、「臨時雇用者」が低く、「学生+その他」が高くなりました。
- ・ 世帯構成別では、「ひとり暮らし」が低く、「夫婦のみ世帯」が高くなりました。
- ・ 子どもの数別では、「子どもはいない」が低く、「3人」が高くなりました。

イ 令和 4 年県民意識調査と基準年調査との比較（表 7 参照）

基準年調査と比較して有意に変化した属性は表 7 のとおりでした。

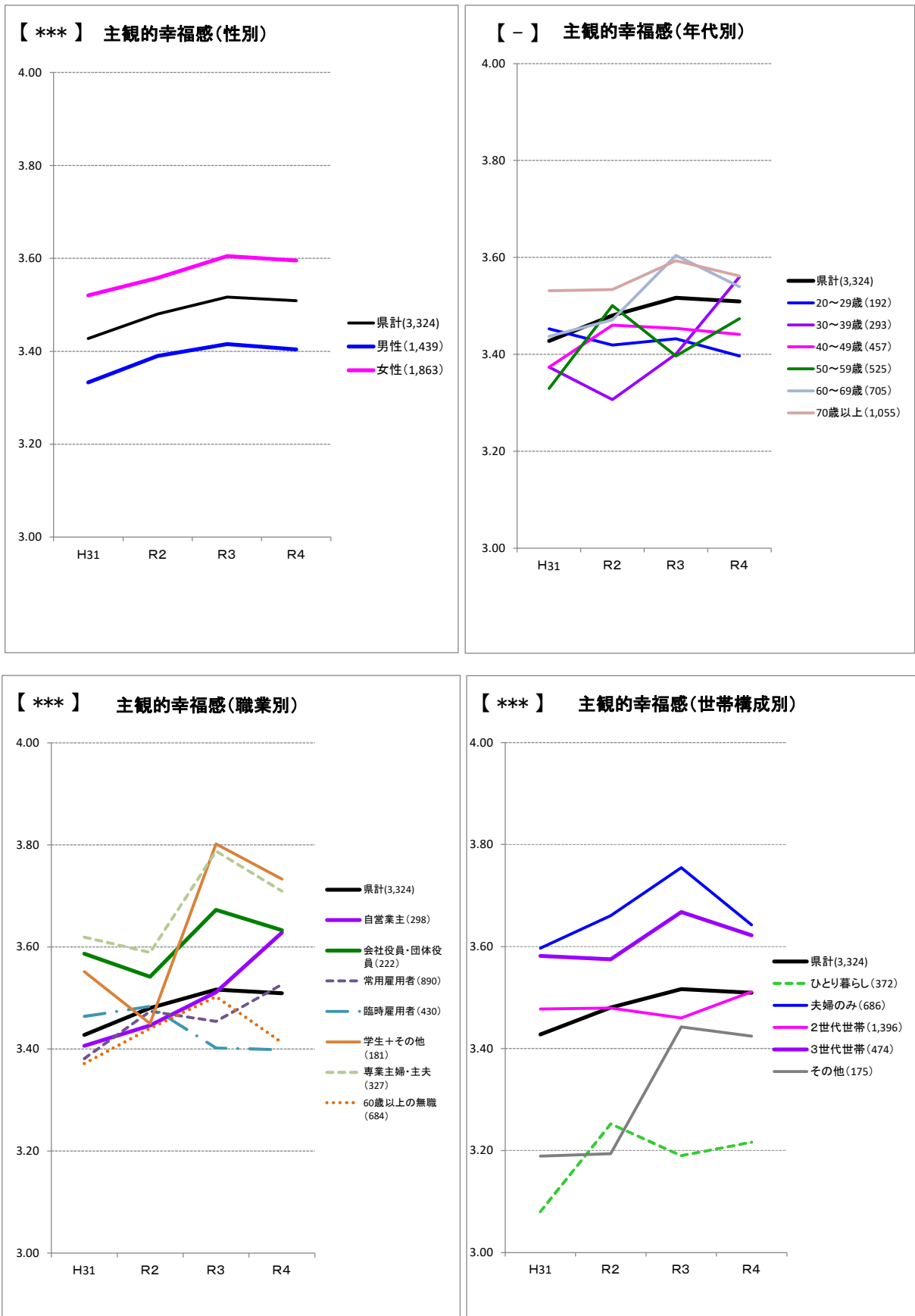
表 7 主観的幸福感において有意な変化があった属性と基準年差

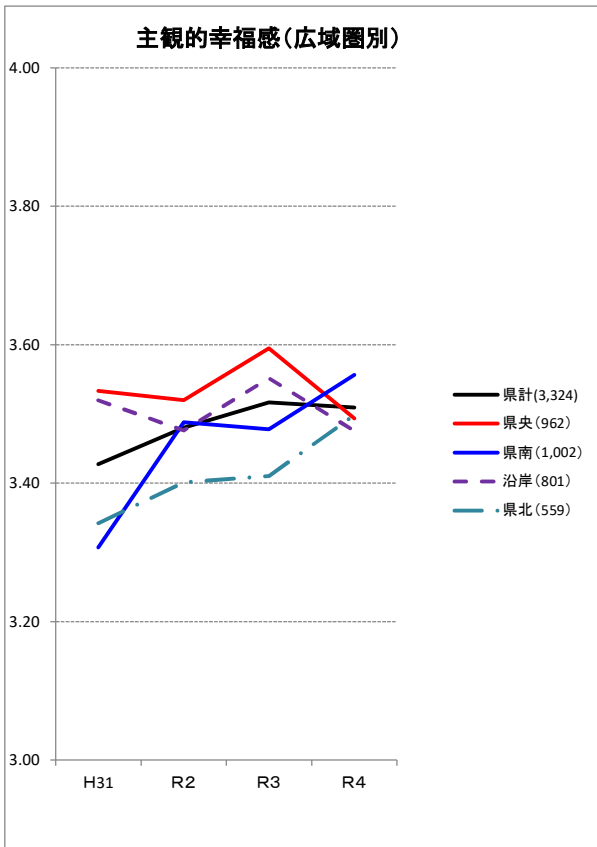
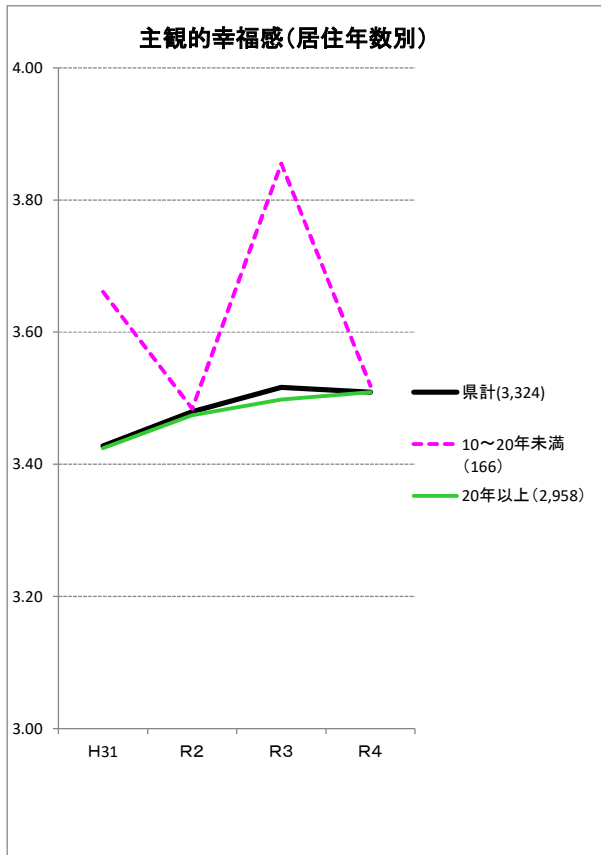
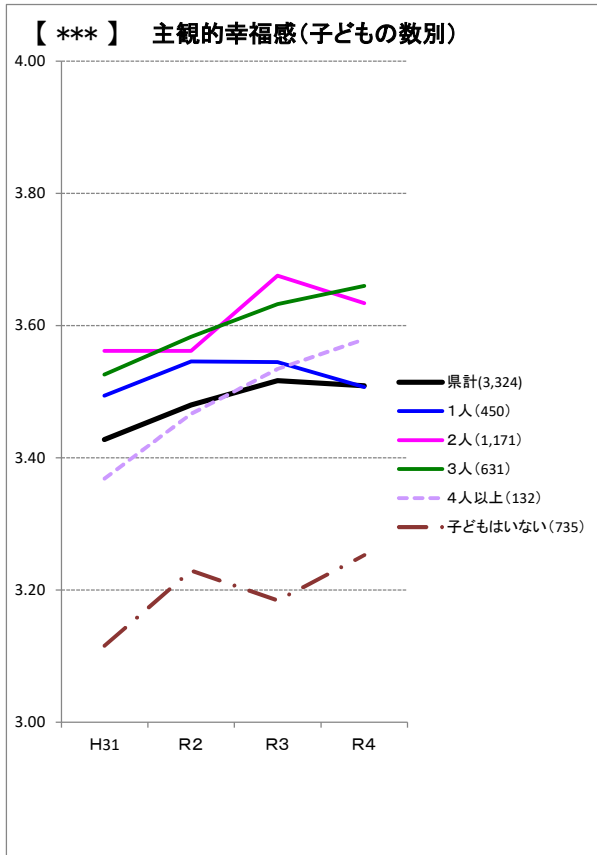
属性		H31	R 4	R 4-H31 (対基準年差)
県計		3.43	3.51	0.08
性別	女性	3.52	3.60	0.08
年代	50～59 歳	3.33	3.47	0.14
職業	自営業主	3.41	3.63	0.22
	常用雇用者	3.38	3.53	0.15
世帯構成	その他	3.19	3.42	0.24
子どもの数	3人	3.53	3.66	0.13
	子どもはいない	3.12	3.25	0.14
居住年数	10年未満	3.37	3.81	0.44
	20年以上	3.42	3.51	0.08
広域振興圏	県南広域振興圏	3.31	3.56	0.25
	県北広域振興圏	3.34	3.50	0.16

③ 幸福感を判断する上で重視された項目（P 7 図 4 参照）

令和 4 年県民意識調査において、回答した人が**幸福感を判断する上で重視した項目**については、基準年以降継続して 1 位が「健康状況」、2 位が「家族関係」でした。

図6 主観的幸福感の属性別集計結果





「主観的幸福感(平均)について」

幸福感平均の算出方法

「幸福だと感じている」を5点、「やや幸福だと感じている」を4点、「どちらともいえない」を3点、「あまり幸福だと感じていない」を2点、「幸福だと感じていない」を1点とし、それぞれの選択者数を乗じた合計点を、全体の回答者数(「わからない」、「不明(無回答)」を除く。)で除し、数値化したもの。

■凡例■

グラフ左上の*は、R4調査結果の属性別一元配置分散分析結果を示す。

【***】1%水準で差が有意(差が認められる)

【**】5%水準で差が有意(差が認められる)

【*】10%水準で差が有意(差が認められる)

【-】 差が認められない

注) R4のサンプル数が100人以下である以下の属性を分析対象から除外。

- ・ 性別の「その他」
- ・ 年代の「18~19歳」
- ・ 職業の「家族従業者」、「60歳未満の無職」
- ・ 居住年数「10年未満」

4.3 分野別実感について

令和4年県民意識調査結果から得られた分野別実感の平均値は表8のとおりであり、政策推進プランの開始前である平成31年を基準とした場合、4分野で上昇、3分野で横ばい、5分野で低下が見られました。

表8 【県民意識調査】分野別実感の時系列分析結果（基準年比較）

政策分野	分野別実感	平均値の推移			
		H31 (基準年)	R2	R3	R4 (当該年度)
I 健康・余暇	(1) 心身の健康	3.00	3.15 ↑ (0.15)	3.07 ↑ (0.07)	3.20 ↑ (0.20)
	(2) 余暇の充実	3.05	2.93 ↓ (Δ0.12)	2.97 ↓ (Δ0.08)	2.96 ↓ (Δ0.09)
II 家族・子育て	(3) 家族関係	3.84	3.86 - (0.02)	3.85 - (0.01)	3.91 ↑ (0.07)
	(4) 子育て	3.08	3.07 - (Δ0.01)	3.16 ↑ (0.08)	3.16 ↑ (0.08)
III 教育	(5) 子どもの教育	3.10	3.09 - (Δ0.01)	3.20 ↑ (0.10)	3.18 ↑ (0.08)
IV 居住環境・コミュニティ	(6) 住まいの快適さ	3.34	3.29 - (Δ0.05)	3.31 - (Δ0.02)	3.31 - (Δ0.03)
	(7) 地域社会とのつながり	3.35	3.16 ↓ (Δ0.19)	3.09 ↓ (Δ0.25)	3.10 ↓ (Δ0.25)
V 安全	(8) 地域の安全	3.82	3.66 ↓ (Δ0.16)	3.76 ↓ (Δ0.06)	3.72 ↓ (Δ0.10)
VI 仕事・収入	(9) 仕事のやりがい	3.54	3.38 ↓ (Δ0.16)	3.49 - (Δ0.05)	3.41 ↓ (Δ0.12)
	(10) 必要な収入や所得	2.65	2.56 ↓ (Δ0.09)	2.77 ↑ (0.13)	2.57 ↓ (Δ0.07)
VII 歴史・文化	(11) 歴史・文化への誇り	3.28	3.25 - (Δ0.03)	3.18 ↓ (Δ0.11)	3.27 - (Δ0.01)
VIII 自然環境	(12) 自然のゆたかさ	4.21	4.16 ↓ (Δ0.05)	4.18 - (Δ0.03)	4.23 - (0.02)

(注) ① () は基準年調査との差。

なお、四捨五入の関係から年平均値とその差の合計が一致しない場合があります。

② t 検定の結果、5%水準で有意な変化が確認できたものは、網掛けと矢印で表記。

4.3.1 実感が上昇した分野

(1) 「心身の健康」の実感

① 分野別実感の概況

ア 分野別実感の推移

実感平均値は3.20点であり、基準年調査より0.20点上昇しています。

t検定を行った結果、基準年調査に比べて有意に上昇していることから、当該分野の実感は上昇していると考えられます。

イ 属性別の状況

○ 令和4年県民意識調査の状況

- ・ 年代別では、「40～49歳」が低く、「70歳以上」が高くなりました。
- ・ 職業別では、「60歳以上の無職」が低く、「学生+その他」が高くなりました。
- ・ 世帯構成別では、「その他世帯」が低く、「夫婦のみ世帯」が高くなりました。
- ・ 子どもの数別では、「子どもはいない」が低く、「3人」が高くなりました。
- ・ 居住年数別では、「20年以上」が低く、「10～20年未満」が高くなりました。

○ 令和4年県民意識調査と基準年調査との比較

基準年調査と比較して有意に変化した属性は表9のとおりでした。

表9 「心身の健康」の実感において有意な変化があった属性と基準年差

属性		H31	R4	R4-H31
県計		3.00	3.20	0.20
性別	男性	2.97	3.21	0.23
	女性	3.03	3.20	0.17
年代	30～39歳	2.80	3.16	0.36
	40～49歳	2.85	3.09	0.24
	50～59歳	2.90	3.10	0.20
	60～69歳	3.05	3.21	0.16
	70歳以上	3.13	3.29	0.16
職業	会社役員・団体役員	3.02	3.28	0.26
	常用雇用者	2.91	3.17	0.26
	専業主婦・主夫	3.07	3.38	0.31
	60歳以上の無職	2.90	3.09	0.19
世帯構成	夫婦のみ	3.12	3.33	0.21
	2世代世帯	3.00	3.17	0.18
	3世代世帯	3.01	3.31	0.30
子どもの数	1人	2.96	3.15	0.19
	2人	3.13	3.27	0.13
	3人	3.02	3.29	0.27
	4人以上	2.83	3.26	0.43
	子どもはいない	2.82	3.06	0.24
居住年数	10年未満	3.10	3.58	0.48
	20年以上	2.98	3.18	0.20
広域振興圏	県央広域振興圏	3.09	3.21	0.12
	県南広域振興圏	2.92	3.24	0.32
	沿岸広域振興圏	2.96	3.21	0.25

② 分野別実感が上昇した要因

- ・ 県民意識調査の結果、実感が有意に上昇した属性は、表9のとおり幅広く存在しており、特徴的な属性は確認できませんでした。
- ・ 実感の変動については、「心身の健康」で把握しているが、補足調査で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」については、「からだの健康」と「こころの健康」に分けて調査を行っており、実感が上昇した人がそれぞれ選択した上位3位の項目は、以下のとおりでした。

【からだ】

- (ア) 睡眠・休養・しごと・学業・運動などの暮らしの時間配分（ワークライフバランス）
- (イ) 健康診断の結果
- (ウ) こころの健康状態

【こころ】

- (ア) 睡眠・休養・しごと・学業・運動などの暮らしの時間配分（ワークライフバランス）
- (イ) からだの健康状態
- (ウ) 仕事・学業におけるストレスの有無
- (エ) 仕事・学業以外の私生活におけるストレスの有無

- ・ 補足調査結果において、実感が上昇した人と、実感が横ばい又は低下した人の「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」の上位3位の項目を比較しても特徴的な要因は抽出できませんでした。
- ・ 以上を踏まえ、当該分野の実感が上昇した要因は、からだの健康が「睡眠・休養・しごと・学業・運動などの暮らしの時間配分（ワークライフバランス）が良かったこと」「健康診断の結果が良かったこと」「こころの健康状態が良かったこと」であり、こころの健康が「睡眠・休養・しごと・学業・運動などの暮らしの時間配分（ワークライフバランス）が良かったこと」「からだの健康状態が良かったこと」「仕事・学業におけるストレスが減ったこと」「仕事・学業以外の私生活におけるストレスが減ったこと」であると推測されます。

③ 一貫して高値又は低値で推移している属性とその要因

平成28年から令和4年までの県民意識調査で、一貫して高値（4点以上）又は低値（3点未満）で推移している属性はありませんでした。

(2) 「家族関係」の実感

① 分野別実感の概況

ア 分野別実感の推移

実感平均値は3.91点であり、基準年調査より0.07点上昇しています。

t検定を行った結果、基準年調査に比べて有意に上昇していることから、当該分野の実感は上昇していると考えられます。

イ 属性別の状況

○ 令和4年県民意識調査の状況

- ・ 性別では、「男性」が低く、「女性」が高くなりました。
- ・ 年代別では、「50～59歳」が低く、「20～29歳」が高くなりました。
- ・ 職業別では、「臨時雇用者」が低く、「学生＋その他」が高くなりました。
- ・ 世帯構成別では、「その他世帯」が低く、「夫婦のみ世帯」が高くなりました。
- ・ 子どもの数別では、「4人以上」が低く、「2人」が高くなりました。

○ 令和4年県民意識調査と基準年調査との比較

基準年調査と比較して有意に変化した属性は表10のとおりでした。

表10 「家族関係」の実感において有意な変化があった属性と基準年差

属性		H31	R4	R4-H31 (対基準年差)
県計		3.84	3.91	0.07
性別	女性	3.84	3.94	0.10
年代	40～49歳	3.77	3.95	0.18
職業	会社役員・団体役員	3.73	4.01	0.28
	学生+その他	3.87	4.15	0.28
世帯構成	2世代世帯	3.82	3.93	0.11
子どもの数	3人	3.83	3.96	0.14
居住年数	20年以上	3.83	3.90	0.07
広域振興圏	県南広域振興圏	3.74	3.89	0.15
	県北広域振興圏	3.74	3.90	0.16

② 分野別実感が上昇した要因

- ・ 県民意識調査の結果、実感が有意に上昇した属性は、表10のとおりであり、職業別「会社役員・団体役員」、「学生+その他」で上昇幅が大きい傾向にあります。
- ・ 補足調査で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」において、実感が上昇した人が選択した上位3位の項目は、以下のとおりでした。
 - (ア) 会話の頻度(多い・少ない)
 - (イ) 同居の有無
 - (ウ) 困った時に助け合えるかどうか
- ・ 補足調査結果において、実感が上昇した人と、実感が横ばい又は低下した人の「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」の上位3位の項目を比較しても特徴的な要因は抽出できませんでした。
- ・ 以上を踏まえ、当該分野の実感が上昇した要因は、「会話の頻度が多いこと」、「同居(あるいは別居)がうまくいっていること」、「困った時に助け合えていること」であると推測されます。

③ 一貫して高値又は低値で推移している属性とその要因

- ・ 平成28年から令和4年までの県民意識調査で、一貫して高値(4点以上)で推移している属性は表11のとおりであり、低値(3点未満)で推移している属性はありませんでした。

○ 夫婦のみ世帯

「夫婦のみ世帯」の属性を有し、補足調査で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」において、「感じる・やや感じる」と回答した人が選択した上位3位の項目から、以下の要因が推測されます。

- (ア) 会話の頻度が多いこと
- (イ) 困った時に助け合えていること
- (ウ) 同居(あるいは別居)がうまくいっていること

表11 「家族関係」の実感において高値で推移している属性

属性		H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4
世帯構成	夫婦のみ	4.05	4.00	4.04	4.02	4.03	4.02	4.10

(3) 「子育て」の実感

① 分野別実感の概況

ア 分野別実感の推移

実感平均値は 3.16 点であり、基準年調査より 0.08 点上昇しています。

t 検定を行った結果、基準年調査に比べて有意に上昇していることから、当該分野の実感は上昇していると考えられます。

イ 属性別の状況

○ 令和 4 年県民意識調査の状況

- ・ 年代別では、「50～59 歳」が低く、「70 歳以上」が高くなりました。
- ・ 職業別では、「常用雇用者」が低く、「学生+その他」が高くなりました。
- ・ 子どもの数別では、「子どもはいない」が低く、「1 人」が高くなりました。

○ 令和 4 年県民意識調査と基準年調査との比較

基準年調査と比較して有意に変化した属性は表 12 のとおりでした。

表 12 「子育て」の実感において有意な変化があった属性と基準年差

属性		H31	R 4	R 4-H31 (対基準年差)
県計		3.08	3.16	0.08
年代	20～29 歳	2.80	3.12	0.32
職業	会社役員・団体役員	2.94	3.27	0.33
	専業主婦・主夫	3.04	3.27	0.23
世帯構成	ひとり暮らし	2.80	3.00	0.21
子どもの数	1 人	3.11	3.27	0.16
	子どもはいない	2.60	2.87	0.27
広域振興圏	県南広域振興圏	2.97	3.14	0.18
	県北広域振興圏	3.01	3.22	0.21

② 分野別実感が上昇した要因

- ・ 県民意識調査の結果、実感が有意に上昇した属性は、表 12 のとおりであり、年代別「20～29 歳」、職業別「会社役員・団体役員」で上昇幅が大きい傾向にあります。
- ・ 補足調査で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」において、実感が上昇した人が選択した上位 3 位の項目は、以下のとおりでした。
 - (ア) 子どもを預けられる人の有無(親、親戚など)
 - (イ) 子どもを預けられる場所の有無(保育所など)
 - (ウ) 配偶者の家事への参加
- ・ 補足調査結果において、実感が上昇した人と、実感が横ばい又は低下した人の「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」の上位 3 位の項目を比較しても特徴的な要因は抽出できませんでした。
- ・ 以上を踏まえ、当該分野の実感が上昇した要因は、「子どもを預けられる人(親、親戚など)がいること」、「子どもを預けられる場所(保育所など)があること」、「配偶者が家事に参加していること」であると推測されます。

③ 一貫して高値又は低値で推移している属性とその要因

平成 28 年から令和 4 年までの県民意識調査で、一貫して高値（4 点以上）で推移している属性はなく、低値（3 点未満）で推移している属性は表 13 のとおりです。

○ 子どもはいない

「子どもはいない」の属性を有し、補足調査で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」において、「あまり感じない・感じない」と回答した人が選択した上位3位の項目から、以下の要因が推測されます。

- (ア) わからない（身近に子どもがいない、子育てにかかわっていないなど）
- (イ) 子どもの教育にかかる費用が高いこと
- (ウ) 子育てにかかる費用が高いこと
- (エ) 自分の就業状況（労働時間、休養・休暇など）に不満があること

表 13 「子育て」の実感において低値で推移している属性

属性		H28	H29	H30	H31	R 2	R 3	R 4
子どもの数	子どもはいない	2.61	2.73	2.63	2.60	2.72	2.83	2.87

(4) 「子どもの教育」の実感

① 分野別実感の概況

ア 分野別実感の推移

実感平均値は3.18点であり、基準年調査より0.08点上昇しています。

t検定を行った結果、基準年調査に比べて有意に上昇していることから、当該分野の実感は上昇していると考えられます。

イ 属性別の状況

○ 令和4年県民意識調査の状況

- ・ 年代別では、「50～59歳」が低く、「70歳以上」が高くなりました。
- ・ 職業別では、「常用雇用者」が低く、「学生+その他」が高くなりました。
- ・ 子どもの数別では、「子どもはいない」が低く、「2人」が高くなりました。

○ 令和4年県民意識調査と基準年調査との比較

基準年調査と比較して有意に変化した属性は表14のとおりでした。

表 14 「子どもの教育」の実感において有意な変化があった属性と基準年差

属性		H31	R 4	R 4-H31 (対基準年差)
県計		3.10	3.18	0.08
性別	男性	3.08	3.17	0.09
年代	20～29歳	2.92	3.19	0.27
	60～69歳	2.95	3.09	0.14
子どもの数	2人	3.14	3.24	0.10
居住年数	10年未満	2.78	3.26	0.48
	20年以上	3.10	3.16	0.06
広域振興圏	県北広域振興圏	3.07	3.27	0.20

② 分野別実感が上昇した要因

- ・ 県民意識調査の結果、実感が有意に上昇した属性は、表14のとおりであり、年代別「20～29歳」、居住年数別「10年未満」で上昇幅が大きい傾向にあります。
- ・ 補足調査で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」において、実感が上昇した人が選択した上位3位の項目は以下のとおりでした。
 - (ア) 人間性、社会性を育むための教育内容
 - (イ) 学力を育む教育内容

- (ウ) 健やかな体を育む教育内容(体育、部活動の内容など)
- ・ 補足調査結果において、実感が上昇した人と、実感が横ばい又は低下した人の「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」の上位3位の項目を比較しても特徴的な要因は抽出できませんでした。
- ・ 以上を踏まえ、当該分野の実感が上昇した要因は、「人間性、社会性を育むための教育内容となっていること」、「学力を育む教育内容となっていること」、「健やかな体を育む教育内容(体育、部活動の内容など)となっていること」であると推測されます。

③ 一貫して高値又は低値で推移している属性とその要因

- ・ 平成28年から令和4年までの県民意識調査で、一貫して高値(4点以上)で推移している属性はなく、低値(3点未満)で推移している属性は表15のとおりでした。

○ 子どもはいない

「子どもはいない」の属性を有し、補足調査で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」において、「あまり感じない・感じない」と回答した人が選択した上位3位の項目から、以下の要因が推測されます。

- (ア) 人間性、社会性を育むための教育内容が十分とは言えないこと
- (イ) わからない(身近に子どもがいない、子育てにかかわっていないなど)
- (ウ) 学力を育む教育内容不登校やいじめなどへの対応が十分とは言えないこと
- (エ) 不登校やいじめなどへの対応が十分とは言えないこと
- (オ) 図書館や科学館などが充実しているとは言えないこと

表15 「子どもの教育」の実感において低値で推移している属性

属性		H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4
子どもの数	子どもはいない	2.96	2.94	2.92	2.84	2.80	2.98	2.96

4.3.2 実感が低下した分野

(1) 「余暇の充実」の実感

① 分野別実感の概況

ア 分野別実感の推移

実感平均値は2.96点であり、基準年調査より0.09点低下しています。

t検定を行った結果、基準年調査に比べて有意に低下していることから、当該分野の実感は低下していると考えられます。

イ 属性別の状況

○ 令和4年県民意識調査の状況

- ・ 年代別では、「50～59歳」が低く、「70歳以上」が高くなりました。
- ・ 職業別では、「常用雇用者」が低く、「学生+その他」が高くなりました。
- ・ 世帯構成別では、「その他世帯」が低く、「夫婦のみ世帯」が高くなりました。
- ・ 居住年数別では、「20年以上」が低く、「10～20年未満」が高くなりました。

○ 令和4年県民意識調査と基準年調査との比較

基準年調査と比較して有意に変化した属性は表16のとおりでした。

表16 「余暇の充実」の実感において有意な変化があった属性と基準年差

属性		H31	R4	R4-H31 (対基準年差)
県計		3.05	2.96	▲ 0.09
性別	女性	3.08	2.96	▲ 0.12
年代	70歳以上	3.36	3.10	▲ 0.26
職業	60歳以上の無職	3.26	3.00	▲ 0.26
世帯構成	夫婦のみ	3.24	3.07	▲ 0.17
居住年数	20年以上	3.03	2.94	▲ 0.10
広域振興圏	県央広域振興圏	3.17	2.99	▲ 0.18
	沿岸広域振興圏	3.09	2.90	▲ 0.19

② 分野別実感が低下した要因

- ・ 県民意識調査の結果、実感が有意に低下した属性は、表16のとおりであり、年代別「70歳以上」、職業別「60歳以上の無職」で低下幅が大きい傾向にあります。これらの属性について、県民意識調査の生活行動時間の結果を見てみると、「60歳以上の無職」については、他の属性に比べて、自由な時間が十分に確保されている状況にあり、補足調査で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」において、これらの属性で実感が低下した人の回答項目の上位は、「趣味・娯楽活動の場所・機会」「知人・友人との交流」となっています。
- ・ 補足調査で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」において、実感が低下した人が選択した上位3位の項目は、以下のとおりでした。
 - (ア) 自由な時間の確保
 - (イ) 趣味・娯楽活動の場所・機会
 - (ウ) 知人・友人との交流
- ・ 補足調査結果において、実感が低下した人と、実感が横ばい又は上昇した人の「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」の上位3位の項目を比較してもを比較しても特徴的な要因は抽出できませんでした。
- ・ 以上を踏まえ、当該分野の実感が低下した要因は、「自由な時間が十分に確保でき

なかったこと」、「趣味・娯楽活動の場所・機会が少ないこと」、「知人・友人との交流が少ないこと」であると推測されます。

- ただし、「60歳以上の無職」の属性については、他の属性に比べて余暇時間が多く確保されており、「自由な時間が十分に確保できなかったこと」は要因とは言えないと考えます。

③ 一貫して高値又は低値で推移している属性とその要因

- 平成28年から令和3年までの県民意識調査で、一貫して高値（4点以上）で推移している属性はなく、低値（3点未満）で推移している属性は表17のとおりです。
- これらの属性を有し、補足調査で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」において、「あまり感じない・感じない」と回答した人が選択した上位3位の項目から、「自由な時間が十分に確保できなかったこと」、「知人・友人との交流が減ったこと」、「趣味・娯楽活動の場所・機会が減ったこと」で全て同一であったことから、これらが一貫して低値で推移している要因として推測されます。

表17 「余暇の充実」の実感において低値で推移している属性

属性		H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4
年代	30～39歳	2.73	2.88	2.88	2.71	2.78	2.86	2.87
	40～49歳	2.88	2.82	2.88	2.87	2.88	2.83	2.83
	50～59歳	2.68	2.85	2.79	2.92	2.78	2.70	2.81
職業別	常用雇用者	2.82	2.87	2.82	2.89	2.85	2.86	2.84
世帯構成	2世代世帯	2.80	2.98	2.94	2.97	2.84	2.92	2.93
子どもの数	子どもはいない	2.84	2.92	2.97	2.92	2.91	2.91	2.88
広域振興圏	県南広域振興圏※	2.92	3.01	2.99	2.95	2.92	2.90	2.97
	県北広域振興圏※	2.82	3.03	2.83	2.96	2.90	2.93	2.97

※ 基準年（H31）以降一貫して低値で推移している属性

(2) 「地域社会とのつながり」の実感

① 分野別実感の概況

ア 分野別実感の推移

実感平均値は3.10点であり、基準年調査より0.25点低下しています。

t検定を行った結果、基準年調査に比べて有意に低下していることから、当該分野の実感は低下していると考えられます。

イ 属性別の状況

○ 令和4年県民意識調査の状況

- 年代別では、「30～39歳」が低く、「70歳以上」が高くなりました。
- 職業別では、「臨時雇用者」が低く、「家族従業員」が高くなりました。
- 世帯構成別では、「ひとり暮らし」が低く、「3世代世帯」が高くなりました。
- 子どもの数別では、「子どもはいない」が低く、「3人」が高くなりました。
- 居住年数別では、「10年未満」が低く、「20年以上」が高くなりました。

○ 令和4年県民意識調査と基準年調査との比較

基準年調査と比較して有意に変化した属性は表18のとおりでした。

表 18 「地域社会とのつながり」の実感において有意な変化があった属性と基準年差

属性		H31	R 4	R 4-H31 (対基準年差)
県計		3.35	3.10	▲ 0.25
性別	男性	3.37	3.06	▲ 0.31
	女性	3.33	3.13	▲ 0.20
年代	40～49 歳	3.22	2.96	▲ 0.26
	50～59 歳	3.30	2.99	▲ 0.32
	60～69 歳	3.37	3.09	▲ 0.28
	70 歳以上	3.59	3.33	▲ 0.26
職業	会社役員・団体役員	3.38	3.07	▲ 0.32
	常用雇用者	3.22	2.95	▲ 0.27
	臨時雇用者	3.27	2.94	▲ 0.33
	60 歳以上の無職	3.48	3.15	▲ 0.33
世帯構成	ひとり暮らし	3.15	2.85	▲ 0.31
	夫婦のみ	3.39	3.10	▲ 0.30
	2 世代世帯	3.34	3.12	▲ 0.23
	3 世代世帯	3.53	3.25	▲ 0.28
子どもの数	1 人	3.31	3.09	▲ 0.22
	2 人	3.45	3.18	▲ 0.26
	3 人	3.47	3.26	▲ 0.21
	子どもはいない	3.08	2.82	▲ 0.26
居住年数	10 年未満	3.04	2.67	▲ 0.38
	20 年以上	3.37	3.11	▲ 0.26
広域振興圏	県央広域振興圏	3.24	3.03	▲ 0.20
	県南広域振興圏	3.40	3.12	▲ 0.28
	沿岸広域振興圏	3.43	3.13	▲ 0.31
	県北広域振興圏	3.33	3.13	▲ 0.20

② 分野別実感が低下した要因

- ・ 県民意識調査の結果、実感が有意に低下した属性は、表 18 のとおり幅広く存在しており、特徴的な属性は確認できませんでした。
- ・ 補足調査で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」において、実感が低下した人が選択した上位 3 位の項目は以下のとおりでした。
 - (ア) 隣近所との面識・交流
 - (イ) 自治会・町内会活動への参加（環境美化、防犯・防災活動など）
 - (ウ) その地域で過ごした年数
 なお、「その地域で過ごした年数」については、居住年数が「10 年未満」と「20 年以上」の属性で実感が低下している状況にあります。
- ・ 補足調査結果において、実感が低下した人と、実感が横ばい又は上昇した人の「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」の上位 3 位の項目を比較しても特徴的な要因は抽出できませんでした。
- ・ 以上を踏まえ、当該分野の実感が低下した要因は、「隣近所との面識・交流が減ったこと」「自治会・町内会活動（環境美化、防犯・防災活動など）への参加が減ったこと」「その地域で過ごした年数が影響していること※」であると推測されます。

- ・ なお、当該分野については、平成 31 年調査以降、継続して実感が低下しており、特に、沿岸地域は、他の広域振興圏に比べて、継続して実感が低い状況にあることから、東日本大震災津波による災害公営住宅等の新しいコミュニティの形成などの取組などに注視していく必要があると考えます。

③ 一貫して高値又は低値で推移している属性とその要因

平成 28 年から令和 4 年までの県民意識調査で、一貫して高値（4 点以上）又は低値（3 点未満）で推移している属性はありませんでしたが、基準年（平成 31 年）から令和 4 年までの県民意識調査で、低値（3 点未満）で推移している属性は、表 19 のとおりでした。

○ 20～29 歳

「20～29 歳」の属性を有し、補足調査で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」において、「あまり感じない・感じない」と回答した人が選択した上位 3 位の項目から、以下の要因が推測されます。

- (ア) その地域で過ごした年数が影響していること※
- (イ) 隣近所との面識・交流が少ないこと
- (ウ) 自治会・町内会活動（環境美化、防犯・防災活動など）への参加が少ないこと

表 19 「地域社会とのつながり」の実感において低値で推移している属性

属性		H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4
年代	20～29 歳	2.89	3.05	2.89	2.95	2.83	2.77	2.86

※ 実感に関連する要因として「その地域で過ごした年数」との回答が多く、居住年数が 10 年未満及び 20 年以上の属性で実感の低下がみられたため、このような表現としています。

(3) 「地域の安全」の実感

① 分野別実感の概況

ア 分野別実感の推移

実感平均値は 3.72 点であり、基準年調査より 0.10 点低下しています。

t 検定を行った結果、基準年調査に比べて有意に低下していることから、当該分野の実感は低下していると考えられます。

イ 属性別の状況

○ 令和 4 年県民意識調査の状況

- ・ 職業別では、「臨時雇用者」が低く、「学生＋その他」が高くなりました。

○ 令和 4 年県民意識調査と基準年調査との比較

基準年調査と比較して有意に変化した属性は表 20 のとおりでした。

表 20 「地域の安全」の実感において有意な変化があった属性と基準年差

属性		H31	R4	R4-H31 (対基準年差)
県計		3.82	3.72	▲ 0.10
性別	男性	3.84	3.75	▲ 0.09
	女性	3.80	3.70	▲ 0.11
年代	60～69 歳	3.80	3.69	▲ 0.10
	70 歳以上	3.91	3.73	▲ 0.17
職業	60 歳以上の無職	3.86	3.64	▲ 0.21

世帯構成	夫婦のみ	3.86	3.69	▲ 0.17
	3世代世帯	3.89	3.73	▲ 0.17
子どもの数	1人	3.80	3.66	▲ 0.15
	2人	3.85	3.73	▲ 0.12
居住年数	20年以上	3.83	3.72	▲ 0.11
広域振興圏	県央広域振興圏	3.87	3.76	▲ 0.11
	沿岸広域振興圏	3.82	3.67	▲ 0.15

② 分野別実感が低下した要因

- ・ 県民意識調査の結果、実感が有意に低下した属性は、表 20 のとおりであり、年代別「70 歳以上」、職業別「60 歳以上の無職」、広域振興圏別「沿岸広域振興圏」で低下幅が大きい傾向にあります。特に、沿岸広域振興圏については、他の圏域に比べて継続的に実感が低い傾向にあります。
- ・ 補足調査で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」において、実感が低下した人が選択した上位 3 位の項目は、以下のとおりでした。
 - (ア) 自然災害の発生状況
 - (イ) 自然災害に対する予防（堤防の建設、避難経路の確保など）
 - (ウ) 犯罪の発生状況
- ・ 補足調査結果において、実感が低下した人と、実感が横ばい又は上昇した人の「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」の上位 3 位の項目を比較すると、「社会インフラの老朽化（橋、下水道など）」において、実感が横ばい、上昇した人の回答が少ない一方で、実感が低下した人で顕著に回答が多いことから、当該理由も実感が低下した要因の一つと推測されます。
- ・ 以上を踏まえ、当該分野の実感が低下した要因は、「自然災害の発生が多く、被害も大きくなっていること」「自然災害に対する予防（堤防の建設、避難経路の確保など）が十分とは言えないこと」「犯罪の発生状況に不安があること」「社会インフラの老朽化（橋、下水道など）に不安があること」であると推測されます。

③ 一貫して高値又は低値で推移している属性とその要因

平成 28 年から令和 4 年までの県民意識調査で、一貫して高値（4 点以上）又は低値（3 点未満）で推移している属性はありませんでした。

(4) 「仕事のやりがい」の実感

① 分野別実感の概況

ア 分野別実感の推移

実感平均値は 3.41 点であり、基準年調査より 0.12 点低下しています。

t 検定を行った結果、昨年調査結果に比べて有意に低下していることから、当該分野の実感は低下していると考えられます。

イ 属性別の状況

○ 令和 4 年県民意識調査の状況

- ・ 職業別では、「60 歳以上の無職」が低く、「自営業主」が高くなりました。
- ・ 世帯構成別では、「ひとり暮らし」が低く、「夫婦世帯」が高くなりました。
- ・ 子どもの数別では、「子どもはいない」が低く、「3人」が高くなりました。

○ 令和 4 年県民意識調査と基準年調査との比較

基準年調査と比較して有意に変化した属性は表 21 のとおりでした。

表 21 「仕事のやりがい」の実感において有意な変化があった属性と基準年差

属性		H31	R 4	R4-H31 (対基準年差)
県計		3.54	3.41	▲ 0.12
性別	男性	3.53	3.42	▲ 0.11
	女性	3.54	3.41	▲ 0.13
年代	20～29 歳	3.49	3.18	▲ 0.32
	70 歳以上	3.72	3.45	▲ 0.28
職業	臨時雇用者	3.53	3.31	▲ 0.22
	60 歳以上の無職	3.32	3.09	▲ 0.23
世帯構成	ひとり暮らし	3.51	3.20	▲ 0.31
	3 世代世帯	3.60	3.44	▲ 0.16
子どもの数	3 人	3.74	3.54	▲ 0.20
居住年数	20 年以上	3.53	3.41	▲ 0.13
広域振興圏	沿岸広域振興圏	3.57	3.35	▲ 0.22

② 分野別実感が低下した要因

- ・ 県民意識調査の結果、実感が有意に低下した属性は、表 21 のとおりであり、年代別「20～29 歳」、「70 歳以上」、職業別「臨時雇用者」、「60 歳以上の無職」、世帯構成別「ひとり暮らし」、広域振興圏別「沿岸広域振興圏」で低下幅が大きい傾向にあります。
- ・ 補足調査で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」において、実感が低下した人が選択した上位 3 位の項目は以下のとおりでした。
 - (ア) 現在の収入・給料の額
 - (イ) 現在の職種・業務の内容
 - (ウ) 将来の収入・給料の額の見込み
 - (エ) 職場の人間関係
- ・ 補足調査結果の結果において、仕事をしている属性に限定して実感の変動と「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」の回答を整理した結果、実感が低下した人が選択した上位 3 位の項目は以下のとおりでした。
 - (ア) 現在の職種・業務の内容
 - (イ) 現在の収入・給料の額
 - (ウ) 就業形態（正規・非正規など）
- ・ 補足調査結果において、実感が低下した人と、実感が横ばい又は上昇した人の「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」の上位 3 位の項目を比較しても特徴的な要因は抽出できませんでしたが、仕事をしている属性に限定した整理において、実感が低下した人と、横ばい又は上昇した人の「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」の上位 3 位の項目を比較すると、「収入・給料以外の待遇・処遇（休暇・手当など）」において、実感が横ばい、上昇した人の回答が少ない一方で、実感が低下した人で顕著に回答が多いことから、当該理由も実感が低下した要因の一つと推測されます。
- ・ 以上を踏まえ、当該分野の実感が低下した要因は、「現在の収入・給料の額が十分とは言えないこと」、「現在の職種・業務の内容に不満があること」、「将来の収入・給料の額の見込みに不安があること」、「職場の人間関係が良好とは言えないこと」、「就業形態（正規・非正規など）に不満があること」、「収入・給料以外の待遇・処遇（休暇・手当など）が十分とは言えないこと」であると推測されます。

③ 一貫して高値又は低値で推移している属性とその要因

平成 28 年から令和 4 年までの県民意識調査で、一貫して高値（4 点以上）又は低値（3 点未満）で推移している属性はありませんでした。

(5) 「必要な収入や所得」の実感

① 分野別実感の概況

ア 分野別実感の推移

実感平均値は 2.57 点であり、基準年調査より 0.07 点低下しています。

t 検定を行った結果、基準年調査に比べて有意に低下していることから、当該分野の実感は低下していると考えられます。

イ 属性別の状況

○ 令和 4 年県民意識調査の状況

- ・ 職業別では、「臨時雇用者」が低く、「会社役員・団体役員」が高くなりました。
- ・ 居住年数別では、「20 年以上」が低く、「10～20 年未満」が高くなりました。

○ 令和 4 年県民意識調査と基準年調査との比較

基準年調査と比較して有意に変化した属性は表 22 のとおりでした。

表 22 「必要な収入や所得」の実感において有意な変化があった属性と基準年差

属性		H31	R 4	R 4-H31 (対基準年差)
県計		2.65	2.57	▲ 0.07
性別	男性	2.68	2.55	▲ 0.12
年代	70 歳以上	2.75	2.61	▲ 0.14
職業	自営業主	2.86	2.62	▲ 0.23
	臨時雇用者	2.56	2.38	▲ 0.18
子どもの数	2 人	2.71	2.58	▲ 0.12
居住年数	10～20 年未満	2.48	2.93	0.45
	20 年以上	2.66	2.56	▲ 0.11
広域振興圏	沿岸広域振興圏	2.71	2.53	▲ 0.18

② 分野別実感が低下した要因

- ・ 県民意識調査の結果、実感が有意に低下した属性は、表 22 のとおりであり、職業別「自営業主」、「臨時雇用者」、広域振興圏別「沿岸広域振興圏」で低下幅が大きい傾向にあります。
- ・ 補足調査で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」において、実感が低下した人が選択した上位 3 位の項目は以下のとおりでした。
 - (ア) 自分の収入・所得額(年金を含む)
 - (イ) 生活の程度
 - (ウ) 家族の収入・所得額(年金を含む)
- ・ 補足調査結果において、実感が低下した人と、実感が横ばい又は上昇した人の「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」の上位 3 位の項目を比較しても特徴的な要因は抽出できませんでした。
- ・ 以上を踏まえ、当該分野の実感が上昇した要因は、「自分の収入・所得額(年金を含む)が十分とは言えないこと」、「生活の程度が十分とは言えないこと」、「家族の収入・所得額(年金を含む)が十分とは言えないこと」であると推測されます。
- ・ なお、補足調査の結果から、可処分所得と実感についてクロス集計を行った結果、調査を開始した令和 2 年以降、可処分所得が 300 万円未満である属性においては実

感平均値が一貫して低値（3点未満）で推移し、300万円以上500万円未満の属性から実感平均値が3点を超えていくことが分かりました。

③ 一貫して高値又は低値で推移している属性とその要因

- 平成28年から令和4年までの県民意識調査で、一貫して高値（4点以上）で推移している属性はなく、低値（3点未満）で推移している属性は表23のとおりでした。
- ほぼ全ての属性において一貫して低値で推移していることから、補足調査において、補足調査結果で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」において、「あまり感じない・感じない」と回答した人が選択した上位3位の項目から、「自分の収入・所得額（年金を含む）が十分とは言えないこと」、「家族の収入・所得額が十分とは言えないこと」、「自分の金融資産の額が十分とは言えないこと」が一貫して低値で推移している要因として推測されます。

表23 「必要な収入や所得」の実感において低値で推移している属性

属性		H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4
県計		2.44	2.58	2.45	2.65	2.56	2.77	2.57
性別	男性	2.46	2.60	2.47	2.68	2.55	2.75	2.55
	女性	2.43	2.56	2.43	2.61	2.58	2.79	2.59
年代	20～29歳	2.48	2.51	2.44	2.66	2.49	2.68	2.40
	30～39歳	2.44	2.47	2.42	2.51	2.36	2.71	2.50
	40～49歳	2.51	2.56	2.52	2.66	2.50	2.82	2.62
	50～59歳	2.46	2.52	2.49	2.60	2.52	2.75	2.58
	60～69歳	2.37	2.57	2.40	2.63	2.59	2.77	2.54
	70歳以上	2.46	2.70	2.45	2.75	2.65	2.80	2.61
職業別	自営業主	2.53	2.69	2.58	2.86	2.63	2.86	2.62
	家族従業者	2.61	2.85	2.42	2.91	2.73	2.81	2.78
	常用雇用者	2.58	2.66	2.55	2.72	2.60	2.86	2.67
	臨時雇用者	2.20	2.31	2.30	2.56	2.39	2.65	2.38
	学生＋その他	2.49	2.73	2.63	2.80	2.55	2.94	2.80
	専業主婦（主夫）	2.37	2.48	2.34	2.46	2.67	2.89	2.61
	60歳以上の無職	2.25	2.46	2.29	2.37	2.46	2.42	2.41
世帯構成	ひとり暮らし	2.52	2.65	2.53	2.65	2.57	2.75	2.49
	夫婦のみ	2.59	2.72	2.43	2.76	2.68	2.92	2.63
	2世代世帯	2.41	2.54	2.51	2.62	2.54	2.71	2.56
	3世代世帯	2.49	2.56	2.52	2.72	2.55	2.82	2.62
子どもの数	1人	2.41	2.52	2.48	2.70	2.53	2.78	2.61
	2人	2.48	2.61	2.49	2.71	2.62	2.86	2.58
	3人	2.52	2.70	2.48	2.69	2.59	2.83	2.67
	4人以上	2.36	2.54	2.31	2.48	2.58	2.86	2.56
	子どもはいない	2.37	2.44	2.40	2.53	2.42	2.59	2.46
居住年数	10年未満	2.78	2.74	2.71	2.55	2.92	2.99	2.84
	20年以上	2.42	2.57	2.44	2.66	2.54	2.75	2.56
広域振興圏	県央広域振興圏	2.47	2.59	2.50	2.73	2.62	2.87	2.63
	県南広域振興圏	2.39	2.53	2.42	2.54	2.58	2.70	2.54
	沿岸広域振興圏	2.52	2.63	2.51	2.71	2.53	2.76	2.53
	県北広域振興圏	2.37	2.57	2.34	2.60	2.48	2.76	2.60

4.3.3 実感が横ばいの分野

(1) 「住まいの快適さ」の実感

① 分野別実感の概況

ア 分野別実感の推移

実感平均値は 3.31 点であり、基準年調査より 0.03 点低下しています。

t 検定を行った結果、基準年調査に比べて有意な変化は見られなかったことから、当該分野の実感は横ばいと考えられます。

イ 属性別の状況

○ 令和 4 年県民意識調査の状況

- ・ 年代別では、「60 歳代」が低く、「20～29 歳」が高くなりました。
- ・ 職業別では、「臨時雇用者」が低く、「学生+その他」が高くなりました。
- ・ 世帯構成別では、「ひとり暮らし」が低く、「2 世代世帯」が高くなりました。
- ・ 子どもの数別では、「子どもはいない」が低く、「3 人」が高くなりました。
- ・ 広域振興圏別では、「県北広域振興圏」が低く、「県央広域振興圏」が高くなりました。

○ 令和 4 年県民意識調査と基準年調査との比較

基準年調査と比較して有意に変化した属性は表 24 のとおりでした。

表 24 「住まいの快適さ」の実感において有意な変化があった属性と基準年差

属性		H31	R 4	R4-H31 (対基準年差)
年代	20～29 歳	3.20	3.48	0.27

② 一貫して高値又は低値で推移している属性とその要因

平成 28 年から令和 4 年までの県民意識調査で、一貫して高値（4 点以上）又は低値（3 点未満）で推移している属性はありませんでした。

(2) 「歴史・文化への誇り」の実感

① 分野別実感の概況

ア 分野別実感の推移

実感平均値は 3.27 点であり、基準年調査より 0.01 点低下しています。

t 検定を行った結果、基準年調査に比べて有意な変化は見られなかったことから、当該分野の実感は横ばいと考えられます。

イ 属性別の状況

○ 令和 4 年県民意識調査の状況

- ・ 職業別では、「臨時雇用者」が低く、「学生+その他」が高くなりました。

○ 令和 4 年県民意識調査と基準年調査との比較

基準年調査と比較して有意に変化した属性は表 25 のとおりでした。

表 25 「歴史・文化への誇り」の実感において有意な変化があった属性と基準年差

属性		H31	R 4	R4-H31 (対基準年差)
年代	70 歳以上	3.42	3.25	▲0.17
職業	常用雇用者	3.21	3.31	0.11

② 一貫して高値又は低値で推移している属性とその要因

平成 28 年から令和 4 年までの県民意識調査で、一貫して高値（4 点以上）又は低値（3 点未満）で推移している属性はありませんでした。

(3) 「自然のゆたかさ」の実感

① 分野別実感の概況

ア 分野別実感の推移

実感平均値は 4.23 点であり、基準年調査より 0.02 点上昇しています。

t 検定を行った結果、基準年調査に比べて有意な変化は見られなかったことから、当該分野の実感は横ばいと考えられます。

イ 属性別の状況

○ 令和 4 年県民意識調査の状況

- ・ 年代別では、「70 歳以上」が低く、「30 歳代」が高くなりました。
- ・ 職業別では、「60 歳以上の無職」が低く、「学生＋その他」が高くなりました。
- ・ 世帯構成別では、「ひとり暮らし」が低く、「3 世代世帯」が高くなりました。
- ・ 広域振興圏別では、「県南広域振興圏」が低く、「県北広域振興圏」が高くなりました。

○ 令和 4 年県民意識調査と基準年調査との比較

基準年調査と比較して有意に変化した属性は、表 26 のとおりでした。

表 26 「自然のゆたかさ」の実感において有意な変化があった属性と基準年差

属性		H31	R 4	R4-H31 (対基準年差)
年代	30～39 歳	4.22	4.37	0.16
子どもの数	子どもはいない	4.14	4.28	0.13

② 一貫して高値又は低値で推移している属性とその要因

- ・ 平成 28 年から令和 4 年までの県民意識調査で、一貫して低値（3 点未満）で推移している属性はなく、高値（4 点以上）で推移している属性は表 27 のとおりです。
- ・ 全ての属性において高値で推移していることから、補足調査で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」において、「感じる・やや感じる」と回答した人が選択した上位 3 位の項目から、「緑の量が豊かであること」、「空気の状態が綺麗であること」、「水（河川、池、地下水など）の状態が綺麗であること」が一貫して高値で推移している要因として推測されます（P10 表 3 参照）。

表 27 「自然のゆたかさ」の実感において高値で推移している属性

属性		H29	H30	H31	R 2	R 3	R 4
県計		4.26	4.27	4.21	4.16	4.18	4.23
性別	男性	4.23	4.25	4.19	4.13	4.16	4.20
	女性	4.29	4.28	4.23	4.18	4.20	4.25
年代	20～29 歳	4.37	4.36	4.20	4.20	4.21	4.37
	30～39 歳	4.28	4.31	4.22	4.33	4.24	4.37
	40～49 歳	4.30	4.42	4.30	4.16	4.22	4.36
	50～59 歳	4.30	4.38	4.27	4.25	4.24	4.27
	60～69 歳	4.24	4.18	4.17	4.09	4.19	4.19
	70 歳以上	4.20	4.14	4.17	4.10	4.08	4.10
職業別	自営業主	4.29	4.29	4.21	4.22	4.19	4.32
	家族従業者	4.50	4.31	4.12	4.33	4.15	4.28
	会社役員・団体役員	4.28	4.26	4.28	4.20	4.30	4.32
	常用雇用者	4.30	4.33	4.25	4.21	4.24	4.31
	臨時雇用者	4.36	4.31	4.31	4.22	4.16	4.23
	学生＋その他	4.37	4.59	4.33	4.09	4.34	4.38
	専業主婦（主夫）	4.22	4.29	4.21	4.15	4.21	4.19
	60 歳以上の無職	4.09	4.04	4.09	4.04	4.07	4.02
世帯構成	ひとり暮らし	4.18	4.22	4.18	4.16	4.07	4.09
	夫婦のみ	4.21	4.22	4.20	4.10	4.21	4.18
	2 世代世帯	4.29	4.28	4.22	4.19	4.16	4.29
	3 世代世帯	4.44	4.39	4.34	4.29	4.29	4.30
子どもの数	1 人	4.28	4.25	4.21	4.16	4.24	4.23
	2 人	4.24	4.25	4.25	4.16	4.19	4.20
	3 人	4.28	4.30	4.23	4.16	4.18	4.28
	4 人以上	4.32	4.28	4.25	4.22	4.18	4.23
	子どもはいない	4.27	4.30	4.14	4.19	4.18	4.28
居住年数	10 年未満	4.16	4.22	4.20	4.46	4.24	4.38
	10～20 年未満	4.21	4.29	4.24	4.31	4.35	4.24
	20 年以上	4.27	4.27	4.22	4.15	4.17	4.23
広域振興圏	県央広域振興圏	4.26	4.28	4.19	4.20	4.16	4.23
	県南広域振興圏	4.22	4.26	4.15	4.11	4.15	4.17
	沿岸広域振興圏	4.25	4.25	4.26	4.13	4.21	4.24
	県北広域振興圏	4.37	4.27	4.31	4.23	4.22	4.31

第5章 まとめ

5.1 主観的幸福感について

令和4年県民意識調査結果によると、「幸福だと感じている」から「幸福だと感じていない」の5段階の選択肢に応じて5点から1点を配点したところ、県全体の実感平均値は3.51点（基準年調査：3.43点）となり、基準年より0.08点上昇しています。

t検定を行った結果、基準年調査と比べて有意に上昇しているため、主観的幸福感については上昇していると考えられます。

基準年調査と比較して上昇した属性は、性別では「女性」、年代別では「50～59歳」、職業別では「自営業主」、「常用雇用者」、世帯構成では「その他世帯」、子どもの数別では「3人」、「子どもはいない」、居住年数別では「10年未満」、「20年以上」、広域振興圏別では「県南広域振興圏」、「県北広域振興圏」であり、低下した属性はありませんでした。

また、幸福を判断するに当たっては、「健康状況」や「家族関係」を特に重視していることが分かりました。

5.2 分野別実感について

分野別の実感について、「感じる」から「感じない」の5段階の選択肢に応じて5点から1点を配点したところ、分野別実感の平均値は、基準年調査と比較して、4分野で上昇、3分野で横ばい、5分野で低下となりました。

5.2.1 実感が上昇した分野

(1) 「心身の健康」の実感

令和4年県民意識調査における当該分野の実感平均値は、基準年調査より0.20点上昇して3.20点であり、当該分野の実感は上昇していると考えられます。

基準年調査と比較して上昇した属性は、性別では「男性」、「女性」、年代別では「30～39歳」、「40～49歳」、「50～59歳」、「60～69歳」、「70歳以上」、職業別では「会社役員・団体役員」、「常用雇用者」、「専業主婦・主夫」、「60歳以上の無職」、世帯構成別では「夫婦のみ」、「2世代世帯」、「3世代世帯」、子どもの数別では、「1人」、「2人」、「3人」、「4人以上」、「子どもはいない」、居住年数別では「10年未満」、「20年以上」、広域振興圏別では「県央広域振興圏」、「県南広域振興圏」、「沿岸広域振興圏」であり、低下した属性はありませんでした。

当該分野の実感が上昇した要因として、補足調査の結果より、からだの健康が「睡眠・休養・しごと・学業・運動などの暮らしの時間配分（ワークライフバランス）が良かったこと」「健康診断の結果が良かったこと」「こころの健康状態が良かったこと」であり、こころの健康が「睡眠・休養・しごと・学業・運動などの暮らしの時間配分（ワークライフバランス）が良かったこと」「からだの健康状態が良かったこと」「仕事・学業におけるストレスが少なかったこと」「仕事・学業以外の私生活におけるストレスが少なかったこと」であると推測されます。

(2) 「家族関係」の実感

令和4年県民意識調査における当該分野の実感平均値は、基準年調査より0.07点低下して3.91点であり、当該分野の実感は上昇していると考えられます。

基準年調査と比較して上昇した属性は、性別で「女性」、年代別で「40～49歳」、職業別で「会社役員・団体役員」、「学生+その他」、世帯構成別「2世代世帯」、子どもの数別では「3人」、居住年数では「20年以上」、広域振興圏別では「県南広域振興圏」、「県北広域振興圏」であり、低下した属性はありませんでした。

当該分野の実感が上昇した要因として、補足調査の結果より、「会話の頻度が多いこと」、

「同居（あるいは別居）がうまくいっていること」、「困った時に助け合えていること」であると推測されます。

平成 28 年から一貫して高値で推移している属性は、「夫婦のみ世帯」であり、その要因は補足調査の結果より、分野別実感が低下した要因と同じであると推測されます。

(3) 「子育て」の実感

令和 4 年県民意識調査における当該分野の実感平均値は、基準年調査より 0.08 点上昇して 3.16 点であり、当該分野の実感は上昇していると考えられます。

基準年調査と比較して上昇した属性は、年代別では「20～29 歳」、職業別では「会社役員・団体役員」、「専業主婦・主夫」、世帯構成別では「ひとり暮らし」、子どもの数別では「1 人」、「子どもはいない」、広域振興圏別では「県南広域振興圏」、「県北広域振興圏」であり、低下した属性はありませんでした。

当該分野の実感が上昇した要因として、補足調査の結果より、「子どもを預けられる人（親、親戚など）がいること」、「子どもを預けられる場所（保育所など）があること」、「配偶者が家事に参加していること」であると推測されます。

平成 28 年から一貫して低値で推移している属性は、子どもの数別で「子どもはいない」であり、その要因は補足調査の結果より、以下のとおり推測されます。

- (ア) わからない（身近に子どもがいない、子育てにかかわっていないなど）
- (イ) 子どもの教育にかかる費用が高いこと
- (ウ) 子育てにかかる費用が高いこと
- (エ) 自分の就業状況（労働時間、休養・休暇など）に不満があること

(4) 「子どもの教育」の実感

令和 4 年県民意識調査における当該分野の実感平均値は、基準年調査より 0.08 点上昇して 3.18 点であり、当該分野の実感は上昇していると考えられます。

基準年調査と比較して上昇した属性は、性別では「男性」、年代別では「20～29 歳」、「60～69 歳」、子どもの数別では「2 人」、居住年数別では「10 年未満」、「20 年以上」、広域振興圏別では「県北広域振興圏」であり、低下した属性はありませんでした。

当該分野の実感が上昇した要因として、補足調査の結果より、「人間性、社会性を育むための教育内容となっていること」、「学力を育む教育内容となっていること」、「健やかな体を育む教育内容（体育、部活動の内容など）となっていること」であると推測されます。

平成 28 年から一貫して低値で推移している属性は、子どもの数別で「子どもはいない」であり、その要因は補足調査の結果より、以下のとおり推測されます。

- (ア) 人間性、社会性を育むための教育内容が十分とは言えないこと
- (イ) わからない（身近に子どもがいない、子育てにかかわっていないなど）
- (ウ) 学力を育む教育内容不登校やいじめなどへの対応が十分とは言えないこと
- (エ) 不登校やいじめなどへの対応が十分とは言えないこと
- (オ) 図書館や科学館などが充実しているとは言えないこと

5.2.2 実感が低下した分野

(1) 「余暇の充実」の実感

令和 4 年県民意識調査における当該分野の実感平均値は、基準年調査より 0.09 点低下して 2.96 点であり、当該分野の実感は低下していると考えられます。

基準年調査と比較して低下した属性は、性別では「女性」、年代別では「70 歳以上」、職業別では「60 歳以上の無職」、居住年数別では「20 年以上」、広域振興圏別では「県央広域振興圏」、「沿岸広域振興圏」であり、上昇した属性はありませんでした。

当該分野の実感が低下した要因として、補足調査の結果より、「自由な時間が十分に確保できなかったこと」、「趣味・娯楽活動の場所・機会が少ないこと」、「知人・友人との交流が少ないこと」であると推測されます。

平成 28 年から一貫して低値で推移している属性は、年代別では「30～39 歳」、「40～49 歳」、「50～59 歳」、職業別では「常用雇用者」、世帯構成別では「2 世代世帯」、子どもの数別で見ると、「子どもはいない」であり、平成 31 年から一貫して低値で推移している属性は、広域振興圏別では「県南広域振興圏」、「県北広域振興圏」であり、その要因は補足調査の結果より、該当する全ての属性において分野別実感が低下した要因と同じであると推測されます。

(2) 「地域社会とのつながり」の実感

令和 4 年県民意識調査における当該分野の実感平均値は、基準年調査より 0.25 点低下して 3.10 点であり、当該分野の実感は低下していると考えられます。

基準年調査と比較して低下した属性は、性別では「男性」、「女性」、年代別では「40～49 歳」、「50～59 歳」、「60～69 歳」、「70 歳以上」、職業別では「会社役員・団体役員」、「常用雇用者」、「臨時雇用者」、「60 歳以上の無職」、世帯構成別では「ひとり暮らし」、「夫婦のみ世帯」、「2 世代世帯」、「3 世代世帯」、子どもの数別では「1 人」、「2 人」、「3 人」、「子どもはいない」、居住年数別では「10 年未満」、「20 年以上」、広域振興圏別では「県中央広域振興圏」、「県南広域振興圏」、「沿岸広域振興圏」、「県北広域振興圏」であり、上昇した属性はありませんでした。

当該分野の実感が低下した要因として、補足調査の結果より、「隣近所との面識・交流が減ったこと」「自治会・町内会活動（環境美化、防犯・防災活動など）への参加が減ったこと」「その地域で過ごした年数が影響していること」であると推測されます。

平成 31 年調査から一貫して低値で推移している属性は、年代別では「20～29 歳」であり、その要因は分野別実感が低下した要因と同じであると推測されます。

(3) 「地域の安全」の実感

令和 4 年県民意識調査における当該分野の実感平均値は、基準年調査より 0.10 点低下して 3.72 点であり、当該分野の実感は低下していると考えられます。

基準年調査と比較して低下した属性は、性別では「男性」、「女性」、年代別では「60～69 歳」、「70 歳以上」、職業別では「60 歳以上の無職」、世帯構成別では「夫婦のみ世帯」、「3 世代世帯」、子どもの数別では「1 人」、「2 人」、居住年数別では「20 年以上」、広域振興圏別では「県中央広域振興圏」、「沿岸広域振興圏」であり、上昇した属性はありませんでした。

当該分野の実感が低下した要因として、補足調査の結果より、「自然災害の発生が多く、被害も大きくなっていること」「自然災害に対する予防（堤防の建設、避難経路の確保など）が十分とは言えないこと」「犯罪の発生状況に不安があること」「社会インフラの老朽化（橋、下水道など）に不安があること」であると推測されます。

(4) 「仕事のやりがい」の実感

令和 4 年県民意識調査における当該分野の実感平均値は、基準年調査より 0.12 点低下して 3.41 点であり、当該分野の実感は横ばいと考えられます。

基準年調査と比較して低下した属性は、性別では「男性」、「女性」、年代別では「20～29 歳」、「70 歳以上」、職業別では「臨時雇用者」、「60 歳以上の無職」、子どもの数別では「3 人」、広域振興圏別では「沿岸広域振興圏」であり、上昇した属性はありませんでした。

当該分野の実感が低下した要因として、補足調査の結果より、「現在の収入・給料の額

が十分とは言えないこと」、「現在の職種・業務の内容に不満があること」、「将来の収入・給料の額の見込みに不安があること」、「就業形態（正規・非正規など）に不満があること」、「収入・給料以外の待遇・処遇（休暇・手当など）が十分とは言えないこと」であると推測されます。

(5) 「必要な収入や所得」の実感

令和4年県民意識調査における当該分野の実感平均値は、基準年調査より0.07点上昇して2.57点であり、当該分野の実感は低下していると考えられます。

基準年調査と比較して上昇した属性は、居住年数別では「10～20年未満」であり、低下した属性は、性別では「男性」、年代別では「70歳以上」、職業別では「自営業主」、「臨時雇用者」、子どもの数別では「2人」、居住年数別では「20年以上」、広域振興圏別では「沿岸広域振興圏」でした。

当該分野の実感が低下した要因として、補足調査の結果より、「自分の収入・所得額（年金を含む）が十分とは言えないこと」、「生活の程度が十分とは言えないこと」、「家族の収入・所得額（年金を含む）が十分とは言えないこと」であると推測されます。

一貫して低値で推移している属性は、「会社役員・団体役員及び居住年数10～20年未満を除くすべての属性」であり、その要因としては、補足調査結果において、当該分野別実感において「あまり感じない・感じない」と回答した人の主な回答項目から、「自分の収入・所得額（年金を含む）が十分とは言えないこと」、「家族の収入・所得額が十分とは言えないこと」、「自分の金融資産の額が十分とは言えないこと」と推測されます。

5.2.3 実感が横ばいの分野

(1) 「住まいの快適さ」の実感

令和4年県民意識調査における当該分野の実感平均値は、基準年調査より0.03点低下して3.31点であり、当該分野の実感は横ばいと考えられます。

基準年調査と比較して、上昇した属性は、年代別では「20～29歳」であり、低下した属性はありませんでした。

(2) 「歴史・文化への誇り」の実感

令和4年県民意識調査における当該分野の実感平均値は、基準年調査より0.01点低下して3.27点であり、当該分野の実感は横ばいと考えられます。

基準年調査と比較して上昇した属性は、職業別で「常用雇用者」であり、低下した属性は、年代別で「70歳以上」でした。

(3) 「自然のゆたかさ」の実感

令和4年県民意識調査における当該分野の実感平均値は、基準年調査より0.02点低下して4.23点であり、当該分野の実感は横ばいと考えられます。

基準年調査と比較して上昇した属性は、年代別で「30～39歳」、子どもの数別で「子どもはいない」であり、低下した属性はありませんでした。

一貫して高値で推移している属性は全属性であり、その要因は、補足調査において、当該分野別実感の「感じる・やや感じる」と回答した人の回答項目から、「緑の量が豊かであること」、「空気の状態が綺麗であること」、「水（河川、池、地下水など）の状態が綺麗であること」と推測されます。

【追加分析 1】

**新型コロナウイルス感染症の各分野への影響と
分野別実感の関連性の分析**

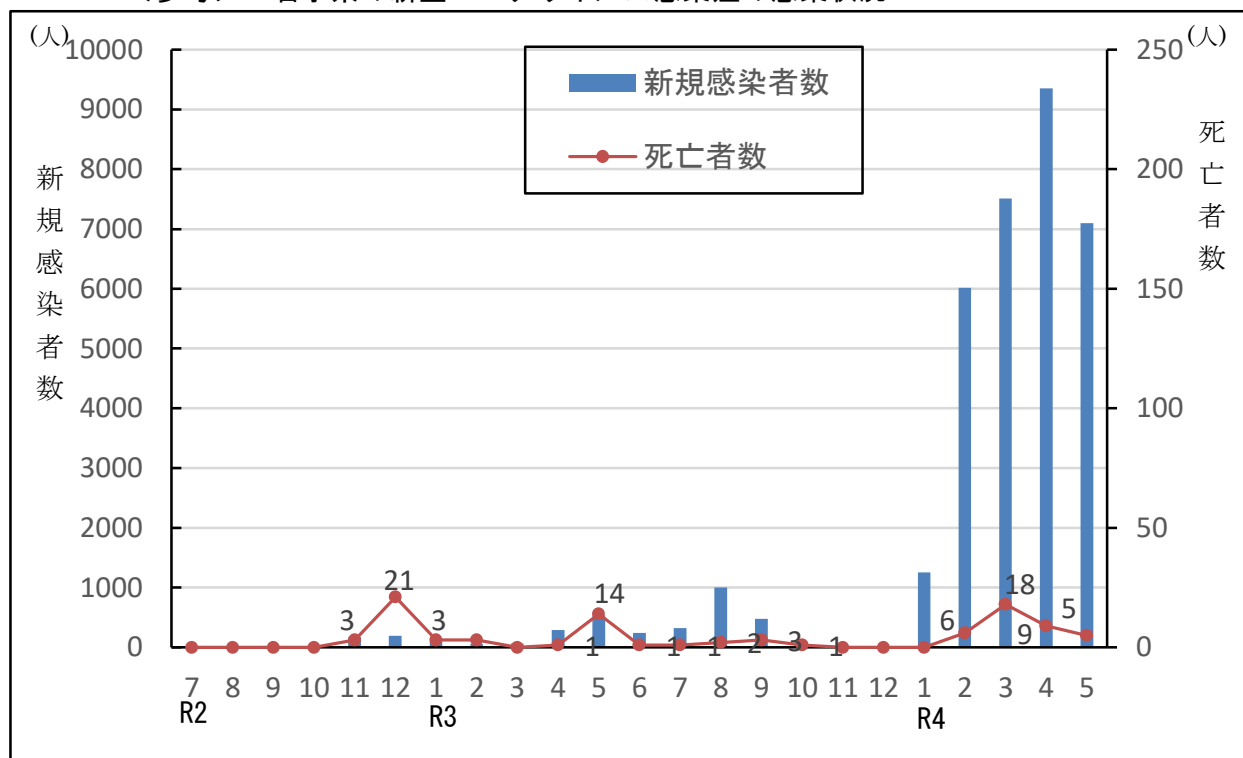
1 新型コロナウイルス感染症の状況

令和元年末に端を発し、世界中に感染が拡大した新型コロナウイルス感染症は、国内で令和2年1月に確認され、本県においても令和2年7月に感染が確認されて以降、現在まで感染が収束していない状況にあります。

新型コロナウイルス感染症は、感染拡大が始まった当初は、重症化率が高かったこともあり、全国的に移動制限などの行動制限を主体とした感染対策が行われていました。

しかし、令和3年には、ワクチンの接種が行われたことなどを要因として、新たな変異株が確認されて感染者が増えても、重症化率があまり高くない状態であり、社会経済活動を可能な限り維持しながら、効果が高いと思われる感染症対策を行っている状況にあります。

<参考> 岩手県の新型コロナウイルス感染症の感染状況



2 追加分析の内容

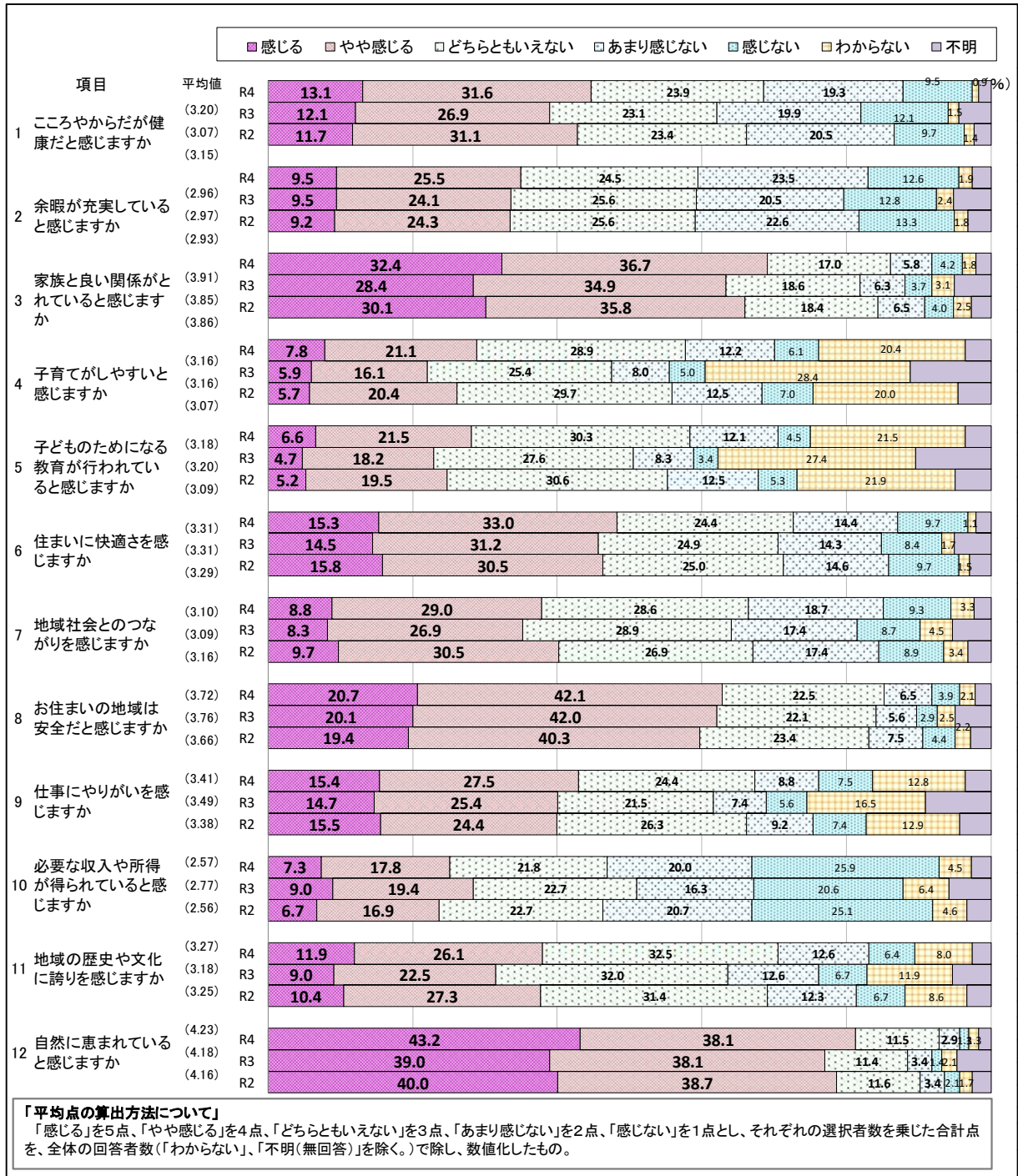
新型コロナウイルス感染症の各分野への影響を尋ねる質問については、令和3年県民意識調査から設けており、令和4年調査の回答結果（図A）と令和2年から令和4年の分野別実感（図B）をもとに、新型コロナウイルス感染症の各分野への影響の度合いと、分野別実感の関連性を統計的に分析しました。

図A 【県民意識調査】新型コロナウイルス感染症の影響に係る項目の回答状況

(項目)		<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> ■ 良い影響を感じる □ やや良い影響を感じる </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> ■ どちらともいえない ■ あまり良くない影響を感じる </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> ■ 良くない影響を感じる □ 影響を感じない </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> ■ 不明 </div>						よい影響 (%)	よくない影響 (%)	
		4%	10%	27%	19%	18%	12%			10%
① 心身の健康	R4	4%	10%	27%	19%	18%	12%	10%	14	37
	R3									
①-1 からだの健康	R4	3%	12%	30%	18%	16%	14%	7%	15	34
	R3	3%	7%	18%	17%	39%	11%	5%	10	56
①-2 こころの健康	R4	3%	10%	26%	22%	20%	12%	7%	13	42
	R3	2%	6%	17%	21%	41%	7%	5%	8	62
2 余暇の充実	R4	3%	11%	26%	19%	23%	10%	7%	14	42
	R3	2%	6%	19%	19%	41%	7%	6%	8	60
3 家族関係	R4	8%	16%	32%	12%	9%	17%	6%	24	21
	R3	5%	8%	25%	16%	27%	13%	5%	13	43
4 子育て	R4	3%	8%	25%	11%	12%	31%	10%	11	23
	R3	2%	8%	17%	13%	28%	26%	10%	5	41
5 子どもの教育	R4	2%	7%	25%	12%	14%	30%	10%	9	26
	R3	1%	8%	16%	15%	30%	24%	11%	4	45
6 住まいの快適さ	R4	5%	15%	33%	12%	8%	20%	6%	20	20
	R3	3%	7%	28%	16%	23%	17%	6%	10	39
7 地域社会とのつながり	R4	2%	11%	32%	17%	16%	15%	6%	13	33
	R3	1%	5%	24%	20%	32%	12%	7%	6	52
8 地域の安全	R4	4%	15%	35%	11%	9%	19%	6%	19	20
	R3	2%	6%	28%	18%	26%	14%	6%	8	44
9 仕事のやりがい	R4	3%	9%	30%	13%	13%	24%	8%	12	26
	R3	2%	5%	23%	15%	26%	20%	8%	7	41
10 必要な収入や所得	R4	2%	6%	27%	18%	19%	22%	7%	8	37
	R3	2%	4%	21%	15%	33%	19%	7%	6	48
11 歴史や文化への誇り	R4	2%	7%	37%	8%	6%	33%	7%	9	14
	R3	1%	2%	24%	17%	31%	19%	7%	3	48
12 自然のゆたかさ	R4	9%	16%	29%	4%	3%	32%	6%	25	7
	R3	2%	6%	27%	15%	23%	20%	6%	8	38

注1) ①心身の健康については、R3は調査していない。
注2) R3調査では、設問を「あなたは新型コロナウイルス感染症の影響についてどのように感じていますか。あなたの実感に最も近いものを1つ選び、番号に○をしてください」とし、項目11を「歴史や文化に触れる機会や場所への影響」、項目12を「自然の恵みを感じる機会への影響」としていた。

図B 【県民意識調査】分野別実感の回答状況



3 分析手法

令和3年と同様、(1)～(3)の手法で分析を行いました。

なお、令和3年調査と令和4年調査は、新型コロナウイルス感染症の影響に関する設問項目が以下のとおり異なります。これは、新型コロナウイルス感染症の影響と分野別実感の関連性を、回答者により明確に意識していただき、新型コロナウイルス感染症の自分への影響を教えていただくために設問を変更したものです。

このため両者の比較が困難であると判断し、当該設問については令和3年と令和4年の調査結果の比較は行いません。

[令和3年調査の設問]

あなたは新型コロナウイルス感染症の影響についてどのように感じていますか。あなたの実感に最も近いものを1つ選び、番号に○をしてください。

[令和4年調査の設問]

次に、問1-1で回答した実感に係る新型コロナウイルス感染症のあなたへの影響について最も近いものを1つ選び、番号に○をしてください。

(1) 分野別実感の平均値の2時点比較

分野別に「感じる」から「感じない」までの5段階の選択肢に応じて5点から1点を配点することで分野別実感の平均値を算出しました。

その上で、新型コロナウイルス感染症の感染拡大前と後の変化を把握するため、令和2年と令和4年の分野別実感の平均値の差をt検定で検証し、5%水準で有意な差があるかどうかを分析しました。

(2) 「新型コロナウイルス感染症の影響」と「分野別実感」のクロス集計分析

分野ごとの新型コロナウイルス感染症の影響の度合いと、分野別実感の関連性を把握するため、以下の2つの項目間でクロス集計を行い、関連性の有無を確認しました。

○新型コロナウイルス感染症の影響の度合い（5区分）

「新型コロナウイルス感染症の影響」を「良い影響を感じる」（「よい影響を感じる」＋「ややよい影響を感じる」）、「どちらともいえない」、「良くない影響を感じる」（「あまりよくない影響を感じる」＋「よくない影響を感じる」）、「影響を感じない」、「不明」の5つに区分しました。

○分野別実感（5区分）

分野別実感を「感じる」（「感じる」＋「やや感じる」）、「どちらともいえない」、「感じない」（「あまり感じない」＋「感じない」）、「わからない」、「不明」の5つに区分しました。

(3) 「新型コロナウイルス感染症の影響」別にみた「分野別実感」の平均値の差の検証

「新型コロナウイルス感染症の影響」と「分野別実感」の関連性を検証するため、「新型コロナウイルス感染症の影響」を「良い影響」、「どちらともいえない＋影響を感じない」、「良くない影響」の3段階に区分し、それぞれの区分ごとに「分野別実感」の平均値を出し、それらの間の差をt検定で検証し、5%水準で有意な差があるかどうかを分析しました。

4 結果の概要

(1) 分野別実感の平均値の2時点比較 (表C参照)

令和2年と令和4年の分野別実感を比較した結果は、以下のとおりとなっています。

実感が上昇した分野 (4分野): 「子育て」「子どもの教育」「地域の安全」
「自然のゆたかさ」

実感が低下した分野 (1分野): 「地域社会とのつながり」

実感が横ばいの分野 (7分野): 「心身の健康」「余暇の充実」「家族関係」
「住まいの快適さ」「仕事のやりがい」
「必要な収入や所得」「歴史・文化への誇り」

(2) 「新型コロナウイルス感染症の影響」と「分野別実感」のクロス集計分析 (表D参照)

「新型コロナウイルス感染症の影響」と「分野別実感」をクロス集計したところ、新型コロナウイルス感染症の影響について「良い影響を感じる」と回答した人は、すべての分野別実感で「感じる」と回答 (ポジティブに回答) した割合が最も高くなりました。

一方で、「良くない影響を感じる」と回答した人は、「からだの健康」「余暇の充実」「子育て」「住まいの快適さ」「必要な収入や所得」の5分野別実感で「感じない」と回答 (ネガティブに回答) した割合が最も高くなり、それ以外の8分野では分野別実感を「感じる」と回答 (ポジティブに回答) した割合が最も高くなりました。

(3) 「新型コロナウイルス感染症の影響」別にみた「分野別実感」の平均値の差の検証 (表E参照)

① 「良い影響を感じる」と「どちらともいえない+影響を感じない」の比較

「新型コロナウイルス感染症の影響」について「良い影響を感じる」の回答者と「どちらともいえない+影響を感じない」の回答者の「分野別実感」の平均値の差の有無を検証しました。検証の結果、全ての「分野別実感」で、「良い影響を感じる」の回答者は「どちらともいえない+影響を感じない」の回答者よりも「分野別実感」が有意に高くなりました。

② 「良くない影響を感じる」と「どちらともいえない+影響を感じない」の比較

「新型コロナウイルス感染症の影響」について「良くない影響を感じる」の回答者と「どちらともいえない+影響を感じない」の回答者の「分野別実感」の平均値の差の有無を検証しました。検証の結果、9つの「分野別実感」で、「良くない影響を感じる」の回答者は「どちらともいえない+影響を感じない」の回答者よりも「分野別実感」が有意に低くなりました。一方で、「地域社会とのつながり」「歴史・文化への誇り」では、「どちらともいえない+影響を感じない」の回答者よりも「分野別実感」が有意に高くなりました。

なお、「必要な収入や所得」において、「新型コロナウイルス感染症の影響」について「良くない影響を感じる」の回答者の実感平均値は1.96となっており、他の分野に比べても、実感が非常に低くなっていることから、留意が必要と考えられます。

(4) 分析結果のまとめ

- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大前と感染拡大後で「分野別実感」の平均値を比較したところ4分野で実感が上昇し、1分野で実感が低下し、7分野で実感が横ばいとなりました。
- 「新型コロナウイルス感染症の影響」と「分野別実感」をクロス集計したところ、新型コロナウイルス感染症の影響について「良い影響を感じる」と回答した人は、すべての分野別実感で「感じる」と回答した割合が高くなりました。

また、「良くない影響を感じる」と回答した人は、3分野別実感で「感じない」と回答した割合が最も高くなる一方で、それ以外の10分野では分野別実感を「感じる」と回答した割合が最も高くなりました。

- 「新型コロナウイルス感染症の影響」別に「分野別実感」の平均値を比較したところ、全ての分野で、「良い影響を感じる」の回答者は「どちらともいえない+影響を感じない」の回答者よりも「分野別実感」が有意に高くなりました。

また、「良くない影響を感じる」の回答者と「どちらともいえない+影響を感じない」の回答者の「分野別実感」の平均値を比較したところ、平均値が有意に低くなったのは9分野であり、「分野別実感」の平均値が有意に高くなったのは2分野、有意な差が確認できない分野は1分野でした。

- 以上の分析結果から、「新型コロナウイルス感染症の影響」と「分野別実感」の関係については、12分野で一律の傾向を確認することはできませんでしたが、分野によっては一定の相互関係（新型コロナウイルス感染症の影響について良い影響を感じる人ほど分野別実感が高く、良くない影響を感じる人ほど分野別実感が低いなど）が確認できましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大前との「分野別実感」の変動において実感が低下した1分野には、「新型コロナウイルス感染症の影響」との相互関係は見られませんでした。

このことから、「新型コロナウイルス感染症の影響」が「分野別実感」に一定程度影響を与えたと推測されるものの、明確な関連性を確認することはできませんでした。

5 分析結果

(1) 分野別実感に係る令和2年調査との比較

表C 【県民意識調査】分野別実感の時系列分析結果（R2年比較）

政策分野	分野別実感	平均値の推移		
		R2 (コロナの影響前)	R3	R4 (当該年度)
I 健康・余暇	(1) 心身の健康	3.15	3.07 ↓ (Δ0.08)	3.20 - (0.05)
	(2) 余暇の充実	2.93	2.97 - (0.04)	2.96 - (0.02)
II 家族・子育て	(3) 家族関係	3.86	3.85 - (Δ0.01)	3.91 - (0.04)
	(4) 子育て	3.07	3.16 ↑ (0.09)	3.16 ↑ (0.09)
III 教育	(5) 子どもの教育	3.09	3.20 ↑ (0.11)	3.18 ↑ (0.09)
IV 居住環境・コミュニティ	(6) 住まいの快適さ	3.29	3.31 - (0.02)	3.31 - (0.01)
	(7) 地域社会とのつながり	3.16	3.09 ↓ (Δ0.06)	3.10 ↓ (Δ0.06)
V 安全	(8) 地域の安全	3.66	3.76 ↑ (0.10)	3.72 ↑ (0.06)
VI 仕事・収入	(9) 仕事のやりがい	3.38	3.49 ↑ (0.11)	3.41 - (0.03)
	(10) 必要な収入や所得	2.56	2.77 ↑ (0.21)	2.57 - (0.01)
VII 歴史・文化	(11) 歴史・文化への誇り	3.25	3.18 ↓ (Δ0.08)	3.27 - (0.02)
VIII 自然環境	(12) 自然のゆたかさ	4.16	4.18 - (0.02)	4.23 ↑ (0.07)

※ 令和2年調査と令和4年調査を比べて、実感が上昇したところを□、低下したところを□で網掛けした。

※ 小数点以下については四捨五入しているため、R2年と対象年の差（ ）が合わないことがあります。

(2) 分野別実感と影響実感のクロス集計

表D-1 分野別実感と新型コロナウイルス感染症の影響実感（心身の健康）

		新型コロナウイルス感染症の影響実感					合計
		良い影響を感じる	どちらともいえない	良くない影響を感じる	影響を感じない	不明	
分野別実感	感じる+	361	309	500	187	131	1,488
	やや感じる	(78.1%)	(34.3%)	(40.6%)	(47.6%)	(38.9%)	(44.8%)
	どちらともいえない	52	327	270	73	71	793
		(11.3%)	(36.3%)	(21.9%)	(18.6%)	(21.1%)	(23.9%)
	あまり感じない+	44	251	446	121	95	957
	感じない	(9.5%)	(27.9%)	(36.2%)	(30.8%)	(28.2%)	(28.8%)
分からない	1	7	7	10	4	29	
	(0.2%)	(0.8%)	(0.6%)	(2.5%)	(1.2%)	(0.9%)	
不明	4	7	8	2	36	57	
	(0.9%)	(0.8%)	(0.6%)	(0.5%)	(10.7%)	(1.7%)	
合計		462	901	1231	393	337	3,324
		(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)

※小数点第1位未満四捨五入の関係から、割合の計が100%にならない場合がある。以下、表D-12まで同様とする。

表D-1-1 分野別実感と新型コロナウイルス感染症の影響実感（からだの健康）

		新型コロナウイルス感染症の影響実感					合計
		良い影響を感じる	どちらともいえない	良くない影響を感じる	影響を感じない	不明	
分野別実感	感じる+	390	357	433	225	83	1,488
	やや感じる	(77.7%)	(35.8%)	(38.3%)	(47.8%)	(37.1%)	(44.8%)
	どちらともいえない	57	352	242	91	51	793
		(11.4%)	(35.3%)	(21.4%)	(19.3%)	(22.8%)	(23.9%)
	あまり感じない+	53	276	441	144	43	957
	感じない	(10.6%)	(27.7%)	(39.0%)	(30.6%)	(19.2%)	(28.8%)
分からない	0	8	6	10	5	29	
	(0.0%)	(0.8%)	(0.5%)	(2.1%)	(2.2%)	(0.9%)	
不明	2	3	9	1	42	57	
	(0.4%)	(0.3%)	(0.8%)	(0.2%)	(18.8%)	(1.7%)	
合計		502	996	1,131	471	224	3,324
		(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)

表D-1-2 分野別実感と新型コロナウイルス感染症の影響実感（こころの健康）

		新型コロナウイルス感染症の影響実感					合計
		良い影響を感じる	どちらともいえない	良くない影響を感じる	影響を感じない	不明	
分野別実感	感じる+	341	326	547	190	84	1,488
	やや感じる	(77.1%)	(37.8%)	(38.8%)	(48.7%)	(38.5%)	(44.8%)
	どちらともいえない	55	295	323	71	49	793
		(12.4%)	(34.2%)	(22.9%)	(18.2%)	(22.5%)	(23.9%)
	あまり感じない+	43	227	526	118	43	957
	感じない	(9.7%)	(26.3%)	(37.3%)	(30.3%)	(19.7%)	(28.8%)
分からない	1	7	6	10	5	29	
	(0.2%)	(0.8%)	(0.4%)	(2.6%)	(2.3%)	(0.9%)	
不明	2	8	9	1	37	57	
	(0.5%)	(0.9%)	(0.6%)	(0.3%)	(17.0%)	(1.7%)	
合計		442	863	1,411	390	218	3,324
		(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)

表D-2 分野別実感と新型コロナウイルス感染症の影響実感（余暇の充実）

		新型コロナウイルス感染症の影響実感					合計
		良い影響を感じる	どちらともいえない	良くない影響を感じる	影響を感じない	不明	
分野別実感	感じる+	336	226	432	106	65	1,165
	やや感じる	(71.6%)	(26.0%)	(30.7%)	(30.6%)	(28.0%)	(35.0%)
	どちらともいえない	82	326	280	77	48	813
		(17.5%)	(37.5%)	(19.9%)	(22.3%)	(20.7%)	(24.5%)
	あまり感じない+	45	296	676	135	49	1,201
	感じない	(9.6%)	(34.0%)	(48.0%)	(39.0%)	(21.1%)	(36.1%)
分からない	1	12	9	24	16	62	
	(0.2%)	(1.4%)	(0.6%)	(6.9%)	(6.9%)	(1.9%)	
不明	5	10	10	4	54	83	
	(1.1%)	(1.1%)	(0.7%)	(1.2%)	(23.3%)	(2.5%)	
合計		469	870	1,407	346	232	3,324
		(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)

表D-3 分野別実感と新型コロナウイルス感染症の影響実感（家族関係）

		新型コロナウイルス感染症の影響実感					合計
		良い影響を感じる	どちらともいえない	良くない影響を感じる	影響を感じない	不明	
分野別実感	感じる+	743	639	403	395	113	2,293
	やや感じる	(91.6%)	(60.1%)	(58.7%)	(70.2%)	(56.2%)	(69.0%)
	どちらともいえない	43	294	117	86	26	566
		(5.3%)	(27.7%)	(17.1%)	(15.3%)	(12.9%)	(17.0%)
	あまり感じない+	12	113	150	47	13	335
	感じない	(1.5%)	(10.6%)	(21.9%)	(8.3%)	(6.5%)	(10.1%)
	1	13	7	31	8	60	
	(0.1%)	(1.2%)	(1.0%)	(5.5%)	(4.0%)	(1.8%)	
	12	4	9	4	41	70	
	(1.5%)	(0.4%)	(1.3%)	(0.7%)	(20.4%)	(2.1%)	
合計		811	1063	686	563	201	3,324
		(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)

表D-4 分野別実感と新型コロナウイルス感染症の影響実感（子育て）

		新型コロナウイルス感染症の影響実感					合計
		良い影響を感じる	どちらともいえない	良くない影響を感じる	影響を感じない	不明	
分野別実感	感じる+	251	201	234	188	85	959
	やや感じる	(69.9%)	(24.2%)	(29.5%)	(18.5%)	(26.0%)	(28.9%)
	どちらともいえない	69	349	222	252	68	960
		(19.2%)	(42.1%)	(28.0%)	(24.8%)	(20.8%)	(28.9%)
	あまり感じない+	28	170	262	123	26	609
	感じない	(7.8%)	(20.5%)	(33.1%)	(12.1%)	(8.0%)	(18.3%)
	6	107	67	438	60	678	
	(1.7%)	(12.9%)	(8.5%)	(43.1%)	(18.3%)	(20.4%)	
	5	2	7	16	88	118	
	(1.4%)	(0.2%)	(0.9%)	(1.6%)	(26.9%)	(3.5%)	
合計		359	829	792	1,017	327	3,324
		(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)

表D-5 分野別実感と新型コロナウイルス感染症の影響実感（子どもの教育）

		新型コロナウイルス感染症の影響実感					合計
		良い影響を感じる	どちらともいえない	良くない影響を感じる	影響を感じない	不明	
分野別実感	感じる+	216	197	270	169	82	934
	やや感じる	(69.5%)	(24.1%)	(30.8%)	(17.1%)	(24.7%)	(28.1%)
	どちらともいえない	65	361	276	242	66	1,010
		(20.9%)	(44.2%)	(31.4%)	(24.5%)	(19.9%)	(30.4%)
	あまり感じない+	22	137	237	123	33	552
	感じない	(7.1%)	(16.8%)	(27.0%)	(12.5%)	(9.9%)	(16.6%)
	5	119	88	440	61	713	
	(1.6%)	(14.6%)	(10.0%)	(44.6%)	(18.4%)	(21.5%)	
	3	2	7	13	90	115	
	(1.0%)	(0.2%)	(0.8%)	(1.3%)	(27.1%)	(3.5%)	
合計		311	816	878	987	332	3,324
		(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)

表D-6 分野別実感と新型コロナウイルス感染症の影響実感（住まいの快適さ）

		新型コロナウイルス感染症の影響実感					合計
		良い影響を感じる	どちらともいえない	良くない影響を感じる	影響を感じない	不明	
分野別実感	感じる+	535	409	200	376	86	1,606
	やや感じる	(80.6%)	(37.7%)	(29.5%)	(55.2%)	(40.0%)	(48.3%)
	どちらともいえない	84	402	153	129	43	811
		(12.7%)	(37.1%)	(22.5%)	(18.9%)	(20.0%)	(24.4%)
	あまり感じない+	39	260	311	161	29	800
	感じない	(5.9%)	(24.0%)	(45.8%)	(23.6%)	(13.5%)	(24.1%)
	0	7	9	12	8	36	
	(0.0%)	(0.6%)	(1.3%)	(1.8%)	(3.7%)	(1.1%)	
	6	7	6	3	49	71	
	(0.9%)	(0.6%)	(0.9%)	(0.4%)	(22.8%)	(2.1%)	
合計		664	1,085	679	681	215	3,324
		(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)

表D-7 分野別実感と新型コロナウイルス感染症の影響実感（地域社会とのつながり）

		新型コロナウイルス感染症の影響実感					合計
		良い影響を感じる	どちらともいえない	良くない影響を感じる	影響を感じない	不明	
分野別実感	感じる+	310	326	421	129	67	1,253
	やや感じる	(72.3%)	(30.3%)	(37.9%)	(26.0%)	(31.6%)	(37.7%)
	どちらともいえない	82	416	273	128	53	952
		(19.1%)	(38.7%)	(24.6%)	(25.8%)	(25.0%)	(28.6%)
	あまり感じない+	29	291	382	201	27	930
	感じない	(6.8%)	(27.0%)	(34.4%)	(40.4%)	(12.7%)	(28.0%)
分からない	2	38	19	37	15	111	
	(0.5%)	(3.5%)	(1.7%)	(7.4%)	(7.1%)	(3.3%)	
不明	6	5	15	2	50	78	
	(1.4%)	(0.5%)	(1.4%)	(0.4%)	(23.6%)	(2.3%)	
合計		429	1,076	1,110	497	212	3,324
		(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)

表D-8 分野別実感と新型コロナウイルス感染症の影響実感（地域の安全）

		新型コロナウイルス感染症の影響実感					合計
		良い影響を感じる	どちらともいえない	良くない影響を感じる	影響を感じない	不明	
分野別実感	感じる+	559	642	361	424	103	2,089
	やや感じる	(85.5%)	(54.5%)	(54.5%)	(67.7%)	(50.2%)	(62.8%)
	どちらともいえない	66	381	161	114	25	747
		(10.1%)	(32.4%)	(24.3%)	(18.2%)	(12.2%)	(22.5%)
	あまり感じない+	21	125	122	61	17	346
	感じない	(3.2%)	(10.6%)	(18.4%)	(9.7%)	(8.3%)	(10.4%)
分からない	1	24	10	23	11	69	
	(0.2%)	(2.0%)	(1.5%)	(3.7%)	(5.4%)	(2.1%)	
不明	7	5	8	4	49	73	
	(1.1%)	(0.4%)	(1.2%)	(0.6%)	(23.9%)	(2.2%)	
合計		654	1,177	662	626	205	3,324
		(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)

表D-9 分野別実感と新型コロナウイルス感染症の影響実感（仕事のやりがい）

		新型コロナウイルス感染症の影響実感					合計
		良い影響を感じる	どちらともいえない	良くない影響を感じる	影響を感じない	不明	
分野別実感	感じる+	371	387	367	239	61	1,425
	やや感じる	(90.9%)	(38.6%)	(42.5%)	(30.2%)	(23.6%)	(42.9%)
	どちらともいえない	23	387	192	165	45	812
		(5.6%)	(38.6%)	(22.2%)	(20.9%)	(17.4%)	(24.4%)
	あまり感じない+	7	143	253	114	24	541
	感じない	(1.7%)	(14.3%)	(29.3%)	(14.4%)	(9.3%)	(16.3%)
	2	77	43	258	46	426	
	(0.5%)	(7.7%)	(5.0%)	(32.6%)	(17.8%)	(12.8%)	
	5	9	9	15	82	120	
	(1.2%)	(0.9%)	(1.0%)	(1.9%)	(31.8%)	(3.6%)	
合計		408	1,003	864	791	258	3,324
		(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)

表D-10 分野別実感と新型コロナウイルス感染症の影響実感（必要な収入や所得）

		新型コロナウイルス感染症の影響実感					合計
		良い影響を感じる	どちらともいえない	良くない影響を感じる	影響を感じない	不明	
分野別実感	感じる+	193	212	136	255	38	834
	やや感じる	(69.9%)	(23.8%)	(11.2%)	(35.6%)	(17.1%)	(25.1%)
	どちらともいえない	37	352	171	125	38	723
		(13.4%)	(39.5%)	(14.1%)	(17.4%)	(17.1%)	(21.8%)
	あまり感じない+	37	288	874	261	70	1,530
	感じない	(13.4%)	(32.3%)	(71.8%)	(36.4%)	(31.5%)	(46.0%)
	5	32	23	69	19	148	
	(1.8%)	(3.6%)	(1.9%)	(9.6%)	(8.6%)	(4.5%)	
	4	8	13	7	57	89	
	(1.4%)	(0.9%)	(1.1%)	(1.0%)	(25.7%)	(2.7%)	
合計		276	892	1,217	717	222	3,324
		(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)

表D-11 分野別実感と新型コロナウイルス感染症の影響実感（歴史・文化への誇り）

		新型コロナウイルス感染症の影響実感					合計
		良い影響を感じる	どちらともいえない	良くない影響を感じる	影響を感じない	不明	
分野別実感	感じる+	239	406	201	366	51	1,263
	やや感じる	(78.6%)	(32.9%)	(44.5%)	(32.9%)	(22.9%)	(38.0%)
	どちらともいえない	50	532	126	318	53	1,079
		(16.4%)	(43.1%)	(27.9%)	(28.6%)	(23.8%)	(32.5%)
	あまり感じない+	13	206	103	283	27	632
	感じない	(4.3%)	(16.7%)	(22.8%)	(25.5%)	(12.1%)	(19.0%)
分からない	1	81	17	136	32	267	
	(0.3%)	(6.6%)	(3.8%)	(12.2%)	(14.3%)	(8.0%)	
不明	1	9	5	8	60	83	
	(0.3%)	(0.7%)	(1.1%)	(0.7%)	(26.9%)	(2.5%)	
合計		304	1,234	452	1,111	223	3,324
		(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)

表D-12 分野別実感と新型コロナウイルス感染症の影響実感（自然のゆたかさ）

		新型コロナウイルス感染症の影響実感					合計
		良い影響を感じる	どちらともいえない	良くない影響を感じる	影響を感じない	不明	
分野別実感	感じる+	780	727	163	907	126	2,703
	やや感じる	(94.1%)	(74.4%)	(66.5%)	(85.2%)	(60.3%)	(81.3%)
	どちらともいえない	34	196	45	87	20	382
		(4.1%)	(20.1%)	(18.4%)	(8.2%)	(9.6%)	(11.5%)
	あまり感じない+	11	42	30	45	10	138
	感じない	(1.3%)	(4.3%)	(12.2%)	(4.2%)	(4.8%)	(4.2%)
分からない	1	7	5	21	9	43	
	(0.1%)	(0.7%)	(2.0%)	(2.0%)	(4.3%)	(1.3%)	
不明	3	5	2	4	44	58	
	(0.4%)	(0.5%)	(0.8%)	(0.4%)	(21.1%)	(1.7%)	
合計		829	977	245	1,064	209	3,324
		(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)

(3) 新型コロナウイルス感染症の影響実感の違いによる分野別実感平均値の差 (t 検定)

表 E 影響実感の内容別の実感平均値とその差

政策分野	分野別実感	実感平均値の差		
		どちらともいえない +影響を感じない	良い影響 を感じる	良くない影響 を感じる
I 健康・余暇	(1) 心身の健康	3.12	3.97	3.02
			↑ (0.85)	↓ (Δ0.10)
	(2) 余暇の充実	2.86	3.84	2.73
			↑ (0.98)	↓ (Δ0.13)
II 家族・子育て	(3) 家族関係	3.81	4.41	3.51
			↑ (0.60)	↓ (Δ0.30)
	(4) 子育て	3.07	3.86	2.92
			↑ (0.80)	↓ (Δ0.15)
III 教育	(5) 子どもの教育	3.10	3.83	3.02
			↑ (0.74)	- (Δ0.07)
IV 居住環境・コミュニティ	(6) 住まいの快適さ	3.26	4.04	2.67
			↑ (0.78)	↓ (Δ0.58)
	(7) 地域社会とのつながり	2.91	3.91	3.00
			↑ (0.99)	↑ (0.09)
V 安全	(8) 地域の安全	3.65	4.16	3.46
			↑ (0.51)	↓ (Δ0.19)
VI 仕事・収入	(9) 仕事のやりがい	3.31	4.33	3.15
			↑ (1.03)	↓ (Δ0.16)
	(10) 必要な収入や所得	2.84	3.81	1.96
			↑ (0.96)	↓ (Δ0.88)
VII 歴史・文化	(11) 歴史・文化への誇り	3.15	4.12	3.28
			↑ (0.96)	↑ (0.12)
VIII 自然環境	(12) 自然のゆたかさ	4.17	4.48	3.84
			↑ (0.30)	↓ (Δ0.33)

※1 「-」はt検定の結果、5%水準で有意な差が確認されなかったもの

※2 「どちらともいえない+影響を感じない」に比べて、「良い影響を感じる」又は「良くない影響を感じる」の実感が高いところを□、低いところを■で網掛けした。

【追加分析 2】

県民の幸福感の推移に係る分析

県では、第1期アクションプランである「政策推進プラン（2019年度～2022年度）」により、「いわて県民計画（2019～2028）」長期ビジョン第5章に掲げる、県民一人ひとりがお互いに支え合いながら、幸福を追求していくことができる地域社会を実現していくための取組を推進しており、そうした取組の進捗状況を把握するため、県内在住の5,000人を対象として毎年1月に実施している県民意識調査により、幸福に関する実感について平成28年から把握しています。

幸福に関する実感である主観的幸福感は、その調査において「幸福だと感じている」から「幸福だと感じていない」までの5段階の選択肢で把握しており、分析に当たっては、その選択肢に応じて5点から1点を配点することで算出される平均値により、推移を把握してきました。

また、主観的幸福感に関連する12の幸福領域に関する実感（分野別実感）についても、同様に把握を行ってきました。

そこで、第2期アクションプランの策定に当たり、これらの幸福に関する実感の推移について、調査開始から第1期アクションプランが始まる直前である平成31年までの4年間と、第1期アクションプランの期間中の状況に係る分析を行い、その推移を整理しました。

1 分析対象

(1) 県民意識調査の概要

- ① 調査名称 県の施策に関する県民意識調査
- ② 調査対象 県内に居住する18歳以上の男女
（平成28年までは20歳以上、平成29年からは18歳以上）
- ③ 対象者数 5,000人
- ④ 抽出方法 選挙人名簿からの層化二段無作為抽出
- ⑤ 調査方法 設問票によるアンケート調査（郵送法）
- ⑦ 調査時期 毎年1～2月
- ⑧ 回収率 H28年 71.5%（3,576/5,000人）、H29年 68.4%（3,422/5,000人）
H30年 65.2%（3,260/5,000人）、H31年 66.5%（3,327/5,000人）
R2年 67.7%（3,387/5,000人）、R3年 71.0%（3,549/5,000人）
R4年 66.5%（3,324/5,000人）

※ 県民意識調査では、幸福に関連する各種実感を平成28年調査から把握している。

(2) 設問項目の概要

① 主観的幸福感

ア 設問

「あなたは現在、どの程度幸福だと感じていますか」

イ 選択肢

「幸福だと感じている」、「やや幸福だと感じている」、「どちらともいえない」、「あまり幸福だと感じていない」、「幸福だと感じていない」、「わからない」

② 幸福に関連する分野の実感

ア 設問

政策分野	分野別実感	設問
Ⅰ 健康・余暇	心身の健康	こころやからだ健康だと感じますか
	余暇の充実	余暇が充実していると感じますか
Ⅱ 家族・子育て	家族関係	家族と良い関係が取れていると感じますか
	子育て	子育てがしやすいと感じますか
Ⅲ 教育	子どもの教育	子どものためになる教育が行われていると感じますか
Ⅳ 居住環境・コミュニティ	住まいの快適さ	住まいに快適さを感じますか
	地域社会とのつながり	地域社会とのつながりを感じますか
Ⅴ 安全	地域の安全	お住まいの地域が安全だと感じますか
Ⅵ 仕事・収入	仕事のやりがい	仕事にやりがいを感じますか
	必要な収入や所得	必要な収入や所得が得られていると感じますか
Ⅶ 歴史・文化	歴史・文化への誇り	地域の歴史や文化に誇りを感じますか
Ⅷ 自然環境	自然のゆたかさ	自然に恵まれていると感じますか

イ 選択肢

「感じる」、「やや感じる」、「どちらともいえない」、「あまり感じない」、「感じない」、「わからない」

2 分析方針

県民意識調査で把握している県民の幸福に関連する様々な実感について、新たなアクションプラン策定の検討の参考とすることを目的に、主観的幸福感と分野別実感を、以下の視点、方法で整理しました。

【県民意識調査の分析方針】

1 分析の視点

(1) 調査結果の時系列分析

県民意識の変化の状況を把握するため、第1期アクションプランが始まる直前まで（平成28年～平成31年）と第1期アクションプラン中（平成31年～令和4年）の調査結果の時系列変化の有無を分析

2 分析データ

以下のとおり、当分析部会の分析データと公表データは処理方法が異なるため、既に公表されている県民意識調査結果と数値が異なる場合があります。

(1) 単純集計を採用

別途公表している県民意識調査結果（以下「公表データ」という。）は、回答者数の地域差を考慮し、各回答に居住人口に応じた係数を乗じて集計（以下「母集団拡大集計」という。）していますが、分析を適切に行うため、母集団拡大集計は行わず、単純集計結果を用いました。

(2) 「わからない」、「未回答」を除外して集計

公表データは、「わからない」、「未回答」（以下「未回答等」という。）を含めて集計していますが、調査年によって未回答等の回答割合が大きく変動している設問があることから、適切な時系列分析のため、未回答等を除外して集計しました。

(3) 回答結果に1点から5点を配点して集計

公表データは、「感じる」と「やや感じる」の回答者を足し合わせた割合を使用していますが、5段階評価の回答結果を適切に分析に反映させるため、回答結果に以下のとおり配点した結果の平均値を使用しました。

(配点)

・感じている（幸福である）	5点	・あまり感じない（あまり幸福ではない）	2点
・やや感じている（やや幸福）	4点	・感じない（幸福ではない）	1点
・どちらでもない	3点		

3 分析方法

(1) 計画期間前・計画期間中のトレンドの変化は、t検定を用いた多重比較で検証

計画期間前・計画期間中のトレンドの変化については、これらの期間についてt検定を行い、重複するものを除く6個の検定（計画期間前にあつては、H29-H28、H30-H29、H31-H30、H30-H28、H31-H28、H31-H29計画期間中にあつては、R2-H31、R3-R2、R4-R3、R3-H31、R4-H31、R4-R2）の有意確率を調整して、有意な差があると判断したものから、計画期間中のトレンドの変化を推測しました。

分析の手順は以下のとおりです。

- ・ 今回は6個の検定を行うにあたり、6個の有意確率を小さい順に並べる。
- ・ 有意確率が*i*番目に小さい検定に対しての有意水準を0.05（有意水準）/ $(6-i+1)$ とする。

$$0.05 \text{ (有意水準)} / 6 = 0.008333$$

$$0.05 \text{ (有意水準)} / 5 = 0.01$$

- 0.05 (有意水準) /4=0.0125
- 0.05 (有意水準) /3=0.016667
- 0.05 (有意水準) /2=0.25
- 0.05 (有意水準) /1=0.05

- ・ 有意確率が小さい順番から上記の有意水準で検定を行う。

なお、有意確率を調整しているのは、比較対象が3群以上存在し、帰無仮説^{※1}が複数個になると、有意水準^{※2}が5%よりも大きくなってしまいう問題が発生するためです。

例えば、実感平均値の差の検定として、H31、R2、R3の2標本t検定を行った場合、本来は5%の有意水準で検定されるものが、実質は9.8% ($1-0.95^2=0.098$) となってしまう、適切な検定を行うことができなくなるということが起こります。

そこで、検定を行うに当たっては、このようなことが起こらないように有意水準を調節する必要があります。

今回は、計画期間前及び計画期間中において、それぞれ前年比較、基準年比較、2年比較による6つの検定について基本的に分析を行います。(自然のゆたかさは基準年が異なるため、期間前は3つの検定で行っています。)

その場合の有意水準の調節は以下のとおりとなります。

- ※1 ある仮説が正しいかどうかの判断のために建てられる仮説。

例えば、H31-R2のt検定については、H31の実感平均値とR2の実感平均値には差がないという仮説を立てた場合、t検定を行った結果、有意確率が有意水準以下であれば、仮説が棄却され、H31の実感平均値とR2の実感平均値には差があったこととなります。

- ※2 ある仮説を棄却するかしないかを定める基準であり、一般的に有意水準5%を用います。

(2) 計画期間中における実感の推移や変化の要因について、補足調査の結果から推測

令和2年から実施している県民意識調査の変動要因を推測するために行っている補足調査の結果から、平成31年から令和4年の間が上昇又は低下の傾向にある場合について、本部会でこれまでに行った分析結果から要因を推測しました。

3 分析結果

3.1 主観的幸福感の推移

主観的幸福感の実感平均値の推移は以下のとおりです。

<第1期アクションプランが始まる直前（平成31年）までの状況>

- ・ 平成28年の主観的幸福感の平均値は、5点満点中3.44点であり、平成28年から平成31年までの間、前年に比べて有意に変化している年は確認できませんでした。
- ・ 平成28年と平成31年を比較しても、有意な変化は確認できませんでした。
- ・ 多重比較による検定を行った結果、有意な差が確認されなかったことから、主観的幸福感は概ね横ばいに推移していました。

<第1期アクションプラン期間中の状況>

- ・ 第1期アクションプランが始まる直前である平成31年の主観的幸福感の平均値は3.43点であり、平成31年から令和4年までの間、前年と比較して有意に変化している年は確認できませんでした。
- ・ 平成31年と令和3年を比較すると、有意に上昇していました。
- ・ 平成31年と令和4年を比較すると、有意に上昇していました。
- ・ 多重比較による検定を行った結果、この期間における実感は上昇傾向で推移しています。

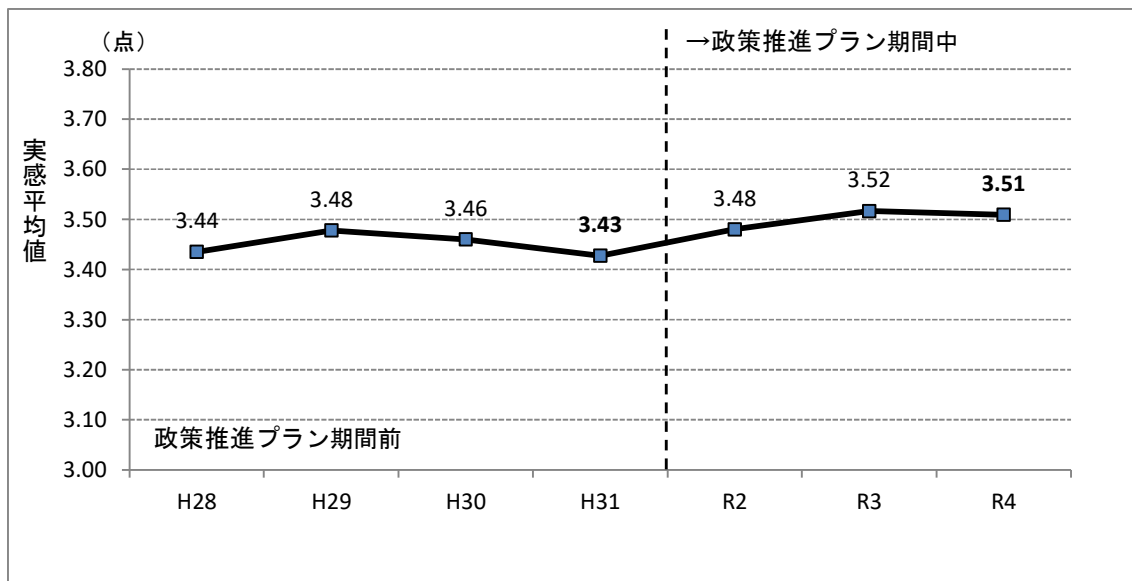


図1 主観的幸福感に係る実感の平均値の推移

また、「幸福と感じる（「幸福だと感じている」又は「やや幸福だと感じている」）」と回答した人と「幸福と感じない（「幸福だと感じていない」又は「あまり幸福だと感じていない」）」と回答した人の割合を見ると、「幸福と感じる」と回答した人は、平成28年の51.3%から平成30年には55.4%まで増加しましたが、平成31年には52.3%に低下しました。しかし、令和2年には56.2%に増加し、令和4年には56.6%となっています。

このような結果から、令和4年の「幸福と感じる」と回答した人の割合は、調査を始めた平成28年及び第1期アクションプランが始まる直前の平成31年と比べて、増加しています。（図2参照）

一方で、「幸福と感じない（「幸福だと感じていない」又は「あまり幸福だと感じていない」）」と回答した人の割合は、平成28年の18.3%から平成30年までは概ね横ばいに推移していましたが、平成31年に19.3%に増加しました。以降、令和3年（16.1%）までは減

少傾向にありましたが、令和4年には再度上昇に転じ、17.8%となっています。

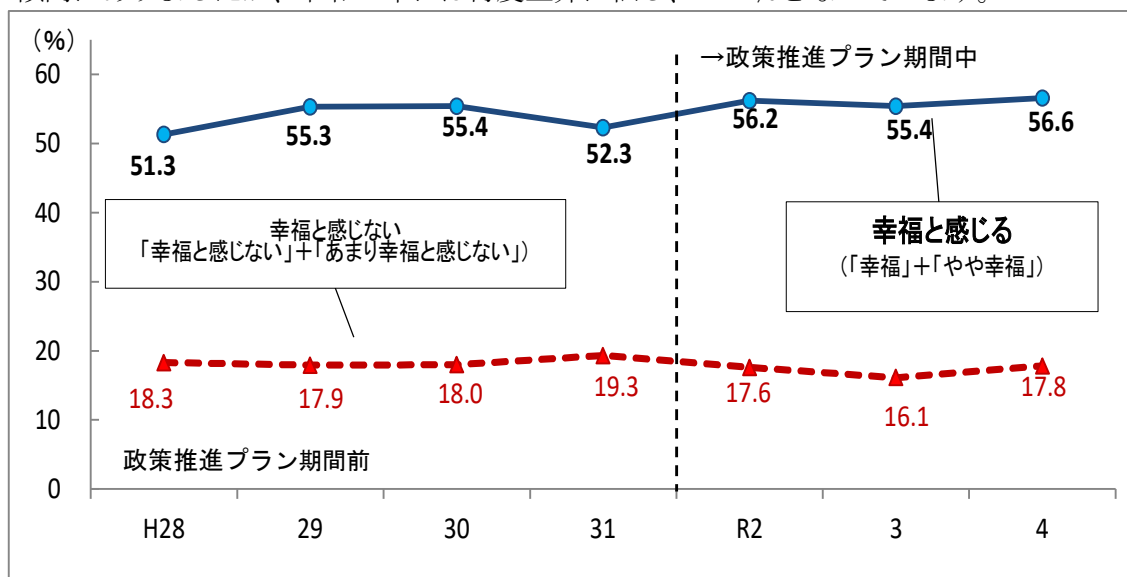


図2 主観的幸福感に係る実感の割合の推移

また、幸福を判断する際に重視した項目に係る順位の推移を見てみると、一貫して「健康の状況」と「家族関係」が上位を占めており、上位5位までの状況を見ても多少の入れ替わりはあるものの、同じ内容で推移しています。

表α 県民意識調査における幸福を判断する際に重視した事項に係る順位の推移（上位5位）

	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年	令和2年	令和3年	令和4年
1位	健康の状況	健康の状況	健康の状況	健康の状況	健康の状況	健康の状況	健康の状況
2位	家族関係	家族関係	家族関係	家族関係	家族関係	家族関係	家族関係
3位	家計の状況	家計の状況	家計の状況	家計の状況	居住環境	自由な時間・充実した余暇	居住環境
4位	居住環境	自由な時間・充実した余暇	自由な時間・充実した余暇	自由な時間・充実した余暇	自由な時間・充実した余暇	居住環境	自由な時間・充実した余暇
5位	自由な時間・充実した余暇	居住環境	居住環境	居住環境	家計の状況	家計の状況	家計の状況

3.2 分野別実感の分析結果

主観的幸福感に関連する領域である 12 の分野別実感の動向については、次のとおりです。

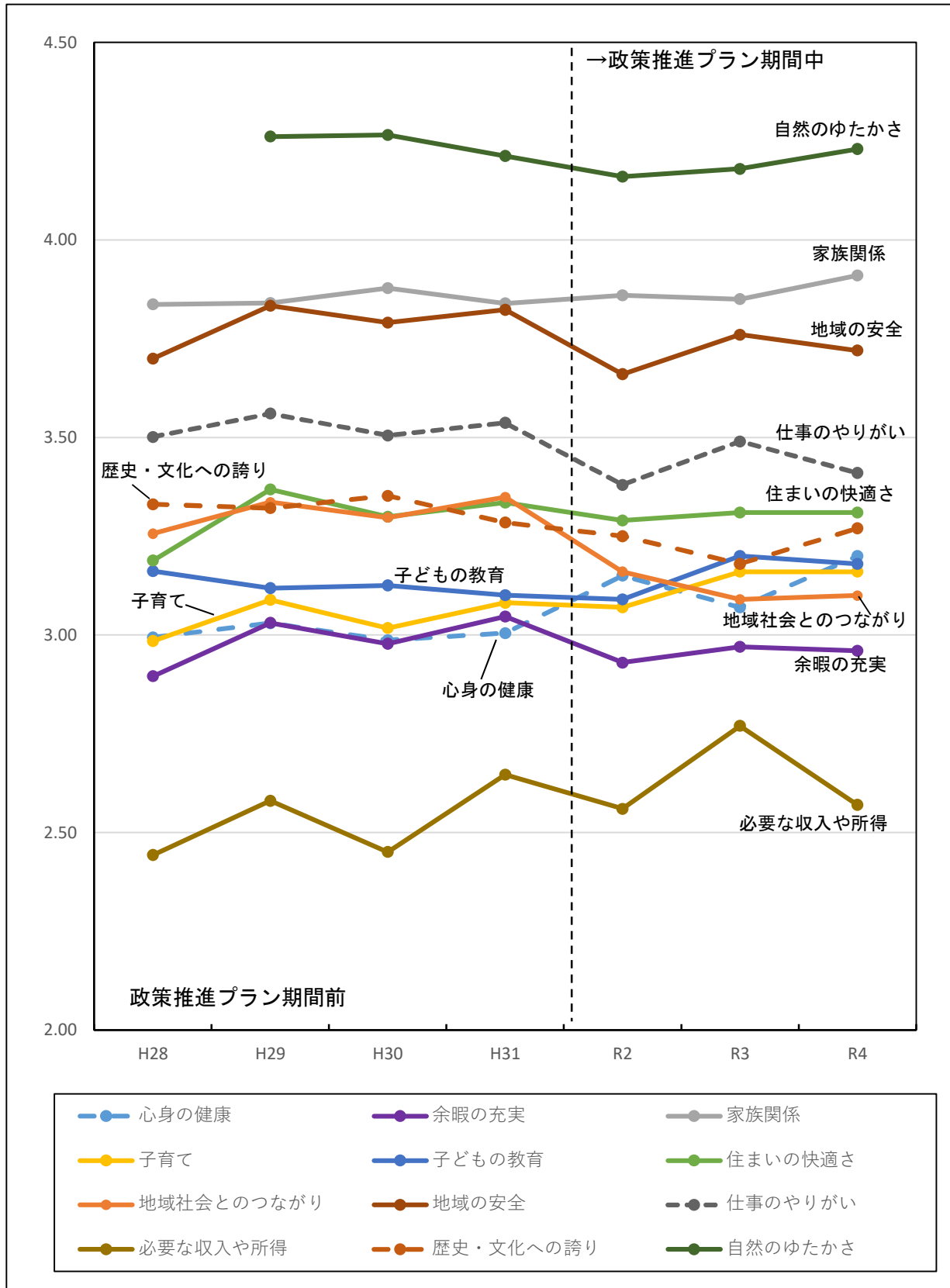


図3 分野別実感平均値の推移

(1) I 健康・余暇分野「心身の健康」の実感

＜第1期アクションプランが始まる直前（平成31年）までの状況＞

平成28年の実感平均値は、5点満点中2.99点であり、多重比較による検定を行った結果、有意な差が確認されなかったことから、この期間における当該分野別実感は、概ね横ばいに推移していました。

＜第1期アクションプラン期間中の状況＞

平成31年の実感平均値は、5点満点中3.00点であり、多重比較による検定を行った結果、以下のとおりとなりました。

- ・ 平成31年と令和2年、令和3年、令和4年をそれぞれ比較すると全て有意に上昇し、令和2年と令和3年を比較すると有意に低下し、令和3年から令和4年で有意に上昇していました。
- ・ この期間における当該分野別実感は上昇傾向にありました。
- ・ その要因としては、補足調査の結果から、睡眠・休養・しごと・学業・運動などの暮らしの時間配分（ワークライフバランス）が良くなっていることなどが考えられます。

(2) I 健康・余暇分野「余暇の充実」の実感

＜第1期アクションプランが始まる直前（平成31年）までの状況＞

平成28年の実感平均値は、5点満点中2.90点であり、多重比較による検定を行った結果、以下のとおりとなりました。

- ・ 平成28年と平成29年、平成30年、平成31年をそれぞれ比較すると全て有意に上昇し、それ以外に有意な変化は見られませんでした。
- ・ この期間における当該分野別実感は、上昇傾向にありました。

＜第1期アクションプラン期間中の状況＞

平成31年の実感平均値は、5点満点中3.05点であり、多重比較による検定を行った結果、以下のとおりとなりました。

- ・ 平成31年と令和2年、令和3年、令和4年をそれぞれ比較すると全て有意に低下し、それ以外に有意な変化は見られませんでした。
- ・ この期間における当該分野別実感は低下傾向にありました。
- ・ その要因としては、補足調査の結果から、知人・友人との交流や趣味・娯楽の機会・場所の減少などが考えられます。

(3) II 家族・子育て分野「家族関係」の実感

＜第1期アクションプランが始まる直前（平成31年）までの状況＞

平成28年の実感平均値は、5点満点中3.84点であり、多重比較による検定を行った結果、有意な差が確認されなかったことから、この期間における概ね横ばいに推移していました。

＜第1期アクションプラン期間中の状況＞

平成31年の実感平均値は、5点満点中3.84点であり、多重比較による検定を行った結果、有意な差が確認されなかったことから、この期間における当該分野別実感概ね横ばいに推移していました。

(4) II 家族・子育て分野「子育て」の実感

＜第1期アクションプランが始まる直前（平成31年）までの状況＞

平成28年の実感平均値は、5点満点中2.98点であり、多重比較による検定を行った結果、以下のとおりとなりました。

- ・ 平成28年と平成29年、平成30年を比較すると全て有意に上昇し、それ以外に有意な変化はみられませんでした。
- ・ この期間における当該分野別実感は上昇傾向にありました。

＜第1期アクションプラン期間中の状況＞

平成31年の実感平均値は、5点満点中3.08点であり、多重比較による検定を行った結果、以下のとおりとなりました。

- ・ 平成31年と令和3年、令和4年をそれぞれ比較すると全て有意に上昇し、令和2年と令和3年、令和2年と令和4年を比較すると有意に上昇していました。
- ・ この期間における当該分野別実感は上昇傾向にありました。
- ・ その要因としては、補足調査の結果から、子どもを預けられる人・場所があるなどが考えられます。

(5) III 教育分野「子どもの教育」の実感

＜第1期アクションプランが始まる直前（平成31年）までの状況＞

平成28年の実感平均値は、5点満点中3.16点であり、多重比較による検定を行った結果、有意な差は確認されなかったことから、この期間における当該分野別実感概ね横ばいに推移していました。

＜第1期アクションプラン期間中の状況＞

平成31年の実感平均値は、5点満点中3.10点であり、多重比較による検定を行った結果、以下のとおりとなりました。

- ・ 平成31年と令和3年、令和4年をそれぞれ比較すると全て有意に上昇し、令和2年と令和3年、令和4年を比較すると有意に上昇していました。
- ・ この期間における当該分野別実感は上昇傾向にありました。
- ・ その要因としては、補足調査の結果から、人間性、社会性をはぐくむための教育内容の充実などが考えられます。

(6) IV 居住環境・コミュニティ分野「住まいの快適さ」の実感

＜第1期アクションプランが始まる直前（平成31年）までの状況＞

平成28年の実感平均値は、5点満点中3.19点であり、多重比較による検定を行った結果、以下のとおりとなりました。

- ・ 平成28年と平成29年、平成30年、平成31年を比較すると全て有意に上昇し、それ以外に有意な変化はみられませんでした。
- ・ この期間における当該分野別実感は上昇傾向にありました。

＜第1期アクションプラン期間中の状況＞

平成31年の実感平均値は、5点満点中3.34点であり、多重比較による検定を行った結果、有意な差が確認されなかったことから、この期間における当該分野別実感概ね横ばいで推移していました。

(7) IV居住環境・コミュニティ分野「地域社会とのつながり」の実感

＜第1期アクションプランが始まる直前（平成31年）までの状況＞

平成28年の実感平均値は、5点満点中3.26点であり、多重比較による検定を行った結果、以下のとおりでした。

- ・ 平成28年と平成29年、平成31年を比較すると全て有意に上昇し、それ以外に有意な変化はみられませんでした。
- ・ この期間における当該分野別実感は、上昇傾向にありました。

＜第1期アクションプラン期間中の状況＞

平成31年の実感平均値は、5点満点中3.35点であり、多重比較による検定を行った結果、以下のとおりでした。

- ・ 平成31年と令和2年、令和3年、令和4年を比較すると全て有意に低下し、それ以外に有意な変化はみられませんでした。
- ・ この期間における当該分野別実感は低下傾向にありました。
- ・ その要因としては、補足調査の結果から、隣近所との面識・交流や自治会・町内会活動への参加の減少などが考えられます。

(8) V安全分野「地域の安全」の実感

＜第1期アクションプランが始まる直前（平成31年）までの状況＞

平成28年の実感平均値は、5点満点中3.70点であり、多重比較による検定を行った結果、この期間における当該分野別実感は、上昇傾向にありました。

＜第1期アクションプラン期間中の状況＞

平成31年の実感平均値は、5点満点中3.82点であり、多重比較による検定を行った結果、以下のとおりでした。

- ・ 平成31年と令和2年、令和3年、令和4年と比較すると全て有意に低下し、令和2年と令和3年、令和4年を比較すると、どちらも有意に上昇していました。
- ・ この期間における当該分野別実感は低下傾向にありました。
- ・ その要因としては、補足調査の結果から、自然災害の発生が多く、被害も大きくなっていることなどが考えられます。

(9) VI仕事・収入分野「仕事のやりがい」の実感

＜第1期アクションプランが始まる直前（平成31年）までの状況＞

平成28年の実感平均値は、5点満点中3.50点であり、多重比較による検定を行った結果、有意な差は確認できなかったことから、この期間における当該分野別実感は、概ね横ばいに推移していました。

＜第1期アクションプラン期間中の状況＞

平成31年の実感平均値は、5点満点中3.54点であり、多重比較による検定を行った結果、以下のとおりでした。

- ・ 平成31年と令和2年、令和4年を比較すると、どちらも有意に低下し、令和2年と令和3年を比較すると有意に上昇していました。
- ・ この期間における当該分野別実感は低下傾向にありました。
- ・ その要因としては、補足調査の結果から、現在の収入や給料の額が十分とは言えないなどが考えられます。

(10) VI仕事・収入分野「必要な収入や所得」の実感

＜第1期アクションプランが始まる直前（平成31年）までの状況＞

平成28年の実感平均値は、5点満点中2.44点であり、多重比較による検定を行った結果、以下のとおりでした。

- ・ 平成28年と平成29年、平成31年を比較すると、どちらも有意に上昇し、平成29年と平成30年を比較すると有意に低下し、平成30年と平成31年を比較すると有意に上昇していました。
- ・ この期間における当該分野別実感は上昇と低下を繰り返していました。

＜第1期アクションプラン期間中の状況＞

平成31年の実感平均値は5点満点中2.65点であり、多重比較による検定を行った結果、以下のとおりでした。

- ・ 平成31年と令和2年、令和3年を比較すると、令和2年では有意に低下し、令和3年で有意に上昇していました。令和2年と令和3年を比較すると有意に上昇し、令和3年と令和4年を比較すると有意に低下していました。
- ・ この期間における当該分野別実感は上昇と低下を繰り返しておりました。
- ・ その要因としては、補足調査の結果から、令和2年から令和3年の間の上昇については、新型コロナウイルス感染症の影響に係る定額給付金等の影響が考えられ、その後の低下については、自分の収入・所得額が十分とは言えないことなどが考えられます。

(11) VII歴史・文化分野「歴史・文化への誇り」の実感

＜第1期アクションプランが始まる直前（平成31年）までの状況＞

平成28年の実感平均値は、5点満点中3.33点であり、多重比較による検定を行った結果、この期間における当該分野別実感は、概ね横ばいに推移していました。

＜第1期アクションプラン期間中の状況＞

平成31年の実感平均値は5点満点中3.28点であり、多重比較による検定を行った結果、以下のとおりでした。

- ・ 平成31年と令和3年を比較すると有意に低下し、令和2年と令和3年を比較すると新型コロナウイルス感染症の影響等により有意に低下し、令和3年と令和4年を比較すると有意に上昇していました。
- ・ この期間における当該分野別実感は、概ね横ばいで推移していました。

(12) VIII自然環境分野「自然のゆたかさ」の実感

＜第1期アクションプランが始まる直前（平成31年）までの状況＞

平成29年の実感平均値は、5点満点中4.26点であり、多重比較による検定を行った結果、以下のとおりでした。

- ・ 平成29年と平成31年を比較すると有意に低下していましたが、それ以外に有意な変化はみられませんでした。
- ・ この期間における当該分野別実感は概ね横ばいに推移していました。

＜第1期アクションプラン期間中の状況＞

平成31年の実感平均値は5点満点中4.21点であり、多重比較による検定を行った結果、以下のとおりでした。

- ・ 令和2年と令和4年を比較すると有意に上昇していましたが、それ以外に有意な変化はみられませんでした。
- ・ この期間における当該分野別実感は、概ね横ばいに推移していました。

表β 「県民意識調査」分野別実感の推移

政策分野	分野別実感	平均値の推移						
		H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4
主観的幸福感		3.44	3.48	3.46	3.43	3.48	3.52	3.51
Ⅰ健康・余暇	(1) 心身の健康	2.99	3.03	2.99	3.00	3.15	3.07	3.20
	(2) 余暇の充実	2.90	3.03	2.98	3.05	2.93	2.97	2.96
Ⅱ家族・子育て	(3) 家族関係	3.84	3.84	3.88	3.84	3.86	3.85	3.91
	(4) 子育て	2.98	3.09	3.02	3.08	3.07	3.16	3.16
Ⅲ教育	(5) 子どもの教育	3.16	3.12	3.13	3.10	3.09	3.20	3.18
Ⅳ居住環境・コミュニティ	(6) 住まいの快適さ	3.19	3.37	3.30	3.34	3.29	3.31	3.31
	(7) 地域社会とのつながり	3.26	3.34	3.30	3.35	3.16	3.09	3.10
Ⅴ安全	(8) 地域の安全	3.70	3.83	3.79	3.82	3.66	3.76	3.72
Ⅵ仕事・収入	(9) 仕事のやりがい	3.50	3.56	3.51	3.54	3.38	3.49	3.41
	(10) 必要な収入や所得	2.44	2.58	2.45	2.65	2.56	2.77	2.57
Ⅶ歴史・文化	(11) 歴史・文化への誇り	3.33	3.32	3.35	3.28	3.25	3.18	3.27
Ⅷ自然環境	(12) 自然のゆたかさ		4.26	4.27	4.21	4.16	4.18	4.23

表 δ-1-1 主観的幸福感の多重比較 (H28~H31)

	差	有意確率	有意水準
H31-H29	▲ 0.05	0.07	0.0083333
H29-H28	0.04	0.11	0.01
H31-H30	▲ 0.03	0.24	0.0125
H30-H28	0.02	0.36	0.0166667
H30-H29	▲ 0.02	0.51	0.025
H31-H28	▲ 0.01	0.77	0.05

表 δ-1-2 主観的幸福感の多重比較 (H31~R4)

	差	有意確率	有意水準
R3-H31	0.09	0.0010	0.0083333
R4-H31	0.08	0.0031	0.01
R2-H31	0.05	0.0607	0.0125
R3-R2	0.04	0.1561	0.0166667
R4-R2	0.03	0.2650	0.025
R4-R3	▲ 0.01	0.7777	0.05

表 δ-2-1 「心身の健康」の多重比較 (H28~H31)

	差	有意確率	有意水準
H30-H29	▲ 0.04	0.1599	0.0083333
H29-H28	0.04	0.2333	0.01
H31-H29	▲ 0.03	0.4083	0.0125
H31-H30	0.02	0.5716	0.0166667
H31-H28	0.01	0.7266	0.025
H30-H28	▲ 0.01	0.8251	0.05

表 δ-2-2 「心身の健康」の多重比較 (H31~R4)

	差	有意確率	有意水準
R4-H31	0.20	0.0000	0.0083333
R2-H31	0.15	0.0000	0.01
R4-R3	0.13	0.0000	0.0125
R3-R2	▲ 0.08	0.0093	0.0166667
R3-H31	0.07	0.0236	0.025
R4-R2	0.05	0.0932	0.05

δ-3-1 「余暇の充実」の多重比較 (H28~H31)

	差	有意確率	有意水準
H31-H28	0.15	0.00000	0.0083333
H29-H28	0.14	0.00001	0.01
H30-H28	0.08	0.00730	0.0125
H31-H30	0.07	0.02350	0.0166667
H31-H29	0.02	0.59077	0.025
H30-H29	▲ 0.05	0.07816	0.05

表 δ-3-2 「余暇の充実」の多重比較 (H31~R4)

	差	有意確率	有意水準
R2-H31	▲ 0.12	0.0001	0
R4-H31	▲ 0.09	0.0026	0
R3-H31	▲ 0.08	0.0083	0
R3-R2	0.04	0.2223	0
R4-R2	0.02	0.4112	0
R4-R3	▲ 0.01	0.6951	0

δ-4-1 「家族関係」の多重比較 (H28~H31)

	差	有意確率	有意水準
H30-H28	0.04	0.134	0.0083333
H31-H30	▲ 0.04	0.161	0.01
H30-H29	0.04	0.162	0.0125
H29-H28	0.00	0.895	0.0166667
H31-H28	0.00	0.926	0.025
H31-H29	▲ 0.00	0.970	0.05

表 δ-4-2 「家族関係」の多重比較 (H31~R4)

	差	有意確率	有意水準
R4-H31	0.07	0.0148	0.0083333
R4-R3	0.06	0.0344	0.01
R4-R2	0.04	0.1022	0.0125
R2-H31	0.02	0.4024	0.0166667
R3-R2	▲ 0.01	0.6386	0.025
R3-H31	0.01	0.7015	0.05

表 δ-5-1 「子育て」の多重比較 (H28~H31)

	差	有意確率	有意水準
H29-H28	0.10	0.001	0.0083333
H31-H28	0.10	0.003	0.01
H30-H29	▲ 0.07	0.021	0.0125
H31-H30	0.06	0.048	0.0166667
H30-H28	0.03	0.294	0.025
H31-H29	▲ 0.01	0.822	0.05

表 δ-5-2 「子育て」の多重比較 (H31~R4)

	差	有意確率	有意水準
R3-R2	0.09	0.0024	0.0083333
R4-R2	0.09	0.0027	0.01
R3-H31	0.08	0.0110	0.0125
R4-H31	0.08	0.0132	0.0166667
R2-H31	▲ 0.01	0.7349	0.025
R4-R3	▲ 0.00	0.8942	0.05

表 δ-6-1 「子どもの教育」の多重比較 (H28~H31)

	差	有意確率	有意水準
H31-H28	▲ 0.06	0.03	0.0083333
H29-H28	▲ 0.04	0.11	0.01
H30-H28	▲ 0.04	0.19	0.0125
H30-H29	0.01	0.80	0.0166667
H31-H30	▲ 0.02	0.40	0.025
H31-H29	▲ 0.02	0.54	0.05

表 δ-6-2 「子どもの教育」の多重比較 (H31~R4)

	差	有意確率	有意水準
R3-R2	0.11	0.0002	0.0083333
R3-H31	0.10	0.0006	0.01
R4-R2	0.09	0.0020	0.0125
R4-H31	0.08	0.0059	0.0166667
R4-R3	▲ 0.02	0.4880	0.025
R2-H31	▲ 0.01	0.7789	0.05

表 δ-7-1 「住まいの快適さ」の多重比較 (H28~H31)

	差	有意確率	有意水準
H29-H28	0.18	0.000000	0.0083333
H31-H28	0.15	0.000001	0.01
H30-H28	0.11	0.000222	0.0125
H30-H29	▲ 0.07	0.018134	0.0166667
H31-H30	0.04	0.230452	0.025
H31-H29	▲ 0.03	0.245229	0.05

表 δ-7-2 「住まいの快適さ」の多重比較 (H31~R4)

	差	有意確率	有意水準
R2-H31	▲ 0.04	0.18	0.0083333
R4-H31	▲ 0.03	0.36	0.01
R3-H31	▲ 0.02	0.42	0.0125
R3-R2	0.02	0.57	0.0166667
R4-R2	0.01	0.67	0.025
R4-R3	▲ 0.00	0.90	0.05

表 δ-8-1 「地域社会とのつながり」の多重比較 (H28~H31)

	差	有意確率	有意水準
H31-H28	0.09	0.001	0.0083333
H29-H28	0.08	0.004	0.01
H31-H30	0.05	0.065	0.0125
H30-H28	0.04	0.145	0.0166667
H30-H29	▲ 0.04	0.159	0.025
H31-H29	0.01	0.637	0.05

表 δ-8-2 「地域社会とのつながり」の多重比較 (H31~R4)

	差	有意確率	有意水準
R3-H31	▲ 0.25	0.0000	0.0083333
R4-H31	▲ 0.25	0.0000	0.01
R2-H31	▲ 0.19	0.0000	0.0125
R3-R2	▲ 0.06	0.0282	0.0166667
R4-R2	▲ 0.06	0.0399	0.025
R4-R3	0.00	0.9065	0.05

表 δ-9-1 「地域の安全」の多重比較 (H28~H31)

	差	有意確率	有意水準
H29-H28	0.13	0.000000	0.008333
H31-H28	0.12	0.000001	0.01
H30-H28	0.09	0.000400	0.0125
H30-H29	▲ 0.04	0.083655	0.016667
H31-H30	0.03	0.194475	0.025
H31-H29	▲ 0.01	0.678766	0.05

表 δ-9-2 「地域の安全」の多重比較 (H31~R4)

	差	有意確率	有意水準
R2-H31	▲ 0.16	0.0000	0.008333
R3-R2	0.10	0.0000	0.01
R4-H31	▲ 0.10	0.0001	0.0125
R4-R2	0.06	0.0132	0.016667
R3-H31	▲ 0.06	0.0150	0.025
R4-R3	▲ 0.04	0.0973	0.05

表 δ-10-1 「仕事のやりがい」の多重比較 (H28~H31)

	差	有意確率	有意水準
H29-H28	0.06	0.059	0.008333
H30-H29	▲ 0.06	0.081	0.01
H31-H28	0.04	0.266	0.0125
H31-H30	0.03	0.325	0.016667
H31-H29	▲ 0.02	0.467	0.025
H30-H28	0.00	0.909	0.05

表 δ-10-2 「仕事のやりがい」の多重比較 (H31~R4)

	差	有意確率	有意水準
R2-H31	▲ 0.16	0.0000	0.008333
R4-H31	▲ 0.12	0.0001	0.01
R3-R2	0.11	0.0006	0.0125
R4-R3	▲ 0.07	0.0187	0.016667
R3-H31	▲ 0.05	0.1158	0.025
R4-R2	0.03	0.2797	0.05

表 δ-11-1 「必要な収入や所得」の多重比較 (H28~H31)

	差	有意確率	有意水準
H31-H28	0.20	0.00000000	0.0083333
H31-H30	0.20	0.00000001	0.01
H29-H28	0.14	0.00002533	0.0125
H30-H29	▲ 0.13	0.00007793	0.0166667
H31-H29	0.07	0.05051029	0.025
H30-H28	0.01	0.82012116	0.05

表 δ-11-2 「必要な収入や所得」の多重比較 (H31~R4)

	差	有意確率	有意水準
R3-R2	0.21	0.000	0.0083333
R4-R3	▲ 0.20	0.000	0.01
R3-H31	0.13	0.000	0.0125
R2-H31	▲ 0.09	0.010	0.0166667
R4-H31	▲ 0.07	0.030	0.025
R4-R2	0.01	0.698	0.05

表 δ-12-1 「歴史・文化への誇り」の多重比較 (H28~H31)

	差	有意確率	有意水準
H31-H30	▲ 0.07	0.02	0.008333
H31-H28	▲ 0.05	0.10	0.01
H31-H29	▲ 0.04	0.19	0.0125
H30-H29	0.03	0.27	0.016667
H30-H28	0.02	0.45	0.025
H29-H28	▲ 0.01	0.72	0.05

表 δ-12-2 「歴史・文化への誇り」の多重比較 (H31~R4)

	差	有意確率	有意水準
R3-H31	▲ 0.11	0.0001	0.008333
R4-R3	0.10	0.0005	0.01
R3-R2	▲ 0.08	0.0059	0.0125
R2-H31	▲ 0.03	0.2550	0.016667
R4-R2	0.02	0.4711	0.025
R4-H31	▲ 0.01	0.6789	0.05

表 δ-13-1 「自然のゆたかさ」の多重比較
(H28~H31)

	差	有意確率	有意水準
H31-H30	▲ 0.05	0.02	0.0166667
H31-H29	▲ 0.05	0.02	0.025
H30-H29	0.00	0.85	0.05
H29-H28			
H30-H28			
H31-H28			

表 δ-13-2 「自然のゆたかさ」の多重比較
(H31~R4)

	差	有意確率	有意水準
R4-R2	0.07	0.0025	0.0083333
R4-R3	0.05	0.0219	0.01
R2-H31	▲ 0.05	0.0224	0.0125
R3-H31	▲ 0.03	0.1230	0.0166667
R3-R2	0.02	0.4318	0.025
R4-H31	0.02	0.4702	0.05

<参考>

参考1 県民の幸福感に関する分析部会運営要領

(設置)

第1条 岩手県総合計画審議会条例（昭和54年岩手県条例第29号）第7条の規定に基づき、岩手県総合計画審議会に県民の幸福感に関する分析部会（以下「部会」という。）を置く。

(所掌)

第2条 部会の所掌事項は、次のとおりとする。

- (1) 「県の施策に関する県民意識調査」等で把握した、県民の幸福に対する実感の分析に関すること。
- (2) その他いわて県民計画の推進に当たって必要な事項に関すること。

(組織)

第3条 部会は、岩手県総合計画審議会委員及び外部委員をもって組織する。

2 外部委員は、当該部会の所掌事項に関して十分な知識又は経験を有する者のうちから、知事が任命する。

(部会長及び副部会長)

第4条 部会に、部会長及び副部会長を各1名置く。

- 2 部会長は、委員の互選によって定める。
- 3 副部会長は、委員のうちから部会長が指名する。
- 4 部会長は、会務を総理し、会議の議長となる。
- 5 副部会長は部会長を補佐し、部会長に事故があるとき又は部会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(オブザーバー)

第5条 部会にオブザーバーを置くことができる。

- 2 オブザーバーは、知事が任命する。
- 3 オブザーバーは、必要に応じて会議に出席し、意見を述べることができる。

(会議)

第6条 部会は、知事が招集する。

- 2 部会は、委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことができない。
- 3 部会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(意見の聴取)

第7条 部会は、必要に応じて専門的知識を有する者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(庶務)

第8条 部会の庶務は、政策企画部政策企画課において処理する。

(補則)

第9条 この要領に定めるもののほか、部会の運営に関し必要な事項は、部会長が定める。

附 則

この要領は、令和元年6月6日から施行する。

附 則

この要領は、令和2年4月1日から施行する。

参考2 県民の幸福感に関する分析部会委員等名簿

氏名	現所属等	備考
吉野 英岐	岩手県立大学総合政策学部 教授	部会長
若菜 千穂	特定非営利活動法人いわて地域づくり支援センター 常務理事	副部会長
竹村 祥子	浦和大学社会学部 教授	
谷藤 邦基	岩手県立大学地域政策研究センター 客員教授	
Tee Kian Heng	岩手県立大学総合政策学部 教授	
山田 佳奈	岩手県立大学総合政策学部 准教授	
和川 央	岩手県立大学研究・地域連携本部 特任准教授	
広井 良典	京都大学 人と社会の未来研究院 教授	オブザーバー

参考3 令和4年度における部会開催状況等

月日	検討内容等
5月20日(木)	第1回部会開催 (1) 部会長・副部会長の選任について (2) 県民の幸福感に関する分析部会について (3) 県民の幸福感に関する分析方針(案)について (4) 分野別実感の分析について
5月27日(木)	第2回部会開催 (1) 分野別実感の分析について
6月23日(木)	第3回部会開催 (1) 分野別実感の分析について
6月30日(木)	第4回部会開催 (1) 分野別実感の分析について
7月27日(水)	第5回部会開催 (1) 分野別実感等の分析について (2) 「県民の幸福感に関する分析部会」令和4年度年次レポート(素案)について
10月24日(月)	第6回部会開催(予定) (1) 「県民の幸福感に関する分析部会」令和4年度年次レポート(案)について (2) 令和5年県民意識調査(補足調査)について
11月14日(月)	第101回総合計画審議会 で分析結果を報告(予定)

岩手県総合計画審議会「県民の幸福感に関する分析部会」
令和4年度年次レポート

発行 令和4年〇月

発行者 岩手県総合計画審議会 県民の幸福感に関する分析部会

事務局 岩手県政策企画部政策企画課

TEL 019-629-5181 FAX 019-629-6229

岩手県総合計画審議会「県民の幸福感に関する分析部会」 令和4年度年次レポート【概要版】

1 分析目的

- 県では、「いわて県民計画（2019～2028）」の第1期アクションプラン（政策推進プラン）の進捗管理に当たり、いわて幸福関連指標をはじめとする客観的指標の達成状況に加え、県民がどの程度幸福を実感しているかといった県民意識調査の結果や社会経済情勢を踏まえて政策を総合的に評価することにより、政策立案に反映させていくこととしている。
- 県民の幸福感に関する分析部会では、県民の幸福感を評価に反映させるため、令和4年1月から2月に実施した県民意識調査結果について、政策推進プランが始まる直前の平成31年（基準年）の調査結果と比較し、幸福に関する分野別実感の変動要因等について分析を行った。

2 分析対象

- 以下の「県民意識調査」で把握した県民の幸福に関する様々な実感について、「補足調査」の結果も踏まえながら、統計手法等を活用の上、分析を行った。

表 1 県民意識調査と補足調査

調査名	県の施策に関する県民意識調査	県の施策に関する県民意識調査（補足調査）
調査対象	県内に居住する18歳以上の男女	
対象者数	5,000人	600人（各広域振興圏150人）
抽出方法	無作為抽出	固定（H31調査回答者から抽出）
調査時期	毎年1～2月	
調査項目	主観的幸福感、分野別実感 等	主観的幸福感、分野別実感、分野別実感の回答理由 等

3 分析結果

(1) 主観的幸福感の分析結果

- 令和4年県民意識調査の結果によると、5段階の選択肢に応じて5点（幸福だと感じている）から1点（幸福だと感じていない）を配点したところ、県全体の実感平均値は、3.51点（基準年調査：3.43点）となり、主観的幸福感としては上昇。
- なお、「幸福だと感じている」又は「やや幸福だと感じている」と回答した人の割合は、県全体で56.6%となり、基準年調査より4.3ポイント上昇。また、「幸福だと感じていない」又は「あまり幸福だと感じていない」と回答した人は17.8%となり、基準年調査より1.5ポイント低下。
- 幸福を判断するに当たって重視した事項は、基準年以降継続して、1位が「健康状況」、2位が「家族関係」。
- 属性別に基準年調査と比較すると、以下の属性で主観的幸福感が上昇。
 - ・性別：「女性」
 - ・年代別：「50歳代」
 - ・職業別：「自営業主」及び「常用雇用者」
 - ・世帯構成別：「その他世帯」
 - ・子の数別：「3人」及び「子どもはいない」
 - ・居住年数別：「10年未満」及び「20年以上」
 - ・広域振興圏別：「県南広域振興圏」及び「県北広域振興圏」

図1 主観的幸福感の平均値（県計）の推移〔点数〕

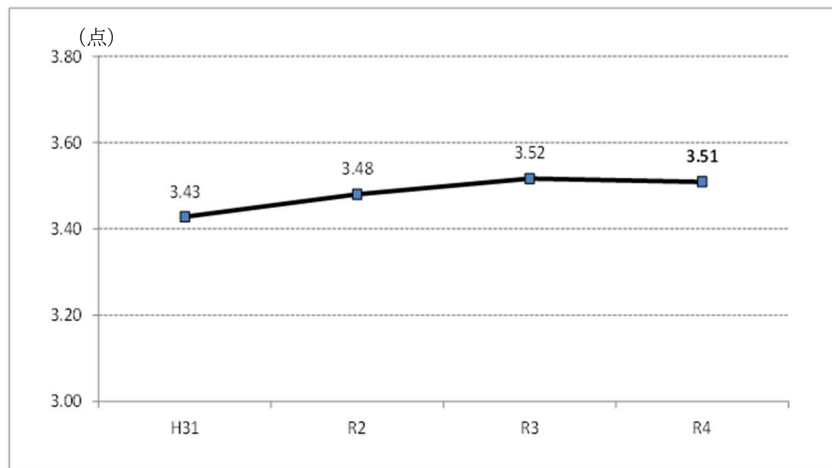
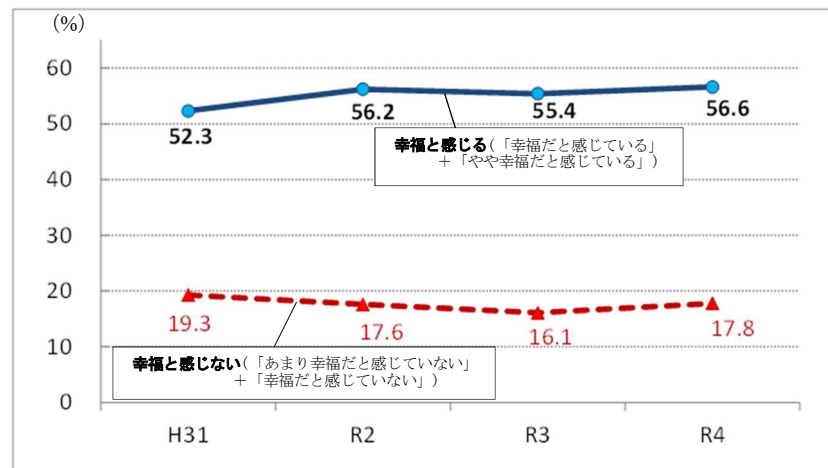


図2 主観的幸福感（県計）の推移〔割合〕



(2) 主観的幸福感に関連する12の分野別実感の分析結果

① 分野別実感の変動状況に係る分析結果

令和4年県民意識調査結果から得られた分野別実感の平均値を、政策推進プランの開始前である平成31年を基準とした場合、以下のとおり、上昇が4分野、横ばいが3分野、低下が5分野となった。

上 昇（4分野）：心身の健康、家族関係、子育て、子どもの教育

横ばい（3分野）：住まいの快適さ、歴史・文化への誇り、自然のゆたかさ

低 下（5分野）：余暇の充実、地域社会とのつながり、地域の安全、仕事のやりがい、必要な収入や所得

分野別実感が上昇した要因は、補足調査において実感が上昇した人の上位3位までの回答理由等から、表2のとおり推測された。

表2 分野別実感が上昇した要因分析結果

上昇した 分野別実感	基準年（H31）と令和 4年の実感平均値の差	推測される要因等
心身の健康	0.20 (3.20)	<p>【からだ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 睡眠・休養・しごと・学業・運動などの暮らしの時間配分（ワークライフバランス）が良かったこと イ 健康診断の結果が良かったこと ウ こころの健康状態が良かったこと <p>【こころ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 睡眠・休養・しごと・学業・運動などの暮らしの時間配分（ワークライフバランス）が良かったこと イ からだの健康状態が良かったこと ウ 仕事・学業におけるストレスが減ったこと エ 仕事・学業以外の私生活におけるストレスが減ったこと
家族関係	0.07 (3.91)	<ul style="list-style-type: none"> ア 会話の頻度が多いこと イ 同居（あるいは別居）がうまくいっていること ウ 困った時に助け合っていること
子育て	0.08 (3.16)	<ul style="list-style-type: none"> ア 子どもを預けられる人（親、親戚など）がいること イ 子どもを預けられる場所（保育所など）があること ウ 配偶者が家事に参加していること
子どもの教育	0.08 (3.18)	<ul style="list-style-type: none"> ア 人間性、社会性を育むための教育内容となっていること イ 学力を育む教育内容となっていること ウ 健やかな体を育む教育内容（体育、部活動の内容など）となっていること

（注）（ ）は、令和4年県民意識調査における実感平均値。

分野別実感が低下した要因は、補足調査において実感が低下した人の上位3位までの回答理由等から、表3のとおり推測された。

表3 分野別実感が低下した要因分析結果

低下した分野別実感	基準年 (H31) と令和4年の実感平均値の差	推測される要因等
余暇の充実	△0.09 (2.96)	ア 自由な時間が十分に確保できなかったこと イ 知人・友人との交流が減ったこと ウ 趣味・娯楽活動の場所・機会が減ったこと
地域社会とのつながり	△0.25 (3.10)	ア 隣近所との面識・交流が減ったこと イ 自治会・町内会活動（環境美化、防犯・防災活動など）への参加が減ったこと ウ その地域で過ごした年数が影響していること ^{注2}
地域の安全	△0.10 (3.72)	ア 自然災害の発生が多く、被害も大きくなっていること イ 自然災害に対する予防（堤防の建設、避難経路の確保など）が十分とは言えないこと ウ 犯罪の発生状況に不安があること エ 社会インフラの老朽化（橋、下水道など）に不安があること
仕事のやりがい	△0.12 (3.41)	ア 現在の収入・給料の額が十分とは言えないこと イ 現在の職種・業務の内容に不満があること ウ 将来の収入・給料の額の見込みに不安があること エ 就業形態（正規・非正規など）に不満があること オ 収入・給料以外の待遇・処遇（休暇・手当など）が十分とは言えないこと
必要な収入や所得	△0.07 (2.57)	ア 自分の収入・所得額（年金を含む）が十分とは言えないこと イ 生活の程度が十分とは言えないこと ウ 家族の収入・所得額（年金を含む）が十分とは言えないこと

（注1）「基準年 (H31) と令和4年の実感平均値の差」における（ ）は、令和4年県民意識調査における実感平均値です。

（注2）居住年数が10年未満及び20年以上の属性で実感が低下しており、又補足調査の「分野別実感の回答理由として関連の強い要因」において「その地域で過ごした年数」との回答が多かったことから、このような表現にしています。

② 分野別実感が一貫して高値又は低値で推移している属性とその要因

幸福感について調査を始めた平成 28 年から令和 4 年まで、あるいは政策推進プランが始まった平成 31 年から令和 4 年までにおいて、県民意識調査で得られた分野別実感で、一貫して高値（4 点以上）で推移している属性について、補足調査の結果、各分野別実感において「感じる・やや感じる」と回答した人の上位 3 位までの回答理由から、表 4 のとおり要因が推測された。

表 4 分野別実感が一貫して高値で推移している属性の要因分析結果

分野別実感	属性		実感平均値	推測される要因
家族関係	世帯構成	夫婦のみ	4.00～4.10	ア 会話の頻度が多いこと イ 困った時に助け合えていること ウ 同居（あるいは別居）がうまくいっていること
自然の ゆたかさ	全ての属性		4.02～4.59	ア 緑の量が豊かであること イ 空気が状態が綺麗であること ウ 水（河川、池、地下水など）の状態が綺麗であること

幸福感について調査を始めた平成28年から令和4年まで、あるいは政策推進プランが始まった平成31年から令和4年までにおいて、県民意識調査で得られた分野別実感で、一貫して低値（3点未満）で推移している属性について、各分野別実感において「感じない・あまり感じない」と回答した人の上位3位までの回答理由から、表5のとおり要因が推測された。

表5 分野別実感が一貫して低値で推移している属性の要因分析結果

分野別実感	属性		実感平均値	推測される要因
余暇の充実	年代	30歳代	2.71～2.88	ア 自由な時間を十分に確保できなかったこと イ 趣味・娯楽活動の場所・機会が少ないこと ウ 知人・友人との交流が少ないこと
		40歳代	2.82～2.88	
		50歳代	2.68～2.92	
	職業	常用雇用者	2.82～2.89	
	世帯構成	2世代世帯	2.80～2.98	
	子どもの数	子どもはいない	2.84～2.97	
	広域振興圏	県南広域振興圏※	2.90～2.97	
県北広域振興圏※		2.90～2.97		
子育て	子どもの数	子どもはいない	2.60～2.87	ア わからない（身近に子どもがいない、子育てにかかわっていないなど） イ 子どもの教育にかかる費用が高いこと ウ 子育てにかかる費用が高いこと エ 自分の就業状況（労働時間、休養、休暇など）に不満があること
子どもの教育	子どもの数	子どもはいない	2.80～2.98	ア 人間性、社会性を育むための教育内容が十分とは言えないこと イ わからない（身近に子どもがいない、子育てにかかわっていないなど） ウ 学力を育む教育内容が十分とは言えないこと エ 不登校やいじめなどの対応が十分とは言えないこと オ 図書館や科学館などが充実しているとは言えないこと
地域社会とのつながり	年代	20歳代※	2.77～2.95	ア その地域で過ごした年数が影響していること イ 隣近所との面識・交流が少ないこと ウ 自治会・町内会活動（環境美化、防犯・防災活動など）への参加が少ないこと
必要な収入や所得	会社役員・団体役員、居住年数10～20年未満を除く全ての属性		2.20～2.99	ア 自分の収入・所得額（年金を含む）が十分とは言えないこと イ 家族の収入・所得額（年金を含む）が十分とは言えないこと ウ 自分の金融資産の額が十分とは言えないこと

（注1）平成31年から令和4年県民意識調査において一貫して低値で推移している属性。

（注2）居住年数が10年未満及び20年以上の属性で実感が低下しており、又補足調査の「分野別実感の回答理由として関連の強い要因」において「その地域で過ごした年数」との回答が多かったことから、このような表現にしています。

【追加分析1】新型コロナウイルス感染症の各分野への影響と分野別実感の関連性の分析

令和4年県民意識調査において、分野別実感とそれに係る回答者の新型コロナウイルス感染症の影響実感について調査した結果から、新型コロナウイルス感染症の各分野への影響と分野別実感の関連性について分析を行った結果、以下のとおりとなりました。

分野によっては一定の相互関係（新型コロナウイルス感染症の影響について良い影響を感じる人ほど分野別実感が高く、良くない影響を感じる人ほど分野別実感が低いなど）が見られており、「新型コロナウイルス感染症の影響」が「分野別実感」に一定程度影響があったものと推測できます。

一方で、新型コロナウイルス感染症の感染拡大前（R2年調査）に比べて、分野別実感が低下した分野には、そうした相互関係が見られておらず、「新型コロナウイルス感染症の影響」と「分野別実感」の間に明確な関係性は確認できませんでした。

【分析結果】

- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大前との「分野別実感」の変動は、4分野（「子育て」「子どもの教育」「地域の安全」「自然のゆたかさ」）で実感が上昇し、1分野（「地域社会とのつながり」）で実感が低下し、7分野（「心身の健康」「余暇の充実」「家族関係」「住まいの快適さ」「仕事のやりがい」「必要な収入や所得」「歴史・文化への誇り」）で実感が横ばいとなりました。

- 「新型コロナウイルス感染症の影響」と「分野別実感」をクロス集計

新型コロナウイルス感染症の影響	分野別実感	
	分野	回答割合
良い影響を感じる	すべて	「感じる」 > 「感じない」
良くない影響を感じる	5分野（「からだの健康」「余暇の充実」「子育て」「住まいの快適さ」「必要な収入や所得」）	「感じる」 < 「感じない」
	それ以外	「感じる」 > 「感じない」

- 「新型コロナウイルス感染症の影響」別の「分野別実感」の平均値の比較

新型コロナウイルス感染症の影響	分野別実感	
	分野	「どちらともいえない+影響を感じない」の実感平均値との比較
良い影響を感じる	すべて	高い
良くない影響を感じる	2分野（「地域社会とのつながり」「歴史・文化への誇り」）	高い
	1分野（「子どもの教育」）	横ばい
	9分野（「心身の健康」「余暇の充実」「家族関係」「子育て」「住まいの快適さ」「地域の安全」「仕事のやりがい」「必要な収入や所得」「自然のゆたかさ」）	低い

【追加分析2】県民の幸福感の推移に係る分析

県民の幸福感については、県民意識調査において、平成28年から設問を設けて実感を把握してきており、政策推進プランの期間前（H28～H31）、期間中（H31～R4）に分けて、その推移を分析しました。

①主観的幸福感

政策推進プランの期間	実感変動	幸福実感の回答割合（%）	
		感じる	感じない
期間前	横ばい	51.3～55.4	18.3～19.3
期間中	上昇	52.3～56.6	16.1～19.3

○幸福かどうか判断する際に重視している項目は、一貫して1位が「健康状況」、2位が「家族関係」

②分野別実感

分野別実感	実感変動		期間中の実感変動の要因
	期間前	期間中	
①心身の健康	横ばい	上昇	ワークライフバランスが良くなっていることなど
②余暇の充実	上昇	低下	知人・友人との交流や趣味・娯楽の機会・場所の減少など
③家族関係	横ばい	横ばい	—
④子育て	上昇	上昇	子どもを預けられる人・場所があるなど
⑤子どもの教育	横ばい	上昇	人間性、社会性をはぐくむための教育内容の充実など
⑥住まいの快適さ	上昇	横ばい	—
⑦地域社会とのつながり	上昇	低下	隣近所との面識・交流や自治会・町内会活動への参加の減少など
⑧地域の安全	上昇	低下	自然災害の発生が多く、被害も大きくなっていることなど
⑨仕事のやりがい	横ばい	低下	現在の収入や給料の額が十分とは言えないなど
⑩必要な収入や所得	上昇低下	上昇低下	自分の収入・所得額が十分とは言えないなど (R2-R3では、特別給付金等の影響もあり上昇)
⑪歴史・文化への誇り	横ばい	横ばい	—
⑫自然のゆたかさ	横ばい	横ばい	—

図3 主観的幸福感の推移〔点数〕

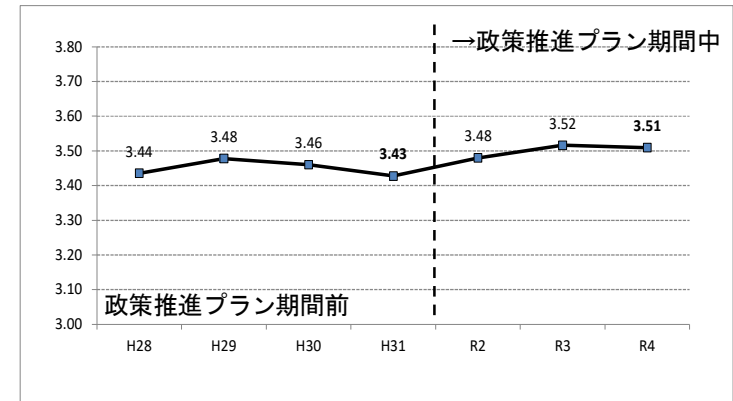
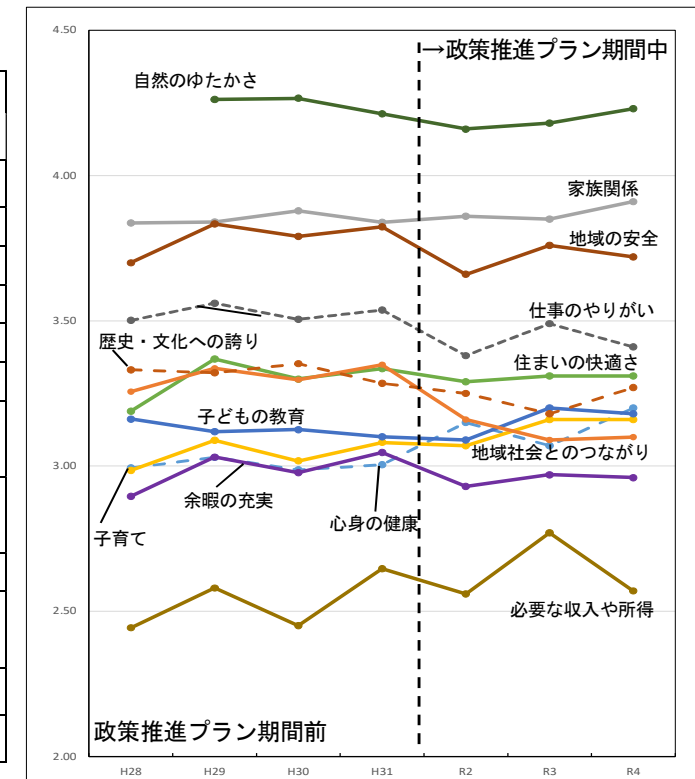


図4 分野別実感の推移〔点数〕



参考

1 県民の幸福感に関する分析部会委員等名簿

氏名	現所属等	備考
吉野 英岐	岩手県立大学総合政策学部 教授	部会長
若菜 千穂	特定非営利活動法人いわて地域づくり支援センター 常務理事	副部会長
竹村 祥子	浦和大学社会学部 教授	
谷藤 邦基	岩手県立大学地域政策研究センター 客員教授	
Tee Kian Heng	岩手県立大学総合政策学部 教授	
山田 佳奈	岩手県立大学総合政策学部 准教授	
和川 央	岩手県立大学研究・地域連携本部 特任准教授	
広井 良典	京都大学 人と社会の未来研究院 教授	オブザーバー

※敬称略

2 令和4年度における部会開催状況等

月日	検討内容等
5月20日(木)	第1回部会開催 (1) 部会長・副部会長の選任について (2) 県民の幸福感に関する分析部会について (3) 県民の幸福感に関する分析方針(案)について (4) 分野別実感の分析について
5月27日(木)	第2回部会開催 (1) 分野別実感の分析について
6月23日(木)	第3回部会開催 (1) 分野別実感の分析について
6月30日(木)	第4回部会開催 (1) 分野別実感の分析について
7月27日(水)	第5回部会開催 (1) 分野別実感の分析について (2) 「県民の幸福感に関する分析部会」令和4年度年次レポート(素案)について
10月24日(月)	第6回部会開催(予定) (1) 「県民の幸福感に関する分析部会」令和4年度年次レポート(案)について (2) 令和5年県民意識調査(補足調査)について
11月14日(月)	第101回総合計画審議会 で分析結果を報告(予定)